

2022年度 年間授業計画

Syllabus シラバス



はじめに

本冊子は2022年度のシラバスです。学年・教科・科目ごとに、授業の目標や内容などを示しています。私たち教員は、生徒のみなさんや保護者の方々に本校の教科の教育内容を公開して、理解して頂くことで、よりよい教育を目指したいと考えています。1年間に学ぶ学習の内容を知ること、計画的に学習するための参考にして下さい。また、6年間の学習内容を見通すことで、将来の進路を考えるときに役立てて下さい。

各科目のシラバスは、1科目1ページに収まるように、見やすく構成しています。また、各学年の扉ページには、授業風景や学校行事のようすなどを紹介しています。それぞれの学年の授業の一端に触れていただければと思います。扉の裏ページには、下記の内容のコラムを載せました。自分の学年だけでなく、是非、他の学年のページにも目を通して下さい。

1・2年カリキュラム／特別活動とシティズンシップ（市民的素養）の育成

3・4年カリキュラム／文科系か理科系か

5・6年カリキュラム／SSHとカリキュラム

シラバスを見るときに留意してほしいのは、記載されている内容は、あくまで予定（展開例）だということです。私たち教員は「授業は生（なま）もの」ととらえています。いつも「旬のもの」を生徒たちに届けようとしています。ですから、目の前にいる生徒のみなさんに合わせて、順番を入れ替えたり、最新の話題の教材を使ったり、理解度をチェックしながら時間を余分にかけたりすることがあります。

したがって、1年間が終わったときに、「シラバス通りでなかった」ということが起こるかもしれません。「おかしいな」と思うときには、遠慮なく担当の先生に尋ねてみてください。なぜ、シラバス通りでないのかを説明します。また、大学入学試験科目の変更やSSHなどの諸事情で、学年によってカリキュラムが変わることがあります。後期課程の科目登録の際には、「履修科目選択の手引き」と合わせてじっくり考えてください。

2017年度より、「65分授業（5コマ）」がスタートしました。これは、「じっくりと考えたり、なかまと協力したりして問題を解決することを通じて、学習の“質”を深める」ことをねらいとした新しい学習指導要領（国の目指す教育の指針）やそれにもとづく大学入試を意識したものです。また、90分程度が主流の大学の授業へのスムーズな移行をめざしたものでもあります。授業での話し合いや実験、創作活動、表現活動の時間が増えたり、予習や復習を授業内で行ったり、授業で扱った内容を使ってさらに高度な課題に取り組んだり、この枠組みを生かした様々な授業が行われています。また、2021年度の前期課程より、新しい教育課程が学年進行でスタートしました。シラバスも新しい教育課程にあわせて改編しています。授業を通してどのような能力を身につけてほしいのかを示しています。

この「65分」という時間をプラスとするかマイナスにするかは、生徒のみなさんの授業への姿勢にもかかっています。授業回数が少ない分、一つ一つの授業の価値はいままで以上に大きくなっています。授業を「受け身」に受け取るのではなく、みなさん自身が「問い」を持ち深める姿勢を忘れずに、授業に取り組んでください。

2022年4月

目次

| | |
|--------------------------------|-----|
| はじめに | 1 |
| 教科・科目一覧 | 3 |
| シラバスの見方 | 4 |
| 1年 | 7 |
| 1・2年カリキュラム | 8 |
| 2年 | 27 |
| 特別活動とシティズンシップ（市民的素養）の育成 | 28 |
| 3年 | 47 |
| 3・4年カリキュラム | 48 |
| 4年 | 67 |
| 文科系か理科系か | 68 |
| 5年 | 89 |
| 5・6年カリキュラム | 90 |
| 6年 | 113 |
| SSH とカリキュラム | 114 |
| 高大接続カリキュラム開発（PICASO コース） | 145 |

2022年度 教科・科目一覧

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|------|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|---|--|---|
| 国語 | 国語 | 国語 | 国語総合 | 現代の国語 言語文化 | 現代文 B 古典 B 古典講読 | 現代文 B 古典 B 古典講読 現代文特講 古典特講 |
| 社会 | 社会 (地理的分野) | 社会 (歴史的分野) | 社会 (公民的分野) 地歴総合 I | 地理総合 | 日本史 B 世界史 B 地理 B 倫理・政経 | 日本史 B 世界史 B 地理 B 倫理・政経 日本史特講 世界史特講 |
| 数学 | 代数 I 幾何 I | 代数 II 幾何 II | 解析入門 代数・幾何入門 | 解析 I 代数・幾何 I | 解析 I 代数・幾何 | 解析 II 数学演習 数学特講 |
| 理科 | 理科 1 理科 2 | 理科 1 理科 2 | 理科総合 化学入門 | 物理入門 生物入門 | 物理 化学 化学基礎 生物 | 物理 化学 生物 化学演習 生物演習 地学演習 |
| 体育 | 体育 | 体育 保健 | 体育 保健 | 体育 保健 | 体育 | 体育 |
| 創作 | 技術 家庭 音楽 美術 | 技術 家庭 音楽 美術 | 技術 家庭・家庭基礎 音楽 美術 | 家庭基礎 音楽 I 美術 I 工芸 I 書道 I | 音楽 I 美術 I 工芸 I 書道 I | 音楽 II 美術 II |
| 英語 | 英語 | 英語 | Topic Studies I Writing I | Topic Studies II (Reading) Writing II | Topic Studies III Reading Writing | Topic Studies IV Reading Writing |
| 総合など | 探究入門 I (情報と表現) (情報と科学) 道徳 | 探究入門 II (情報と表現) (情報と科学) 道徳 | 探究基礎 道徳 | 基盤探究 I 情報 I 統計入門 AG | 基盤探究 II (コロキウム) (科学探究) (社会貢献) (PICASO) AG | 基盤探究 (PICASO) 実践探究 |

シラバスの見方 (1~4年生)

| | | | | | | |
|-------------|---|--------------|----|------|------------|--|
| 学年 | 1 | 科目名 | 国語 | 使用教材 | 教科書 主教材 | |
| 理系・文系 共通 | | 必修・必修選択・自由選択 | | 副教材 | | |

※種別…必修、必修選択、自由選択

- ・必修：卒業するために必ず修得しなければならない科目
- ・必修選択：複数の科目の中から指定された単位数を選択し、必ず修得しなければならない科目
- ・自由選択：各自の進路や希望に応じて、自由に選択できる科目

| | | | | |
|-------|-------|------------------|------------------|-----------|
| 目標 | | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等 | 学びに向かう力・ 人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | | | | |
| 学習方法 | | | | |
| 評価の方法 | | | | |

※各科目の目標と、さらに各教科で定めている育てたい力を4つの観点に分けて、示しています。

※目標に基づいて、学習方法と評価の方法について説明しています。

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|------|-----|
| 1 学期 | | |
| 2 学期 | | |
| 3 学期 | | |

※上の表は、1年間の学習計画です。教科・科目によっては、題材や順序が変わることがあります。定期考査の範囲も授業の進度により、変更される場合があります。

シラバスの見方 (5・6年生)

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 4 | 国語総合 | 必修 | 5 |

※単位数…習得単位数を表しています（後期課程のみ掲載）

※種別…必修、必修選択、自由選択

- ・必修：卒業するために必ず修得しなければならない科目
- ・選択必修：複数の科目の中から指定された単位数を選択し、必ず修得しなければならない科目
- ・自由選択：各自の進路や希望に応じて、自由に選択できる科目

| 目標 | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 育てたい力 | 観点項目 1 | 観点項目 2 | 観点項目 3 | 観点項目 4 |
| | | | | |

※各科目の目標と、さらに各教科で定めている育てたい力をいくつかの観点に分けて、示しています。

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|------|-----|
| 1 学期 | | |
| 2 学期 | | |
| 3 学期 | | |

※上の表は、1年間の学習計画です。教科・科目によっては、題材や順序が変わることがあります。定期考査の範囲も授業の進度により、変更される場合があります。

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | |
| 学習活動の特徴 | |
| 教科書・主教材 | |
| 副教材 | |

※評価の方法や、使用教材、学習活動の留意点を示しています。

1年



4月 入学式



10月 一泊行事（長浜・近江八幡）

1・2年カリキュラム

中等教育学校の授業では、「教科」ごとに先生がかわります。教科によっては、複数の先生で担当する場合もあります。1・2年で大切なことは、教科学習の基礎・基本をしっかりと習得することです。

1 教科の基礎を学ぶ

シラバスを見ると、1・2年生では、「国語」「数学」「理科」というように、教科の名前の科目が多く、各教科の基礎となる内容を学習します。ただし「基礎＝容易」ということではありません。「基礎」がしっかりしていないと高度な建造物は築けません。また、本校は「高校入試」がないため、公立中学とは違った「道筋」で学ぶ教科も多いのが特徴です。

2 基礎・基本定着のために

言葉と知識を増やすこと、興味・関心を広げること、ノートをしっかりとること、資料をファイルに整理すること、日々頭脳のトレーニングをすること、提出期限を守ってレポートを出すこと等は、中等教育学校における大切な「生活習慣」です。こうした習慣が身につかなければ、基礎・基本は身につけません。また、試験のスタイルが、定期考査方式に変わります。普段の生活と試験前・中の生活を変えることです。さらに、休業期間中も含めると、3パターンの生活スタイルを築くことも大切なことです。

3 1・2年時の特色

全ての教科・科目等を共通に学びますが、いくつかの特色があります。2017度から1時間を65分授業で行っています。

- (1) 少人数授業 創作科（技術家庭分野）と保健体育の実技教科は30人授業です。1年理科は、実験器具の使い方の技術を高めるため、TA（ティーチング・アシスタント）制度を取り入れています。
- (2) 英語・数学 英語は、1,2年とも週2.5時間で通常の内容を進め、週1時間 Basic English で多読・多聴を行っています。数学は、1年で週3.5時間、2年では週3時間で通常の内容を、情報と科学（探究入門Ⅰ）で統計を扱い、レポート作成について学びます。
- (3) 総合学習「探究入門Ⅰ」「探究入門Ⅱ」の一部は、9月に集中して行います。「奈良」という地域を対象とした「探究」「表現」「情報活用」を重視した活動です。

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|------|------------------------|-------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 国語 | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 国語 1 (光村図書) |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 学習漢字ノート 1 光村図書版 (浜島書店) | |
| | | コマ数 | 2.5 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|--|---|--|
| 目標 | 将来の社会生活・言語生活を円滑に、また豊かに送るための基盤となる漢字や語彙をきちんと身につける。基礎的な読解力、言葉による表現力と聴解力を養い、言語文化に対する興味関心を持つ。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 基礎的語彙の理解と定着とともに、基本的な言語運用能力。言語文化に対する基礎的な理解。 | 文章に応じた読解の手順を身につけ、自分の伝えたいことを、様々な表現手段に応じて伝えられる力。 | 身につけたものの見方や考え方を言語生活に役立てる姿勢。他者との交流に対する意欲。言語文化への興味。 | テキストの多様性を知る力。交流を通じて他者の考え方の特徴や良い点を知る姿勢。 |
| 学習方法 | 教科書教材を丹念に読むことを中心に学習する。その中で、話し合いや文章表現などの言語活動を取り入れる。扱う教材に応じて、映像や関連教材も扱う。ICT活用も積極的に行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物などを総合的に評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・詩「朝のリレー」「野原はうたう」等 ・物語「シンシュン」「星の花が降るころに」等 ・説明文「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」「比喻で広がる言葉の世界」等 ・古典、歴史的仮名遣い、百人一首等 ・書写「いろはうた」、漢字 1、語彙 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある様々なジャンルの文章を読み、様々なものの見方や考え方に触れ、読解力を身につけるとともに自分の考えを表現する力を養う。また、意見交流で他者の考え方の特徴を知る。 ・歴史的仮名遣い、漢字や語彙、書写を学ぶことによって、言語文化に興味を持つ。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・物語「大人になれなかった弟たちに…」等 ・記録文「言葉をもつ鳥、シジュウカラ」等 ・意見文「不便」の価値を見つめ直す」等 ・古典「蓬萊の玉の枝」等 ・文法への扉 1.2 ・漢字 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容をわかりやすく提示するための、資料の使用法や引用法を学ぶ。 ・情景や行動の描写を通して登場人物の心情を読み取り、物語の構成や場面の工夫をとらえる。 ・古典の面白さを知り、古典世界に親しむ。 ・ことばのきまりを学び、言語文化に親しむ。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・小説「少年の日の思い出」「坊っちゃん」等 ・古典「今に生きる言葉」等 ・文法への扉 3 ・漢字 3、語彙 | <ul style="list-style-type: none"> ・比較的長い小説を読むことで、ストーリー展開の工夫や人物の心情の変化をとらえる。 ・故事成語を知ること、古典の面白さを知る。 ・漢字や語彙、ことばのきまりに興味を持つ。 |

| | |
|----|----------------------------------|
| 備考 | 時間割に提示される「国語 1」「国語 2」を総合して記しています |
|----|----------------------------------|

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|------|----------------------|--|
| 学年 | 1 | 科目名 | 社会（地理的分野） | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 『社会科 中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院） |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 『アドバンス 中学地理資料』（帝国書院） | |
| | | コマ数 | 2.5 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|--|---|---|
| 目標 | 日本と世界について一般教養レベルの知識を獲得し、理解を深める。 資料活用能力を育成するとともに、自分の意見を表現する能力を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等 | 学びに向かう力・ 人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | ・地域構成と自然的・社会的環境に関する基本知識の理解 ・地図、表、グラフなどから地理情報を読み取り、まとめる技能 | ・諸資料を活用し、地理に関する事象の意味や意義等を考察する力 ・考察した内容を自らの意見もふまえて適切に表現する力 | ・知的好奇心を持って主体的に調べ、諸課題を意欲的に探究する力 ・世界の多様性について共感的に理解しようとする力 ・地理的諸課題の解決に主体的に関わる力 | ・他者と協働し、他者の意見もふまえながら自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 ・歴史的・現代的な諸課題と教科の学びとをつなげて理解し、社会へと視野を広げる力 |
| 学習方法 | 教師の講義を中心としつつ、作業、生徒発表、生徒相互の討議等を取り入れることを心がける。また、基礎的な知識の獲得をめざすとともに、共感的理解が得られる方法も探る。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度、定期考査、小テスト、提出物、発表などを基に、総合的判断で評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | 1. 地形図の読図 2. 地球と人間 3. 世界と日本の地形 4. 世界と日本の気候 5. 世界地誌 | ・行事との連携を視野に入れ、地形図の読図によって自然的・社会的環境についての認識を深める。 ・地理的広がり・地形について認識する。 ・気候と人間生活との関わりの深さを理解する。 ・世界の諸地域の学習により、均衡のとれた国際感覚を身につけることをめざす。 |
| 2 学期 | 5. 世界地誌（つづき） 6. 日本地誌 | ・系統的に学習活動を進めることで、日本地理の知識を整理する力と論理的思考力を身につける。 |
| 3 学期 | 7. 世界から見た日本 8. 人類的課題と私たち | ・日本が国際社会に果たすべき役割を考える。 ・現代日本の諸問題を世界と関連させて扱い、人類の生存のために何が大事かを考える。 |

| | |
|----|---|
| 備考 | 持ち物／教科書・地図帳・資料集・ノート・ファイル・色鉛筆 参考書等／各種地理関係の文献・紀行文などを授業で紹介する。 |
|----|---|

| | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|------|--------------------------|---------------------------------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 代数 I | | 使用教材 | 教科書 主教材 | これからの数学 1 (数研出版) 体系数学 1 代数編 (数研出版) |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 体系問題集 数学 1 代数編 発展 (数研出版) | |
| | | コマ数 | 2 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|--|--|--|
| 目標 | 正・負の数や文字、方程式、比例などを用いて、いろいろな事象を数学的に表現することができる。中学年・高学年へつながる基礎的な知識・技能や数学的な考え方等を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 正負の数、文字式の計算の意味やその方法を、これまでの数の四則計算と関連づけて理解することができる。 | 正負の数、文字式の計算や方程式を解くことができ、それらを用いて、いろいろな事象を表現できる。 | 数学の歴史を通じて、記述代数の巧みさと記号代数の簡潔さ、素晴らしさを感じることができる。 | 数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。 |
| 学習方法 | 操作や実験活動も行いながら、代数計算に習熟するように学習する。この学習は、数学の基礎・基本をなすものであるから、ドリル的な側面も重視した学習活動を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|------|---|--|
| 1 学期 | 1. 正の数と負の数 (中 1) 正負の数、加法と減法 乗法と除法、課題学習 2. 文字を用いた式 (中 1) 文字を使った式 文字式の計算 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 負の数の意味を知り、正負の数に関する四則演算のきまりを理解し、これらの計算に習熟する。 文字の意味を理解し、さまざまな数量を文字で表すことができる。 文字式の計算のきまりを理解し、その計算に習熟する。 単項式、多項式などの用語の意味を理解し、多項式の四則計算の方法を理解し、その計算に習熟する。 |
| 2 学期 | 3. 1 元 1 次方程式 (中 1) 方程式 1 次方程式の利用 課題学習 4. 連立 2 元 1 次方程式 (中 2) 連立方程式 連立方程式の利用、課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 式の値を求めることができる。 1 元 1 次方程式と、その解の意味を理解する。 等式の性質を理解し、その性質を利用して 1 元 1 次方程式を解けるようになり、習熟する。 加減法や代入法を使い、連立方程式を能率的に解くことができる。 |
| 3 学期 | 5. 比例・反比例 (中 1) 関数とは、比例と反比例 比例・反比例の利用 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> ともなって変わる 2 つの数量間の関係を表や式で調べ、関数の意味を理解する。 負の数まで拡張し、比例・反比例の関係を理解する。 比例・反比例を利用して、具体的な事象を考察することができる。 |

| | |
|----|----------------------------|
| 備考 | 「探究入門 I」の授業と組み合わせて行うこともある。 |
|----|----------------------------|

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|------|--------------------------|---------------------------------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 幾何 I | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | これからの数学 1 (数研出版) 体系数学 1 幾何編 (数研出版) |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 体系問題集 数学 1 幾何編 発展 (数研出版) | |
| | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|----------------------------------|--|--|
| 目標 | 図形に関する基本的な知識・理解をもとに、証明の方法を習得して論理的に表現することができる。中学年・高学年へつながる基礎的な知識・技能を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 操作的活動を通じて、平面図形や空間図形の基本的性質を理解することができる。 | 演繹的な推論の進め方や考え方を理解し、自ら展開することができる。 | 探究活動を通じて、図形の性質を見いだそうとする。初等幾何学の普遍性と論理性を味わうことができる。 | 数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。 |
| 学習方法 | 主教材やプリントを中心に学習を進めていく。「1.予想→2.操作・実験→3.直観的に理解→4.論理的に説明・証明→5.拡張・一般化」の数学的活動を重視し、授業を展開する。なお、1.2.においては、グループ活動を取り入れる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポートなど | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 1. 空間図形を楽しむ 多面体とオイラーの定理 課題学習 2. 平面図形 (中 1) 直線と角 基本的な作図 | <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙やポリドロンで空間図形に親しむ。立体を作り、その美しさを感じる。 ・正多面体の種類数を体験的、直観的に考察する。 ・ユークリッド『原論』を通じて、ギリシャ数学の考え方に触れる。 ・直線や角について、基礎となる事項を習得する。 ・具体的な課題を考え、基本的な作図方法を発見し、その方法を習得する。 |
| 2 学期 | 円と扇形の計量 対称性, 課題学習 3. 空間図形 (中 1) 直線や平面の位置関係 柱体・錐体の表面積・体積 球の表面積・体積 4. 図形の合同 (中 2) 三角形の合同条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・円の基本的な性質を理解する。 ・空間における直線や平面の位置関係、空間の直線と平面のなす角について理解する。 ・面が動いて立体をなすこと、回転体について理解する。 ・実験や展開図から、柱体・錐体・球などの表面積や体積の公式を導き、求められる。 ・三角形の合同条件を導き、それを利用して三角形の合同を証明できるようになる。 |
| 3 学期 | 二等辺三角形 直角三角形の合同条件 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形の合同条件を導き、合同の証明をすることができるようになる。 ・四角形の内角の和を、様々な方法で求められる。 |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|------|--------------------------------------|-----------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 理科 I | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「中学校 科学 1」 学校図書 |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 「基礎をきづく理科」 浜島書店 「実験ハンドブック」 本校作成教材 | |
| | | コマ数 | 1 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|--------------------------------|--|
| 目標 | 身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。 | 身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。 | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。 | 身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。 |
| 学習方法 | 授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 身の回りの物質 1. 身の回りの物質とその性質 2. 水溶液の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 純物質にはそれぞれ固有の密度や融点・沸点があることを理解し、物質を特定することができる。 物質の溶解のしかたについて、粒子モデルを用いて説明できる。 |
| 2 学期 | 3. 水溶液の溶解度と再結晶 電流の世界 1. 静電気と電流 | <ul style="list-style-type: none"> 溶解や再結晶を溶解度曲線から説明できる。 静電気のはたらきから、電気の間にはたらく力は2種類あることとともに、電気の符号について理解する。 |
| 3 学期 | 2. 電流の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 電流の正体は電子の流れであることを理解する。 電気回路の仕組みと電流、電圧のはたらきについて理解する。 |

| | |
|----|------------------------|
| 備考 | ティーチングアシスタント(TA)を導入する。 |
|----|------------------------|

| | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|------|------------|--|
| 学年 | 1 | 科目名 | 理科 2 | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「中学校 科学 1」 学校図書 |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 「基礎をきづく理科」 浜島書店 「改訂版 地学基礎」 啓林館 「実験ハンドブック」 本校作成教材 |
| | | コマ数 | 2 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|--------------------------------|--|
| 目標 | 身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。 | 身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。 | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。 | 身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。 |
| 学習方法 | 授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | いろいろな生物とその共通点 1. 生物の観察と分類のしかた 2. 植物の分類 3. 動物の分類 | <ul style="list-style-type: none"> 生物を観察するための基本スキルを身につける。 身の回りの動植物に親しみ、それらの共通点や相違点に気づき、分類の観点を理解する。 |
| 2 学期 | 大地の変化 1. 活動する地球 2. 自然との共生（災害） 3. 移り変わる地球 4. 地球史の読み方 5. 地球と生命の進化 | <ul style="list-style-type: none"> マグマの性質の違いや、火山岩と深成岩の組織の違いなどから、火山活動について理解する。 地震の伝わり方を理解し、震源地の特定を試みる。 地表のゆっくりとした営みを実感することにより、地質学的な時間の流れが分かるようになる。 |
| 3 学期 | 物質の性質 1. 気体の性質 2. 物質の姿と状態変化 | <ul style="list-style-type: none"> 気体の発生方法とその性質について理解する。 物質の状態変化を、粒子モデルから説明できる。 物質の融点・沸点の違いを利用して、混合物から純物質を単離できることを理解する。 |

| | |
|----|------------------------|
| 備考 | ティーチングアシスタント(TA)を導入する。 |
|----|------------------------|

| | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|------|------------|---|
| 学年 | 1 | 科目名 | 英語 | | 使用教材 | 教科書 主教材 | Here We Go! 1 (光村図書) Active phonics (正進社) |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 徹底演習テキスト英語中1 (受験研究社) Ace Crown (三省堂) 自作プリント |
| | | コマ数 | 3.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|--|---|
| 目標 | <p>英語の音声的特徴を理解し、標準的な発音を身につける。</p> <p>英語特有の統語構造を理解・活用し創造的な言語使用を行う。</p> <p>英語の定型表現や基本的語彙を使って、相手の意見を聴き取ったり、自分の意見を話したりする。</p> <p>学習方法を意識し、基礎的な学習習慣をつける。</p> | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 日常生活の身近な話題についての学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけ、コミュニケーションで活用することができる。 | 目的・場面・状況等に応じて、身近な話題について、必要な情報を選択・整理するとともに、初歩的な英語やジェスチャーなどの非言語的手段を用いて、情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。 | 異なる言語やその背景にある文化に関心を持ち、理解し尊重しようとする。協力して言語活動に積極的に取り組もうとする。 | ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で英語を学ぼうとする。自己の学習態度を振り返り、自ら学習する習慣を身につける。 |
| 学習方法 | <p>授業は主に英語を用いて進められ、英語で聞き、英語で応答することを目指す。</p> <p>授業中はペアやグループで英語を用いた活動を行う。</p> <p>英語学習の基礎基本となる語句については、小テストで確認する。</p> | | | |
| 評価の方法 | 定期考査・発表・小テスト・長期休業後課題確認テスト・提出物・授業参加 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 辞書の使い方 phonics アルファベット ローマ字 数字 名詞 (単数・複数) 指示代名詞 be 動詞 形容詞 一般動詞 頻度を表す副詞 can | 文字を正しく読めるようになる。 使える語句を増やす。 日常生活の場面で英語を使う力を身につける。 |
| 2 学期 | 3単現 疑問詞 be 動詞の過去形 一般動詞の過去形 | 身近な人のことについて伝える力を身につける。 過去の出来事や感想を伝える力を身につける。 |
| 3 学期 | 接続詞 代名詞 命令文 現在進行形 There is /are の文 | さまざまな話題や形式の文に触れ、言葉の使用場面と意味、形やルールを整理して、適切に使えるようになる。自分のことや日常生活についてまとまりのある内容を伝え合うことができる。 |

| | |
|----|---------------------------------------|
| 備考 | 上に書かれた教材の他にプリントが配布される。ファイルに綴じて管理すること。 |
|----|---------------------------------------|

| | | | | | | | | |
|-------------|-----|------|------------|--|--|------|-------------------|------------------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 技術 | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「技術・家庭科 技術分野」 (開隆堂) |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 「情報モラル」 (数研出版) | |
| | コマ数 | 0.75 | 単位数 | | | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|--------------------------------|--------------------------------|
| 目標 | 科学・技術への興味・関心を高め、生活を向上させる姿勢と技能を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等 | 学びに向かう力・ 人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 材料・工具、生物育成に関する基礎的知識と技能の獲得。 | 製作の中で問題と向き合い、考え、技能を活かし、評価・改善し、解決する力の獲得。 | ものづくりや生物育成を通じ、科学・技術への意欲と態度の育成。 | ものに対する興味・関心を製作・育成意欲に結びつける力の育成。 |
| 学習方法 | 実物教材を多く用い、素材に触れることを行いながら材の性質を学ぶ。基本的な工具については実技指導を行い、安全な使用と効率的に作業を進めるコツを学ぶ。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・実技・自己評価 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|--|--|
| 半期 | <ul style="list-style-type: none"> 材の性質 木材・金属・プラスチックなどの身近な材料について特徴を学ぶ。 工具の使用 鉋・鋸・玄翁など基本的な工具について、使用方法を学ぶ。 製作実習 木材を用いた課題制作を行う。 植物の栽培 プランター栽培や芝生の育成を行う。 技術とくらし | <ul style="list-style-type: none"> 材の特徴を知り、製作を行うときに適した材料を選択し、加工できる力をつける。 社会の中でその材料が使用されるとき活かし方や環境問題などの関連を知り、材の使い方への評価と選択を行う力をつける。 基本的な工具について安全かつ効率的な使用技能を習得する。 工具の中に活かされている工夫を科学的な視点から理解することができる。 設計から製作、検査、改善といった流れを経験し、プロジェクトの進め方を学ぶ。 作品に自身の利用方法に応じた独自の工夫や仕上げなど作品としての表現を行う。 植物の手入れの技能や知識を習得する。 育成環境と環境問題について考える力をつける。 技術が生活や産業に果たしている役割を考える力をつける。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|-----------|-----|--|-------|--------------------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 家庭 | | | 使用教科書 | 技術・家庭 家庭分野（開隆堂） |
| 理系・文系 | | 必修 | 必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 自作プリント 裁縫用具を準備してください。 |
| 共通 | | コマ数 | 0.75 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|--|-------------------------|
| 目標 | 家庭生活への関心を深め、家族・家庭、衣生活についての基礎的な知識と技能を習得し、生活の自立を図る力を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 家族・家庭の基本的な機能、地域との関わりについての理解。 衣服の機能、選択、管理、製作についての基礎的な知識と技能。 | 家庭生活や地域社会の中から課題を見だし、考え解決する力。 衣生活についての課題を見だし、考え解決する力。 | 家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度。 衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 | 学びを応用させて、家庭生活や衣生活に生きる力。 |
| 学習方法 | 座学と被服実習とを組み合わせ、家族と家庭生活や衣生活の内容を中心に学習する。 被服実習については被服教室で学習する。安全に留意し、事故のないよう使用方法を守って実習する。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・発表・実技・作品の技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|--|
| 半期 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭生活 ・衣服の機能 ・衣服と社会生活 ・被服製作の基礎・基本と応用 裁縫用具・ミシンの使い方 被服作品製作など ・被服材料の種類と特徴 ・被服管理と環境 ・衣服の計画的な活用と選択 ・これからの衣生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員としての自覚をもって、家庭の仕事に協力する姿勢を養い、生活的自立を図り、創意工夫する態度を身につける。 ・衣服の役割を理解して、T.P.O.に合った衣服を選ぶ態度を身につける。 ・被服製作に際し、用具の基本的操作技術を習得する。 ・構成を考えて簡単な被服作品を製作し、創造する喜びや達成感を体験する。 ・被服材料の種類や特徴、被服管理の方法を学び、被服の選択・購入・着装・管理に応用できる力を身につける。 |

| | |
|----|------------------------------|
| 備考 | 技術・家庭の授業のうち、技術と半分ずつの時間を学習する。 |
|----|------------------------------|

| | | | | | | | | |
|----|-------------|-----|-----------|-----|--|------|------------|-------------------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 音楽 | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「中学生の音楽 1」「中学生の器楽」教育芸術社 |
| | 理系・文系 共通 | 必修 | 必修選択・自由選択 | | | 教材 | 副教材 | 配布プリント、鍵盤ハーモニカ、ギター |
| | | コマ数 | 1 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 音楽の基礎知識・技能を習得する。自己の感性と他者の感性を認める。多様な価値に触れる。表現の喜びを得る。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 音楽の構造や歴史的背景等から多面的に楽曲を理解する。歌唱や器楽表現における基礎技能を習得する。 | 適切な楽曲理解を基に、根拠を持って独自の表現を考えることができる。自発的な感性に基づいて音楽表現を工夫できる。 | 楽曲のよさや美しさを味わい、人に伝えることができる。多様な感じ方を認めることができる。 | 音や音楽に関心をもち主体的に音楽表現や鑑賞を楽しむ力。音楽理解と基礎技能を自己の表現力へと結びつける力。 |
| 学習方法 | 多様な表現に触れる。表現の独自性を探究する。随時小編成のアンサンブルを行い、表現の工夫について互いに話し合う活動を取る。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、発表・実技、ワークシート等 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | 1.曲のまとまりと構成 2.曲の標題と曲想 「四季」より《春》等 3.旋律線を活かした表現の工夫 《浜辺の歌》／《夏の思い出》等 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲の構造をもとに曲想を感じ取り、表現を工夫する力を身につける。 ・鑑賞を通して曲の特徴をとらえ、音楽のよさや美しさを味わう力を身につける。 ・フレーズの特徴をとらえ、音楽表現の基礎的な技能を身につける。 |
| 2 学期 | 4.合唱による表現 5.歌詞内容と曲想 《赤とんぼ》等 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで一つの音楽表現を作り上げる過程で、互いの個性や感性を認め合いながら、高い協調性に裏付けされた表現を目指す。 ・歌詞の内容、時代背景などを手掛かりに、より深い音楽表現を行う。 |
| 3 学期 | 6.リズム創作 7.多様な表現 《魔王》等 | <ul style="list-style-type: none"> ・拍子やリズム、記譜法など楽典基礎を理解し、独自のリズムを創作できる。 ・歌詞の世界観と音楽の結びつきを理解し、様々な歌手を聴き比べながら表現の多様性を味わう。 |
| 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラシック音楽の歴史と発展 ・発声法、器楽奏法 ・楽典基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・教養としての音楽史を学び、音楽への興味関心を高める。 ・思いや意図を適切に音に反映できるよう、基礎的な技能を身につける。 ・表現や鑑賞に取り組む上での基礎知識として、各学習を通じて学ぶ。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|--------------|-----------------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 美術 | | | 使用教科書 主教材 | 「美術1 美術との出会い」(日本文教出版) |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 「美術資料」 |
| | | コマ数 | 1 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|--------------------------------------|--|------------------------------------|
| 目標 | 美術の基本的な知識・技能を習得し、美術に親しむ態度を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 素材や技法を通じた体験や発見を大切にし、自らの表現に活かす。 | 観察や構成の基礎的知識を身につけることによって視覚の客観性について学ぶ。 | 作品制作において、創意工夫を重ね、自分自身の好みやオリジナリティを理解する。 | 主題について理解し、作品制作を主体的に捉え、向上心を持って取り組む。 |
| 学習方法 | ○様々な素材や技法を使い、主題に基づいた作品制作を行う。 ○習得した知識や技能を活用し、自らの考えや思いを作品に反映させられるよう取り組む。 ○主題が類似した過去の美術作品を鑑賞し、作品制作に必要な教養を身につける。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・課題プリント及び作品の提出 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | 平面表現(作図) ○土で絵の具を作る/描く ○鑑賞「洞窟壁画」 ○遠近法/透視図法の理解・作図 ○鑑賞「遠近法の発明」 | ◇素材・材料の特性を理解する。 ◇造形史の始まりを体験する。 ◇透視図法について理解し正確な作図ができる。 ◇「見え方」や「見方」について考える。 |
| 2 学期 | 平面表現(色彩構成) ○色はなぜ見えるのか ○色相環・補色のはたらき ○色の三属性【色相・明度・彩度】 ○色の組み合わせによる視覚イメージの変化 ○三原色の理解と混色方法 ○鑑賞「印象派の色彩」 | ◇色の持つ性質やはたらきを理解する。 ◇色の構成力を養う。 ◇アクリルガッシュ絵の具の素材や技法について知る。 ◇アクリルガッシュ絵の具の混色方法を習得する。 |
| 3 学期 | 映像表現(タブレットを使用した色彩構成) ○タブレットアプリ「Adobe Creative Cloud Express」を使用した作品制作を行う(主題「色立体」・「春夏秋冬」)。 | ◇2学期に身につけた色についての知識・技能を活用し主題に合わせ適切に選び配置することができる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|--------------|------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 体育（男子） | | | 使用教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 特になし |
| | | コマ数 | 2.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 基礎的な運動能力と体力の定着を図る。運動の楽しさや喜びを味わう。 学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等 | 学びに向かう力・ 人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 運動を楽しむことができるような各種基本技 能。自分と周囲の安全 への配慮と理解。 | 他者への気づきと思い やりの思考と行動。集 団内での適正な判断 力。自己のからだを感 じることができる力。 | 自ら進んで運動に親し む、楽しむ能力や態度。 「できない」ことを恐 れずに挑戦しようとす る姿勢。 | 「なかま」と協力して ともにステップアップ しようと行動する力。 |
| 学習方法 | 教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてはいけない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐし、体づくり運動 ・ハンドゲーム ・スイミング | <ul style="list-style-type: none"> ・各種運動やゲームを通し、これからの学校生活を共にする「なかま」との出会いを豊かにする。 ・各種運動の基礎となる「からだの動き」を身につける。 ・球技の基礎を簡単なゲームを楽しみながら学ぶ。 ・各種泳法の基礎を学ぶこと。水中での危険性を学び、自他の安全を確保する力を身につける。 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ダンス ・ジムナスティクス ・ハンドゲーム | <ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて「表現する」楽しさを体感する。 ・自分のからだと相談しながら、「表現」することの面白さを体感する。 ・攻防の楽しさを理解しながら、なかまとともにゲームを楽しむ。 |
| 3 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングスキル ・フットゲーム | <ul style="list-style-type: none"> ・なめらかな動きで早く走ることや、ペースを守り一定の距離を走る力を身につける。 ・足でボールを扱うことの難しさと面白さを体験し、自らのからだの変化を体感する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|--------------|------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 体育（女子） | | | 使用教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 特になし |
| | | コマ数 | 2.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 基礎的な運動能力と体力の定着を図る。運動の楽しさや喜びを味わう。 学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行うこと。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等 | 学びに向かう力・ 人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 運動を楽しむことができるような各種基本技 能。自分と周囲の安全 への配慮と理解。 | 他者への気づきと思 いやりの思考と行動。集 団内での適正な判断 力。自己のからだを感 じることができる力。 | 自ら進んで運動に親し む、楽しむ能力や態度。 「できない」ことを恐 れずに挑戦しようとす る姿勢。 | 「なかま」と協力して ともにステップアップ しようという行動力。 |
| 学習方法 | 教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてははいけ ない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・ジムナスティックス ・ハンドゲーム ・スイミング | <ul style="list-style-type: none"> ・各種運動やゲームを通し、これからの学校生活を共にす る「なかま」との出会いを豊かにする。 ・各種運動の基礎となる「からだの動き」を身につける。 ・自らの体やその動きに意識を向け、身体で表現すること の面白さを体感する。 ・球技の基礎を簡単なゲームを楽しみながら学ぶ。 ・各種泳法の基礎を学ぶ。また、水中で自他の安全を確保 する能力を育成する。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドゲーム ・ダンス | <ul style="list-style-type: none"> ・攻防の楽しさを理解しながら、仲間とともにゲームを楽し む。 ・リズムに合わせる、振り付けの創作など、身体を動かし 「表現」することの楽しさを体感する。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングスキル ・フットゲーム | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースを守り一定の距離を走り続ける力を身につ ける。 ・足でボールを扱うことの難しさや面白さを体験し、基礎 的な動きを身につける。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------------|-----|------|------------|------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 探究入門Ⅰ (情報と表現) | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 自作プリントなど | |
| 共通 | | コマ数 | 0.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|------------------------------------|-------------------------------|---|
| 目標 | 新聞などの身近なメディアの表現の工夫に気づきながら、自分が調査したことや、感じたこと・考えたことなどを他者に分かりやすく伝えるための表現力と技能を身につける。コンピュータやタブレットの基礎的な使用方法を学び、簡単な文書やポスターなどを作成できるようになる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 語彙を増やし、適切な表現力を身につける。メディア・リテラシー学習から、日常の言語感覚を養う。 | 伝える場面、相手や目的に応じた表現を工夫し、文書を作成する力を養う。 | 他者に自分の意見を分かりやすく伝えるという意識を持つこと。 | 実際の新聞記事や書籍などに触れること。他者の発表を聞くこと。基礎的なコンピュータ操作ができること。 |
| 学習方法 | 国語の授業とリンクした形で有機的に学ぶ。課題に応じて、手書きから、デジタルタイピング、効果的な編集、画像の貼り付け等、技能を段階的に習得していく。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・提出物・レポートなど | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | ①「自分新聞」(自己紹介文)を扱う ②国語の授業のレポート課題について、手書きのものをタイピングしながらタイピングの練習をする。 ③読書ボード作成の方法を学ぶ(夏休み課題) | ①初めて会った人に伝わりやすい文章を書く方法を考える。写真やイラストなども用いた効果的な表現について知る。 ②MS Wordなどの基本的な使い方を知る。タイピングの基本的な技能を習得する ③既に本校で作られた読書ボードを見て、その表現の工夫を学ぶ。 |
| 2 学期 | ②夏休みに製作した読書ボードをデジタルコンテンツに作り直す。 ②国語の授業のレポート課題について、手書きを経ず、最初からデジタルタイピングにより作成する。 | ②文字入力やフォント選択、写真の貼り付け、段組などの基礎的な編集技術を学ぶ。 ③手書きとデジタルの文書作成のそれぞれの特徴と違いについて意識的に理解させる。文書の作成技能をさらに向上させる。 |
| 3 学期 | ⑤「クラス新聞」をグループ活動で作成する。 ・クラスのPR ・学年の耳より情報 ・その他 | ③実際の新聞記事を分析して、その表現の工夫を学ぶ。 ・他者と協働して一つの課題を完成させる。協力と調整の経験をさせる。 |

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------------|--|------|------------|---------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 探究入門Ⅰ (情報と科学) | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 自作テキスト等 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 自作テキスト等 | |
| 共通 | コマ数 | 0.5 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|---|--|---|---|
| 目標 | 表の整理やグラフの作成、情報の収集や検索など、コンピュータやインターネットを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得する。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解することができる。 資料を収集し、コンピュータを用いて処理できる。 | ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を考察することができ、さらに表やグラフで表現することができる。 | 目的に応じて資料を収集し、代表値などを用いてその資料の傾向を読み取ろうとする。 | 実際のデータをもとに、コンピュータでの処理ができ、それを発表し、他者が発表を聞くことができる。 |
| 学習方法 | 実験やグループ活動、コンピュータ実習を取り入れた授業を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | 1. コンピュータの使い方 情報の収集や検索 2. レポート作成・発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを使用していく上での基礎的な操作方法を習得する。 ・必要な情報を収集し、分析することができる。 ・ワープロソフトを用いて、レポートを作成する方法を学ぶ。 |
| 2 学期 | 3. 資料の散らばりと代表値（中1） ヒストグラムと代表値 さまざまなグラフとその特徴 四分位数、箱ひげ図 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて資料を収集し、その資料の傾向を読み取ることができる。 ・ヒストグラムや代表値の必要性と意味を理解する。 ・箱ひげ図を用いて資料の傾向を読み取ることができる。 |
| 3 学期 | コンピュータの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトを用いて、データを整理・加工する方法を学ぶ。 ・データに応じて適切なグラフを選択し、活用することができる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | | |
|-------------|---|-----|------------|-----|--|------|------------|------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 探究入門Ⅰ | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 特になし | |
| | | コマ数 | 集中 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|---|--|---|--|
| 目標 | 文化、歴史、自然環境など多様な側面から郷土奈良を知り、世界遺産に登録された奈良の文化財を次世代に伝えることの意義や課題を考察して、他者に伝える表現力を育成する。特に、1・2年次では見学・観察・聞き取りなどの調査活動を重視し、その活動の中で探究活動の学び方の基礎を学び、他者に伝えるための表現技法の習得を目指す。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する力 | 身近なところから問いを見出だし、自分で課題を建て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力 | 主体的・協働的に取り組み、互いのよさを活かしながら積極的に社会に参画しようとする力 | 自身の興味・関心を教科等の枠を超えて横断的・総合的に捉え、考えを広げ深めようとする力 |
| 学習方法 | 短期集中講座で、フィールドワークを中心とした活動を行う。教師はサポート役として、適宜アドバイスや指導をする。 クラス授業もしくは複数分割授業／グループ活動／講義・実習・発表・討論 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・発表・課題の到達度・他者評価・自己評価 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|--|
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産としての奈良の文化的意義について学ぶ。 ○各自、および各グループが設定したテーマについて調べ、表現する ・さまざまな角度から、テーマをとらえる ・観察・調査の結果をまとめ、発表する ・他者評価・自己評価を行い、活動を振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ・見学や観察を中心に行い、「見る・観る」の力をつける。特に、探究活動の導入として次のような資質・能力の習得・育成を目指す。 ・フィールドワーク活動や他の調査活動における基礎的・基本的な態度や能力を習得する。 ・コミュニケーション能力・表現力・総合的にまとめる能力、自己評価能力を育成する。 <p>「探究入門Ⅰ（情報と科学、情報と表現）」で学んだ、情報収集や検索、表の整理やグラフの作成、プレゼンテーションなどのスキルを活用する。</p> |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

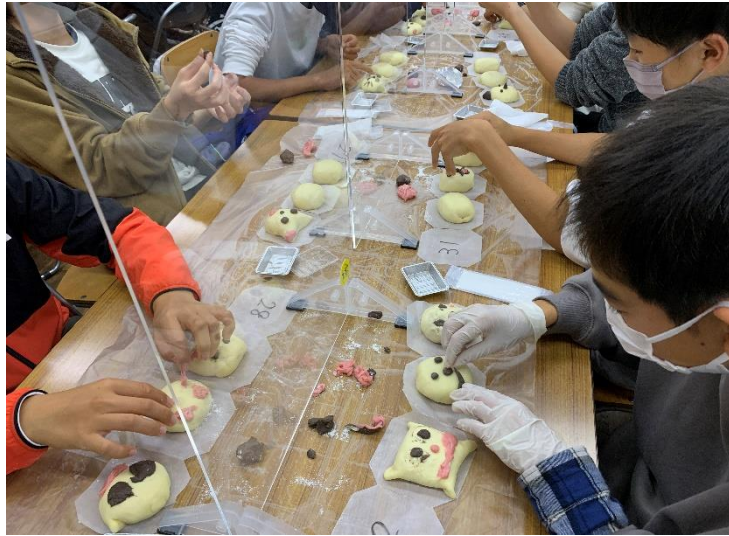
| | | | | | | | |
|-------------|-----|-----|------------|--|------|------------|----------------------------|
| 学年 | 1 | 科目名 | 道徳 | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「中学道徳 あすを生きる1」 (日本文教出版) |
| 理系・文系 共通 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 特になし | |
| | コマ数 | 1 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|--|---|--|
| 目標 | 自立した人間として他者と共によりよく生きるために、物事をさまざまな方向からとらえ、議論することを通して、自分の生き方や他者、社会との関わり方を深く考え、行動することができる。 【1年生の重点目標】 個性を尊重し、主に利己心と利他心の理解と相克について考えることを重点目標とする。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 集団や社会におけるきまりやマナー、権利や義務について理解し、自分の関わり方を深く考えることができる。 | 主張が対立する諸価値について考え、議論し、自分ならどうするかを判断する力を養う。 | 身近な問題をテーマに授業を展開し、主体的に学ぶ力や道徳的心情を豊かに育み、良好な人間関係の尊さについて深く考えることができる。 | 他者の意見を「聴く」とと、自分の意見を「語る」ことを通じて、周囲と協働して学び合う力を育む。 |
| 学習方法 | グループで議論したり、自分の考えを文章にしたりしながら、考えを深めていく。ただし、学習内容に記載した教材や授業方法については、学年の行事とのかかわりや学校生活の状況等を踏まえて変更することがある。 | | | |
| 評価の方法 | 授業者による評価、自己評価、他者評価等を総合的に判断し、文章による評価を行う。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|---|
| 1学期 | 自分自身について考える ・ダイヤモンドランキングを作る 情報モラルについて考える | <ul style="list-style-type: none"> ・個人の意見を発言や文章で表現する。 ・相手の立場を尊重し他者を思いやり、その場にふさわしい言動をとろうとする態度を育てる。 |
| 2学期 | 他者との関わりについて考える ・「二人の約束」 ・怒りの感情と上手につき合おう ・「いじめ」って何？ | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方の変化を振り返る。 ・他者との対話を大切にして、議論や意見交換に積極的に参加する。 ・身の回りの情報に興味・関心をもつ。 |
| 3学期 | 集団や社会との関わりについて考える ・「公平と不公平」 ・「違いを乗り越えて」 ・ひょうたん島問題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ある事柄について、複数の視点から情報を分析して考察する |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

2年



上：全レク（豚まん作り体験）



左：全レク（神戸市内散策）



右：球技大会

下：学園祭（舞台発表）



特別活動とシティズンシップ（市民的素養）の育成

ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を総称して、学校では「特別活動」と呼んでいます。授業時間はわずかですが、ヒドゥンカリキュラム（隠れたカリキュラム）とも呼ばれ、「教育の質」を決定するほどの重要な活動と指摘する学者もいます。

本校では、「特別活動」に「道徳」及び「部活動（いわゆるクラブ）」を有機的に連携させることで、「シティズンシップ（市民的素養）」を育成することを目標にしたいと考えています。なお、ホームルームの時間と道徳の時間は、融合して活用しています。

1 ホームルーム活動

生徒の学校生活の母体となるのが、ホームルームです。生徒の人間関係づくりの基礎となる場所です。週1時間のHRの時間は、行事の準備、学年集会、各種ガイダンス、人権教育等さまざまな目的で利用されています。これからの時代を生きるための市民的素養の育成にとって何が必要かを考えながらホームルーム活動をしていきます。

2 生徒会活動

前期課程生徒会と後期課程生徒会があり、協力しながら活動しています。生徒会長、副会長、学芸部長、体育部長、生活部長が選出され、執行部を構成しています。執行部へのチェック機能を果たすのが代議員会です。取り組み課題は、代議員会の議論を経て生徒会の最高議決機関である全生徒参加の生徒大会の審議へとかけられていきます。本校の生徒会活動は、制服廃止や頭髪規定の改定、海外支援への取り組みなどの実績と伝統があります。

3 学校行事

(1) 宿泊行事 1年：一泊行事 3年：スキー行事（3泊4日）

5年：修学旅行（4泊5日行き先は、固定されていません）があります。

(2) 年間行事 学芸クラブ発表会（4月）、球技大会（6月）、学園祭（9月）、体育大会（10月）等があり、学年をこえた取り組みも盛んです。

上級生になるにしたがって、生徒の自主的運営に任される場面が増えていきます。

4 部活動

特別活動以外のいわゆるクラブのことで、クラブ総数は運動系7、学芸系6です。前期・後期課程一体での活動が原則ですが、対外試合との関係から、前・後期、男・女別で4チームに分かれているクラブもあります。クラブには、生徒会から予算が配分されています。

クラブへの加入率は1年～3年までは高く90%程度ですが、後期課程に入ると徐々に下がります。同好会の数は、運動系1、学芸系7です。

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------------|--|
| 学年 | 2 | 科目名 | 国語 | | 使用教科書 主教材 | 「国語 2」光村図書 | |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 | とくになし | |
| 共通 | | コマ数 | 2.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|---|--|---|--|
| 目標 | 1年次に育んだ基本的な読解力をもとに多様な文章と触れ合うなかで、より幅広い読解力を身につけていくとともに、自国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 基本的な語彙と、相手に伝えることを意識した言語運用を理解し、身につけている。 | 段落に注意して文章を構造的に把握するとともに、目的に応じた適切な表現方法を選定することができる。 | 学びを日常に活かそうとする姿勢をもち、言葉を通して社会や歴史などをとらえようとする態度をとる。 | 複数のテキストを関連付けて読み、他者の意見を吟味し、自身の意見に活かすことができる。 |
| 学習方法 | 主として講義形式だが、必要に応じてタブレット型端末を使用し理解の促進を図る。また、対話的な学びを適宜実施する。 | | | |
| 評価の方法 | 学習意欲・態度・小テスト・定期考査・提出物を総合的に加味する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 小説「アイスプラネット」 椎名誠 問いを立てながら聞く 古文「枕草子」 清少納言 報告「クマゼミ増加の原因を探る」 沼田英治 短歌・解説「短歌に親しむ」 栗木京子 | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を注意して読み、人物どうしの関係やそれぞれの考え方を読み取ることができる。 他者の意見を傾聴する力を身につける。 作者のものの見方や感じ方に触れ、現代との共通点や相違点を考えながら鑑賞する。 文章の構成を理解し、文章と図表との関係にも注意して読むことができる。 多様な語句に着目し、語感を磨く。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 随筆「字のない葉書」 向田邦子 聞き上手になろう 根拠の適切さを考えて書こう 評論「君は最後の晩餐を知っているか」 布施英利 | <ul style="list-style-type: none"> 随筆の特徴を理解し、文章の表現から筆者の想いを考えることができる。 自分の意見を明確に伝えるために適切な根拠を選定することができる。 文章の構成における具体と抽象を理解する。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 古文『平家物語』 小説「走れメロス」 太宰治 漢詩・解説「漢詩の風景」 古文「仁和寺にある法師」『徒然草』 | <ul style="list-style-type: none"> 和漢混合文の独特な調子を音読し、味わう。 語句や表現の効果などに着目し、作品の魅力を考えることができる。 古典の文章表現に慣れ、作品を読み味わう。 |

| | |
|----|----------------------------------|
| 備考 | 時間割に提示される「国語 1」「国語 2」を総合して記している。 |
|----|----------------------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|---------------------------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 社会（歴史的分野） | | 使用教科書 主教材 | 『中学歴史 日本と世界』（山川出版社） 『詳述歴史総合』（実教出版） |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 | 副教材 自作プリントなど |
| 共通 | | コマ数 | 3 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-----------|---|---|--|--|
| 目標 | 20世紀初頭までの日本と世界の歴史を扱い、基礎的な知識を得るとともに、資料の読解・活用を通じて論理的・歴史的な思考力を養う。 | | | |
| | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等 | 学びに向かう力・ 人間性等 | 学びを活性化する力 |
| 育てたい 力 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史と世界の歴史に関する基本知識の理解。 歴史に関する情報を文字資料や図像資料などから読み取り、まとめる力。 | <ul style="list-style-type: none"> 諸資料を活用し、歴史事象とその背景、および因果関係について多面的・多角的に思考し考察し、その内容について、自分なりの考えを整理し、表現する力。 | <ul style="list-style-type: none"> 歴史上の諸事象や身近な地域の歴史、世界の多様な文化や生活について知的好奇心を持って主体的に調べ、諸課題を意欲的に探究する力。 | <ul style="list-style-type: none"> 他者と協働し、他者の意見もふまえながら自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力。 |
| 学習方法 | 講義によって基礎的な知識の獲得と歴史の変化に関わる事象の相互の関連についての把握をめざす。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、その成果をもとに意見交換や議論を行うようなペアワークやグループワーク時間を設ける。 | | | |
| 評価の方法 | 定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | 古代までの日本と世界 ＜日本＞ ・日本列島における国家成立～律令国家の形成 ・律令国家の発展と変容（武士の登場） ＜世界＞ ・世界の古代文明、各文明圏の統一 | 日本が世界史の中で存在感を発揮するようになるまでの歴史について、日本の諸事象だけでなく、世界史の内容を充実させることで、社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、知識相互をつなげ関連付けながら理解する。 |
| 2 学期 | 中世から近代までの日本と世界 ＜日本＞ ・武家政治の展開と変容 （鎌倉幕府～室町幕府～織豊政権～江戸幕府） ＜世界＞ ・世界の一体化 ・欧米の市民革命と国民国家の形成 | 時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察し、歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する。 諸資料を読み解きながら、目的に応じて必要な情報を見出だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、多様な他者と協働しながら、答えのない課題に対して納得解を見出だしたりすることができるようにする。 |
| 3 学期 | 近代の日本と世界 ・アジアの変容と日本の近代化 （新政府の成立と諸改革～立憲国家の成立） ・帝国主義の時代 （日清戦争～日露戦争～辛亥革命） | |

| | |
|----|----------------------------------|
| 備考 | 2名の教員で担当し、通史学習と主題学習を組み合わせながら進める。 |
|----|----------------------------------|

| | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------|--|--------------|-------------------------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 代数Ⅱ | | 使用教科書 主教材 | これからの数学2 (数研出版) 体系数学2 代数編 (数研出版) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 体系数学2 代数編【発展】(数研出版) |
| 共通 | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|--|--|--|
| 目標 | 正・負の数や平方根、文字、方程式・不等式を用いて、さまざまな事象を数学的に表現して、解決することができる。伴って変わる2つの数量間の関係を表や式で調べ、関数の意味を理解できる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 文字式、方程式・不等式を用いて、いろいろな事象を簡潔かつ明瞭に表現でき、正確かつ能率的な計算を行える。 | 文字の役割を説明することができ、「働き」としての関数、「変数」としての文字を理解し表現することができる。 | 数的計算から文字式の計算へと拡張すること、計算記述代数の巧みさと記号代数の簡潔さ・素晴らしさを知る。 | 数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。 |
| 学習方法 | 実験活動やグループ活動も行いながら、代数計算に習熟することを目指す。 この力は、数学の基礎をなすものになるため、ドリル的な側面も重視した学習活動を行っていく。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポートなど | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|--|
| 1学期 | 1. 不等式 (数学Ⅰ) 不等式 不等式の利用 連立1次不等式とその利用 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 不等式の性質について理解する。 1次不等式や連立不等式を正確に解くことができる。 具体的な事象の考察に1次不等式や連立不等式を活用できる。 |
| 2学期 | 2. 1次関数 (中2) 1次関数 1次関数と方程式 課題学習 3. 数と式 (中3) 式の展開と因数分解 式の計算の利用 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 変化の割合とグラフの傾きとの関係を関連づけられる。 2元1次方程式のグラフを解の集合ととらえることにより、連立方程式の解と関連づけられる。 乗法公式を用いて展開ができる。 多項式の因数分解ができる。 式の展開や因数分解を利用して、数や図形に関する問題を解決できる。 |
| 3学期 | 4. 平方根 (中3, 数学Ⅰ) 平方根、根号をふくむ式の計算 有理数と無理数 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 根号を用いた数の表し方や、計算方法について理解する。 有理数と無理数について理解し、実数の概念を理解することができる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|-----------------------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 幾何Ⅱ | | 使用教科書 主教材 | これからの数学2（数研出版） 体系数学2 幾何編（数研出版） |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 体系数学2 幾何編【発展】（数研出版） |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|----------------------------------|--------------------------|--|
| 目標 | 図形に関する基本的な知識・理解をもとに、証明の方法を習得して論理的に表現することができる。 中学年・高学年へつながる基礎的な知識・技能を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 操作的活動を通じて、平面図形や空間図形の基本的性質を理解することができる。 | 演繹的な推論の進め方や考え方を理解し、自ら展開することができる。 | 探究活動を通じて、図形の性質を見いだそうとする。 | 数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。 |
| 学習方法 | 主教材や自作プリントを中心に学習を進めていく。「1.実験→2.予想→3.証明→4.拡張・一般化」の数学的活動を重視し、授業を展開する。なお、1.においては、コンピュータ実習やグループ活動を取り入れる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポートなど | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | 1. 平行四辺形（中2） 平行四辺形の性質 平行四辺形になるための条件 特別な平行四辺形 2. 図形の相似（中3） 相似な図形、三角形の相似条件 | <ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の性質について、理解する。 平行四辺形の成立条件について、論証できる。 いろいろな四角形の関係・性質を理解する。 相似条件を合同条件と対比しながら理解する。 |
| 2 学期 | 相似な図形の面積比・体積比 3. 平行線の性質（中3、数学A） 平行線と線分の比 中点連結定理 角の二等分線の性質 等積変形 メネラウスの定理 | <ul style="list-style-type: none"> 相似比を用いて、面積・体積の計算ができる。 平行線の性質や角の二等分線の性質を理解する。 平行線や三角形を利用して、等積変形の作図ができる。 |
| 3 学期 | 4. 三角形の五心（数学A） 三角形の五心 チェバの定理 | <ul style="list-style-type: none"> 三角形の五心の性質を理解する。 |

| | |
|----|---------------------------|
| 備考 | 「探究入門Ⅱ」の授業と組み合わせて行うこともある。 |
|----|---------------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 理科 I | | 使用教科書 主教材 | 「中学校 科学2」学校図書 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 | 「基礎をきづく理科」浜島書店 |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | 「実験ハンドブック」本校作成教材 |

| | | | | |
|-------|---|---|--------------------------------|--|
| 目標 | 身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。 | 身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。 | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。 | 身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。 |
| 学習方法 | 授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------|---|---|
| 1～2学期 | 電流の性質とその利用 1. 電流の性質 2. 電流の正体 | <ul style="list-style-type: none"> 電気回路の基本的な性質を理解し、日常生活と関連づけて電流についての理解を深める。 実験を通して、電圧と電流との間の規則性を見だし、オームの法則について理解する。 静電気のはたらきから、電気の間にはたらく力は2種類あることとともに、電気の符号について理解する。 電流の正体は電子の動きであることを理解する。 |
| 3学期 | 3. 電流と磁場 | <ul style="list-style-type: none"> 電流から光、音、熱などのエネルギーを取り出せることや、電力の概念を理解する。 電流のつくる磁場の仕組みを理解する。 電流が磁場から力を受けることを理解する。 |
| 通年 | 化学変化と原子・分子 1. 水溶液の性質 2. 物質のなりたち 3. 物質を表す記号 4. さまざまな化学変化 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろな水溶液の特徴や性質を理解する。 身のまわりの物質を作っている成分について理解する。 原子や分子のモデルによって化学変化を説明できること、化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化が簡潔に記述できることを理解する。 |

| | |
|----|--------------------------------|
| 備考 | 学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。 |
|----|--------------------------------|

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|------|------------------|----------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 理科 2 | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「中学校 科学2」学校図書 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 「基礎をきづく理科」浜島書店 |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | | 「改訂版 地学基礎」啓林館 |
| | | | | | | 「実験ハンドブック」本校作成教材 | |

| | | | | |
|-------|---|---|--------------------------------|--|
| 目標 | 身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。 | 身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。 | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。 | 身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。 |
| 学習方法 | 授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | 動植物の生きるしくみ 1. 生物のからだと細胞 2. 植物のつくりとはたらき | <ul style="list-style-type: none"> 生物の単位が細胞であることを理解する。 各器官の基本的なはたらきについて学び、個体としての生命維持の仕組みを理解する。 根・茎・葉のつくりと働きを水分と栄養の移動を中心に理解し、光合成のはたらきについても学ぶ。 |
| 2 学 期 | 3. 動物のつくりとはたらき 天気とその変化 1. 気象要素の変化と天気 | <ul style="list-style-type: none"> 主に脊椎動物の刺激と反応について学び、運動の仕組みについて理解する。 動物の実際の器官を確認し、生命の尊さを考える。 気象観測を通して、天気の要素について学ぶ。 |
| 3 学 期 | 2. 空気中の水蒸気 3. 前線と高気圧、低気圧 4. 四季の天気 | <ul style="list-style-type: none"> 露点や湿度について学び、雲の発生条件について理解する。 大気の大循環、そして海水の循環について学び、天気の変化の仕組みを理解する。 日本の天気について理解する。 |

| | |
|----|--------------------------------|
| 備考 | 学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。 |
|----|--------------------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|---------------------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 英語 | | 使用教科書 主教材 | Here We Go! 2 (光村図書) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 徹底演習テキスト英語 中2 (受験研究社) 自作プリント |
| 共通 | | コマ数 | 3.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|--|---|--|
| 目標 | <p>英語の音声的特徴を理解し、標準的な発音を身につける。</p> <p>英語特有の統語構造を理解・活用し創造的な言語使用を行う。</p> <p>英語の定型表現や基本的語彙を使って、相手の意見を聴き取ったり、自分の意見を話したりする。</p> <p>学習方法を意識し、基礎的な学習習慣をつける。</p> | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | <p>日常生活の身近な話題についての学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけ、コミュニケーションで活用することができる。</p> | <p>目的・場面・状況等に応じて、身近な話題について、必要な情報を選択・整理するとともに、初歩的な英語やジェスチャーなどの非言語的手段を用いて、情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。</p> | <p>異なる言語やその背景にある文化に関心を持ち、理解し尊重しようとする。協力して言語活動に積極的に取り組もうとする。</p> | <p>ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で英語を学ぼうとする。自己の学習態度を振り返り、自ら学習する習慣を身につける。</p> |
| 学習方法 | <p>授業は主に英語を用いて進められ、英語で聞き、英語で応答することを目指す。</p> <p>授業中はペアやグループで英語を用いた活動を行う。</p> <p>英語学習の基礎基本となる語句については、小テストではほぼ毎時間確認する。</p> | | | |
| 評価の方法 | <p>授業態度・定期考査・小テスト・長期休業後課題確認テスト・提出物 パフォーマンステスト</p> | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|-------------------------------------|--|
| 1 学 期 | 未来を表す表現、助動詞、過去進行形 | 自分の言葉で話す力を伸ばす。 その場で会話する力を伸ばす。 使える語句を増やす。 |
| 2 学 期 | to不定詞、動名詞、形容詞・副詞、比較(比較級・最上級・as as)、 | 日常生活の場面で英語を使う力を伸ばす。 さまざまな国の文化に触れ、視野を広げる。 |
| 3 学 期 | 受動態、現在完了 | さまざまな話題や形式の文に触れ、 読み方を身につける。 言葉の使用場面と意味、形を理解して適切に使えるようにする |

| | |
|----|--|
| 備考 | 上に書かれた教材の他にプリントが配布される。1年次配布したファイルに綴じて管理すること。 |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|-----|------|------------|--|--------------|------------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 技術 | | 使用教科書 主教材 | 「技術・家庭科 技術分野」 (開隆堂) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 「情報モラル」 (数研出版) |
| 共通 | コマ数 | 0.75 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|-----------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 目標 | 科学・技術への興味・関心を高め、生活を向上させる姿勢と技能を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 製図法についての知識と技能の獲得及びプログラムの基礎的な理解。 | 立体を平面で表す手法を学び、自ら意図したものを表現する能力の獲得。 | 手順を追って正確に粘り強く創造する意欲と態度の育成。 | 表現できる力を設計から製作へと展開する能力へと結びつける力の育成。 |
| 学習方法 | 製図 (CAD を含む) を行うことで、立体を図面に表す意義と技法を学ぶ。プログラミングの考え方を学ぶ。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・提出物・実技・自己評価 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|---|
| 半期 | <ul style="list-style-type: none"> 製作図の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ものの基準と概念 キャビネット図法 等角図法 第三角法 CADソフトの利用 <ul style="list-style-type: none"> コンピュータを利用した制御 プログラムの役割 <ul style="list-style-type: none"> プログラミングのはたらき フローチャートの活用 基本的なプログラミング | <ul style="list-style-type: none"> 構想の全体像を把握しながら、部品形状を明らかにするという製図を描く意義を意識し、基本的な製図法を習得する。 3つの図法を学び、表したいものに適した図法を選択し、表現できる能力を身につける。 コンピュータを用いて設計をおこなう基本的な技能を習得する。 情報処理の手順を考え、プログラムの基礎的技能について学ぶ。 フローチャートの書き方を学び、プログラミングへの活かし方を知る。 プログラミングの基本構造となる「順次」「繰り返し」「分岐」について学び、基本的なプログラミング技能を身につける。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|-----------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 家庭 | | 使用教科書 主教材 | 技術・家庭 家庭分野（開隆堂） |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 自作プリント |
| 共通 | | コマ数 | 0.75 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|--|---|--------------------------|
| 目標 | 家庭生活への関心を深め、食生活や消費生活と環境問題についての基礎的な知識と技能を習得し、生活の自立を図る力を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 食生活（食事・栄養など）・消費生活についての基本的知識。 日常食の調理と食文化についての基礎的な知識と技能。 | 食生活についての課題を見だし、考え解決する力。 消費生活と環境についての課題を見だし、考え解決する力。 | 食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度。 | 学びを発展させて、食生活や消費生活に応用する力。 |
| 学習方法 | 座学と実験・実習とを組み合わせ、食生活や消費生活と環境問題の内容を中心に学習する。調理実験・実習については調理教室を使用する。使用上の注意を守り、安全と清潔に留意して実習を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・実技・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|---|
| 半期 | 食生活 <ul style="list-style-type: none"> ・食生活点検 ・栄養と健康 ・栄養素と食品群 ・食品の選択 ・調理の基礎・基本 家庭生活 <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活と環境問題 ・環境に配慮した家庭生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の食生活をふり返り、栄養バランスを考えた食生活のあり方を理解し、健康な生活リズムを身につける。 ・身の回りの食品についての関心を深め、適切な食品の選択ができる知識や態度を身につける。 ・簡単な日常食の調理ができる技術を習得し、自分で作ったものを味わう喜びや家族のために作る気持ちを養う。 ・家庭生活と環境との関連について関心を持ち、環境に配慮した家庭生活のあり方について考え実践する態度を養う。 |

| | |
|----|------------------------------|
| 備考 | 技術・家庭の授業のうち、技術と半分ずつの時間を学習する。 |
|----|------------------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|----------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 音楽 | | 使用教科書 主教材 | 「中学生の音楽2・3上」「中学生の器楽」 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 配布プリント、鍵盤ハーモニカ、ギター |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 音楽の基礎技能を用い、自己と他者の感性の調和を図ることができる。作曲技法を含む音楽理論の概要を理解し、創造の喜びを得る。音楽を通して独自の感性を表現する能力を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 歌唱や器楽の基礎的技能の習得。楽曲の構造を理論的に解釈することができる。 | 自発的な感性に基づいて音楽表現を工夫できる力。楽曲に相応しい表現を工夫する力。 | 楽曲のよさや美しさを味わい、人に伝えることができる。多様な感じ方を認めることができる。 | アンサンブル活動等により自己と他者の感性の調和を図り、協力して新たな表現の可能性を模索することができる。 |
| 学習方法 | 器楽や歌唱表現では、模倣ではなく独自の表現の確立を目指す。鑑賞では聴き比べを多く行い、出来るだけ多様な表現に触れる。随時小編成のアンサンブルを行い、多様な感性の調和を図るべくグループで話し合う機会を多く設ける。楽譜打ち込みソフトや作曲ソフトなどを用いて作曲を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、発表・実技、ワークシート等 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | 1.旋律と歌詞の関連性 2.世界の諸民族の音楽 3.曲の特徴を生かした歌唱 《サンタ・ルチア》等 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞内容と曲想との関係を理解して表現を工夫する。 ・身近なアジア地域を含めた世界の音楽について、日本の民謡や郷土芸能と比較しながら、多様な文化価値を認め尊重する姿勢を身につける。 ・速度、強弱の変化を工夫しながら独唱する力を身につける。 |
| 2 学 期 | 4.旋律創作 カノン進行に基づく旋律づくり等 5.合唱による表現の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・リズム創作で学習したことをもとに、独自の感性を旋律作品として表現できる。 ・クラスで一つの音楽表現を作り上げる過程で、互いの個性や感性を認め合いながら高い協調性に裏付けされた表現を目指す。 |
| 3 学 期 | 6.旋律の重なりを意識した鑑賞及び器楽表現 《小フーガ ト短調》等 | <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の重なりに着目して鑑賞し、鍵盤ハーモニカなどの器楽アンサンブルの表現工夫に生かす。 |
| 通 年 | <ul style="list-style-type: none"> ・クラシック音楽の歴史と発展 ・発声法・器楽奏法 ・楽典基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・教養としての音楽史を学び、音楽への興味関心を高める。 ・思いや意図を適切に音に反映できるよう、基礎的な技能を身につける。 ・表現や鑑賞に取り組む上での基礎知識として、各学習を通じて学ぶ。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|--------------|----|-----|------|--------|-----------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 美術 | | 使用教材 | 教科書 | 「美術 2 上 学びの実感と広がり」 |
| | | | | | | 主教材 | 「美術 2 下 学びの探究と未来」(日文) |
| 理系・文系 | | 必修・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 「美術資料」 | |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|--------------------------------------|--|--|
| 目標 | 美術の基本的な技法を習得し、美術に親しむ態度を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 素材や技法を通じた体験や発見を大切にし、自らの表現に活かす。 | 観察や構成の基礎的知識を身につけることによって視覚の客観性について学ぶ。 | 作品制作において、創意工夫を重ね、自分自身の好みやオリジナリティを理解する。 | 作品制作のコンセプトについて考え言語化することによって、制作を自覚的にとらえ向上心を持って取り組む。 |
| 学習方法 | ○様々な素材や技法を使い、主題に基づいた作品制作を行う。 ○完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。また、課題に合わせテーマが類似した過去の美術作家の作品を鑑賞し、自らの作品の表現をさらに向上させる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・課題プリント及び作品の提出 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|------|--|---|
| 1 学期 | 立体表現（粘土造形） ○自らの手を題材とした粘土造形 ○多方向からの手のスケッチ ○形態や質感、量感の把握／表現 ○材質の特徴理解 | ◇観察をもとに作品の構想を練ることができる。 ◇立体と平面の制作方法の違いを理解する。 ◇視覚だけでなく触覚でも観察し、大きさや重さを体感する。 |
| 2 学期 | 平面表現（色鉛筆による作品制作） ○19 世紀後半に活躍した画家ロートレックの作品「ディヴァン・ジャポネ」（1892 年）を元に想像を巡らせ、色や形態に変化を加えて色鉛筆での作品制作を行う。 ○古典的なグリッドを用いた模写方法の習得 | ◇模写の方法について理解し、正確に作品の形態を別紙に写すことができる。 ◇画面上の形態の面白さや動きに注目し、色彩を変化させることによって自らの世界観を作品に反映することができる。 ◇色鉛筆の材料や技法について習得する。 ◇作品について言葉で説明することができる。 |
| 3 学期 | 立体表現（木彫） ○卵の模型を題材とした木材での模刻 ○材質の特徴理解 | ◇角材から卵の滑らかな形態を切り出すことによって、質感を追求して作品を完成させる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 体育（男子） | | 使用教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 特になし |
| 共通 | | コマ数 | 2 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|----------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 目標 | 基礎的な運動能力と体力の定着を図る。仲間と協力して活動することで、運動の楽しさや喜びを味わう。学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行うこと。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 効果的な練習の方法を理解し、実践する力。様々な運動の特性に応じた基礎的な技能。 | 自己の身体への関心と集団内での適切な判断力・行動力。 | 様々な運動に関心を持ち、進んで運動に取り組む力。 | 「なかま」と協力してともにステップアップしようとする力。 |
| 学習方法 | 教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・ハンドゲーム(ベース型) ・スイミング | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のからだへの気づきを大切にしながら各種運動の基礎技能、仲間と協力して取り組む態度を身につける。 ・スローイングスキルおよびキャッチングスキルの習得を目指し、仲間とともにゲームを楽しむことができるスキルや思考を身につける。 ・基礎的な泳法を身につけるとともに、自他の安全を確保する力を身につける。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・剣道 ・ハンドゲーム(ネット型) | <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な礼法及び基本的技能を習得し、武道の特性を理解する。 ・ボールと自分のからだとの関係を意識しながら、ボールを扱うことを楽しみ、仲間とともにゲームを楽しむためのスキルや思考を身につける。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングスキル ・フットゲーム | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と助け合いながら、走ることの楽しさ、意義を理解する。 ・仲間と協力しながら基礎的な戦術を理解し、それを実現するためのスキルを身につける。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 体育（女子） | | 使用教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 特になし |
| 共通 | | コマ数 | 2 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|----------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 目標 | 基礎的な運動能力と体力の定着を図る。仲間と協力して活動することで、運動の楽しさや喜びを味わう。学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行うこと。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 効果的な練習の方法を理解し、実践する力。様々な運動の特性に応じた基礎的な技能。 | 自己の身体への関心と集団内での適切な判断力・行動力。 | 様々な運動に関心を持ち、進んで運動に取り組む力。 | 「なかま」と協力してともにステップアップしようとする力。 |
| 学習方法 | 教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・ハンドゲーム（ネット型） ・スイミング | <ul style="list-style-type: none"> ・自分のからだへの気づきを大切にしながら各種運動の基礎技能、仲間と協力して取り組む態度を身につける。 ・バレーボールの特性を理解し、基本的技能を習得し、ゲームを楽しむ力と態度を養う。 ・各種泳法の基礎を学び、泳ぐ楽しさを味わう。水中での危険性を学び、安全を確保する力を養う。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドゲーム（スロー・キャッチ） ・ハンドゲーム（ベース型） | <ul style="list-style-type: none"> ・「投げる・捕る」動作における自分の身体の動き、動かし方について理解を深め、基本的技能を養う。 ・ソフトボールの特性を理解し、ゲームを楽しむための技能と態度を養う。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・剣道 ・ランニングスキル ・フットゲーム | <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な礼法及び基本的技能を習得し、対人技能としての剣道の特性を理解する。 ・自分の力に応じて長い距離を走り、体力を向上させる。 ・足でのボール操作に慣れ、ゲームを楽しむための技能と態度を養う。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------|--|--------------|---------------|--|
| 学年 | 2 | 科目名 | 保健 | | 使用教科書 主教材 | 「保健体育」(大修館書店) | |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 | 特になし | |
| 共通 | コマ数 | 0.5 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|---|--|----------------------------------|---|
| 目標 | すこやかに生きる力の育成。 自分自身のからだや心の変化について学び、健康な生活を送るための基礎的な思考を育む。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 健康な生活を送るための必要な知識、自分のこととからだの発育発達について正しく理解する力。 | 健康に関する問題点や課題について思考し、行動に移す力。学んだことや自分の意見、考えを自分の言葉で表現する力。 | 自己の心身の発育発達に関心を持ち、健康な生活を営もうとする姿勢。 | 自分への理解を深めるとともに、他者について理解しようとする態度。「違い」を認め、受け止める力。 |
| 学習方法 | 日常生活に即した「実践的」な内容を意識しつつ、対話型・グループ学習を重視し、協同的な学びを進める。他者との対話によって自己の思考を広げ、深めていくことを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 学習意欲や態度・定期考査・出席状況・課題の到達度 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|-----------------------------------|--|
| 1 学期 | 心身の発達と心の健康 ・からだのはたらきの発達 | ・からだと心のはたらきや発達について学び、自己と他者それぞれの個性を認め、他者への理解を促す。特に男女の違いについて知り、理解を深める。 |
| 2 学期 | 心身の発達と心の健康 ・心のはたらきの発達 ・心の健康 | ・心身のはたらきは相互に影響し合うことを学び、欲求不満やストレスに適切に対処する力をつける。 |
| 3 学期 | けがの防止 ・けがとその防止 ・応急手当 | ・日常生活でのけがの発生原因について知り、その予防について学ぶ。また、基本的な応急処置の方法について学ぶ。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------------|-----|----------|------------|------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 探究入門Ⅱ (情報と表現) | | 使用 教材 | 教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 | | 必修 | 必修選択・自由選択 | | 材 | 副教材 | 特になし |
| 共通 | | コマ数 | 0.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|--|---|
| 目標 | IoT、Society5.0 の社会を生きるために必要な資質・能力として情報の受信・発信に関わるリテラシーとコンピテンシーを育成する。また、ICT活用技能の向上を探究的な学びのなかで目指す。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | デジタル時代のメディア・リテラシーについて受信・発信に関わる基礎的な技能と知識を身につけている。 | 情報発信者の意図や、情報の根拠についてとらえようとする。他者意識を持って表現を工夫し情報発信する。 | 自己や他者の well-being の実現のために、知識や技能を生かそうとする。共同して学びに取り組む。 | 学びの意味や授業者の意図を相対的に捉え、自己の学びをメタ認知する態度を持っている。 |
| 学習方法 | コンピュータやタブレット型端末、教育用 SNS やクラウドを使った、知識スキル習得と実践、実践愛用の表現を組み合わせた学びを特徴とする。一斉授業、グループ活動、個人活動、発表、討論など、多様な学習方法を用いる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・発表・出席状況・課題の到達度・自己評価・他者評価 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> メディアが伝える情報の分析 教科書教材「メディアと上手に付き合うために」など プログラミングで表現しよう その1 | <ul style="list-style-type: none"> メディアが伝える情報の受け手としてどのような態度が必要か考えるために、情報を分析する。 メディアからの情報の受け取り方について学ぶために、批評文を書く。 プログラミングによって表現スキルを磨く。 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> 「物語」を表現する（「短歌」の読解と創作） プレゼンテーションの技術1 プレゼンテーションの技術2 | <ul style="list-style-type: none"> 自らの持つ「物語」世界を自覚的にとらえさせるために、文字言語として表現する。 他者意識をもった表現力の向上のために、プレゼンテーションの方法を体験的に理解する。 コンピュータを用いたプレゼンテーションの方法を体験的に理解し、表現スキルを磨く。 |
| 3 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> CM制作～ドローンで動画撮影～ プログラミングで表現しよう その2 ※NIE(Newspaper in Education)活動を通年のうちに他の学習活動と組み合わせて適宜実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の作り出した「物語」を文字言語や音声言語を効果的に使いさせつつ、映像化させて、「言語」についての表現のスキルを習得させるとともに、自己表現能力を高めさせる。 プログラミングで表現する力を磨く。 |

| | |
|----|-----------------|
| 備考 | PC 教室での授業を中心とする |
|----|-----------------|

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------------|--|------|----------------------|-------------------------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 探究入門Ⅱ (情報と科学) | | 使用教材 | 教科書 主教材 | これからの数学2 (数研出版) 体系数学2 代数編 (数研出版) |
| 理系・文系 | | 必修 | 必修選択・自由選択 | | 副教材 | 体系数学2 代数編【発展】 (数研出版) | |
| 共通 | コマ数 | 0.5 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|---|-------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 目標 | 現実の問題を、確率や標本調査の考えを用いることにより、全体的な傾向を捉え、説明・考察ができるようにある。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 確率や標本調査の必要性和意味を理解する。 | 標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断することができる。 | 現実の問題を、確率や標本調査を用いることで、傾向を説明することができる。 | 数学的活動を通して、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。 |
| 学習方法 | 実験やコンピュータ実習を取り入れた授業を行う。一斉授業だけでなく、グループ活動や個人活動、討論や発表など、多様な学習方法を用いる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|------------------------------------|--|
| 1 学期 | 1. 場合の数と確率 (中2) 確率の意味 確率の求め方 | <ul style="list-style-type: none"> 具体的な試行を通して、確率の意味を理解する。 樹形図などを利用して、確率を求めることができる。 |
| 2 学期 | 2. 標本調査 (中3) 標本調査と母集団 | <ul style="list-style-type: none"> 標本調査と母集団の意味を理解し、利用できる。 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を捉え、説明できる。 |
| 3 学期 | 3. 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 各領域の内容を総合したり日常の事象や他教科等の学習に関連付けたりするなどして見いだした問題を解決することで、各領域の学習が一層深まりをもつことができる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | 「代数Ⅱ」や「幾何Ⅱ」の授業と組み合わせて行う。また、授業の進度により、「代数Ⅱ」や「幾何Ⅱ」の学習内容を入れ替えることがある。 |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|-------|------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 探究入門Ⅱ | | 使用教科書 | 教科書は特になし |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 主教材 | 自作ワークシートなど |
| 共通 | | コマ数 | 集中 | 単位数 | 副教材 | 特になし |

| | | | | |
|-------|---|--|---|--|
| 目標 | 文化、歴史、自然環境など多様な側面から郷土奈良を知り、世界遺産に登録された奈良の文化財を次世代に伝えることの意義や課題を考察して、他者に伝える表現力を育成する。特に、1・2年次では見学・観察・聞き取りなどの調査活動を重視し、その活動の中で探究活動の学び方の基礎を学び、他者に伝えるための表現技法の習得を目指す。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する力 | 身近なところから問いを見出だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力 | 主体的・協働的に取り組み、互いのよさを活かしながら積極的に社会に参画しようとする力 | 自身の興味・関心を教科等の枠を超えて横断的・総合的に捉え、考えを広げ深めようとする力 |
| 学習方法 | 短期集中講座で、フィールドワークを中心とした活動を行う。教師はサポート役として、適宜アドバイスや指導をする。 クラス授業もしくは複数分割授業／グループ活動／講義・実習・発表・討論 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・発表・課題の到達度・他者評価・自己評価 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|---|
| 9月 | <p>○世界遺産としての奈良の文化的意義について学ぶ。</p> <p>○各自、および各グループが設定したテーマについて調べ、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな角度から、テーマをとらえる。 ・観察・調査の結果をまとめ、発表する。 ・他者評価・自己評価を行い、活動を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・見学や観察を中心に行い、「見る・観る」の力をつける。特に、探究活動の導入として次のような資質・能力の習得・育成を目指す。 ・フィールドワーク活動や他の調査活動における基礎的・基本的な態度や能力を習得する。 ・コミュニケーション能力・表現力・総合的にまとめる能力、自己評価能力を育成する。 ・「探究入門Ⅱ（情報と科学、情報と表現）」で学んだ、情報収集や検索、表の整理やグラフの作成、プレゼンテーションなどのスキルを活用する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------------------|
| 学年 | 2 | 科目名 | 道徳 | | 使用教科書 主教材 | 日文『中学道徳 あすを生きる2』 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 | 特になし |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|---|---|--|
| 目標 | 自立した人間として他者と共によりよく生きるために、物事をさまざまな方向からとらえ、議論することを通して、自分の生き方や他者、社会との関わり方を深く考え、行動することができる。 【2年生の重点目標】 主として集団や社会との関わりを通じて、他者を受容するとともに、自己肯定感を育む | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | さまざまな道徳的価値について知る、学ぶ | 主張が対立する諸価値について考え、議論し、自分ならどうするかを判断する力を養う | 自分たちにとって身近な問題等をテーマとして授業を展開し、主体的に学ぶ力や道徳的心情を豊かに育む | 他者の意見を「聴く」と、自分の意見を「語る」ことを通じて、人として生きる意味を重畳的に概念把握する力 |
| 学習方法 | 教材（視聴覚教材や教科書、その他）を用いて、個人またはグループで主題に沿った活動（自分の考えを書く、述べる / 他者の考えを聴く / お互いに意見を交わして議論する。活動内容を振り返る。 | | | |
| 評価の方法 | 授業者による評価、自己評価、他者評価等を総合的に判断し、文章による評価を行う | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 「1、2年生のこころえ」を材料に、ルールとマナーについて日常生活の中をふりかえる 教科書「オーストリアのマス川」を読む 登下校中の安全について、日頃の体験をもとに考え、議論する | 「学校生活」や「課外活動」「公共的空間」等におけるさまざまな問題について主体的に考える （キーワード：よりよい学校生活、公共の精神、遵法精神 等） |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「リスペクト・アザーズ」を読む ビデオ「青い目、茶色い目」を観る スマホを正しく使うために必要な作法について考える 3年生に向けて～前期課程のリーダーシップについて考える | 「いじめ」は加害者、被害者、傍観者の全ての人に関係する問題であり、看過してはならないということを通理解する クラスや学年の「連帯（意識）」を経験する （キーワード：相互理解、寛容、友情、社会正義等） |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「自分の弱さと向き合え」を読む 教科書「樹齢七千年の杉」を読む 途上国の人々の生活に触れ、国際協力について考える | 生命や自然、崇高なもの等について様々な情報や経験者の話に触れ、私とのかかわりについて考える 国際理解、国際貢献へのかかわりについて考える |

| | |
|----|---------------------------|
| 備考 | 教科の性質上、主題や教材は変更することがあります。 |
|----|---------------------------|

3年

一人一台端末



CG (キャリア・ガイダンス)



球技大会



パラスポーツ体験



探究活動



前期課程修了式 (HR 企画)



3・4年カリキュラム

3・4年のカリキュラムは、中等教育学校の特色がもっともよく表れているところです。キーワードは「総合」「探究」「思考」です。教科学習の基礎・基本をもとに、学習内容を総合的に広くとらえ、探究学習を通して、「問いをたてる力」（思考力）を養うことが目指されます。

1 「総合」と「選択」

シラバスを見ると、「国語総合」「家庭総合」というように、「総合」という名称が目立ちます。各教科の特徴を生かして効率よく学ぶ等の工夫により、学習の順番を入れ替えているところもあります。

一方、個人の興味・関心や技術力に格差が生じることもあって、創作科では、4年生から「美術」「音楽」「工芸」「書道」が選択科目になります。体育も種目別選択制を導入しています。

2 思考力育成のために

学習内容が高度化し、授業スピードもアップするため、効率のよい学習が求められるようになります。しかし、受身で処理しているだけでは、思考力・想像力・創造力・表現力等は、なかなか育ちません。そこで、各教科においても探究的学習（「問い」を立てる能力の育成）を重視しています。「知らざるを、知らざるとなせ、是知るなり。」

ただし3・4年の時期は、生徒の興味・関心が分化する時期です。「中だるみ」現象も生じてきます。網羅的に対応できない場合もあります。興味・関心の湧く分野に打ち込んで、思考力等の諸学力を急成長させることが大切だと考えています。

3 3・4年時の特色

- (1) 総合学習「探究基礎」（3年：教員4人で担当）、「基盤探究Ⅰ」（4年：教員8人で担当）が、週1時間あります。探究活動の基本知識や技能を3年生で身につけ、4年生では1年間をかけて探究活動を実施します。
- (2) 4年のライティングの授業（週1時間）は少人数授業（20人講座）で実施します。保健体育は30人程度の講座が基本です。
- (3) 4・5年生ではキャリア教育という視点から、奈良女子大学の先生方によるアカデミックガイダンス（学問への招待）を実施します。

| | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------|--|--------------|---------------------------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 国語総合 I | | 使用教科書 主教材 | 『国語 3』(光村図書) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 『国語の学習 3』(浜島書店)、 『学習漢字ノート 3』(浜島書店) |
| 共通 | コマ数 | 3 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|---|--|--|--|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・人間、社会、自然を多様な視座から捉え、思索を深める。 ・幅広く文章を読み、読解力を高める。 ・自分の意見を的確に伝えとともに、他者の意見に耳を傾け、ものの見方や考え方を深化拡充する。 ・伝統的な言語文化について興味・関心をもち、理解を深める。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の役割やはたらきを理解し、的確に言語運用する力を身につける。 ・情報と情報との関係や情報の信頼性について理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・論理展開などに気をつけながら、自身の考えや感情を伝える。 ・文章の構成や論理展開などを的確に捉え、批判的に読むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通じて人や社会と関わり、自己を表現する。 ・他者を理解する姿勢を身につける。 ・伝統的な言語文化に興味・関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを比較したり関連づけたりすることを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・他者の学びを参考にし、自身の学びを調整できる。 |
| 学習方法 | 教科書教材を丹念に読むことを中心に学習する。また、ものの見方や考え方を深化拡充したり、言語運用能力を高めたりするために、様々な言語活動を採り入れる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物などを総合的に評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・小説『握手』 ・論説文『作られた「物語」を超えて』 ・漢文『論語』 ・説得力のある構成を考えよう など | <ul style="list-style-type: none"> ・抽象度が高くなった文章を読めるようにする。 ・昔の人々が大切にしていた考え方にふれる。 ・これまでの言語活動実践を振り返り、よりよい方法を検討させる。 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・詩「挨拶—原爆の写真に寄せて」 ・説明文『俳句の可能性』 ・論説文『人工知能との未来』/論説文『人間と人工知能と創造性』 ・小説『故郷』 など | <ul style="list-style-type: none"> ・詩や俳句などの言語文化にふれ、ものの捉え方や感じ方を豊かにする。 ・文章を複数読むなどして、話題に対する理解を深め、自身の考えを的確に伝えられるようにする。 ・言語活動の中で、言語運用能力を高めさせる。 |
| 3 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・随筆「温かいスープ」 ・古文『和歌の世界』 ・論説文『誰かの代わりに』 ・古文『奥の細道』 ・情報を読み取って文章を書こう など | <ul style="list-style-type: none"> ・文章から学んだことを、自身の現在に役立てられるようにする。 ・文章の構成を的確に読み取れるようにする。 ・自身の国語に関する学びを振り返り、後期課程の学びにつなげられるようにする。 |

| | |
|----|----------------------------------|
| 備考 | 時間割に提示される「国語 1」「国語 2」を総合して記しています |
|----|----------------------------------|

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|------|------------|--|
| 学年 | 3 | 科目名 | 地歴総合 I | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 『詳述歴史総合』（実教出版） 『地理総合』（東京書籍） 『詳解現代地図 最新版』（二宮書店） |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 自作プリントなど |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|---|---|
| 目標 | 社会の形成者となるべく、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史について、歴史的な見方・考え方に加えて地理的な見方・考え方を働かせ主体的に考察・構想できるようになる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて、多極化・多様化する現代的な諸課題を歴史的・構造的に理解する力。 | ・地球規模の諸課題や地域課題について、諸資料を活用し、事象の意味や背景、因果関係について多面的・多角的に思考し考察する力。 | ・現代的な諸課題が形成されてきた歴史のおよび地理的背景について、知的好奇心を持って主体的に探究する力。 | ・他者と協働し、他者の意見もふまえながら自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力。 |
| 学習方法 | 講義によって基礎的な知識の獲得と歴史の変化に関わる事象の相互の関連についての把握をめざす。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、その成果をもとに意見交換や議論を行うようなペアワークやグループワークの時間を設ける。 | | | |
| 評価の方法 | 定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|------|---|---|
| 1 学期 | 第一世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦～戦間期の欧米 ・大戦景気～政党内閣の時代 ・アジアの民族運動 | ・近現代の歴史の大きな変化を「近代化」「大衆化」「グローバル化」という大きなテーマでとらえ、「現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史」、「現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」を理解し、課題意識をもって考察する。 |
| 2 学期 | 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌～第二次世界大戦 ・満州事変～敗戦 ・国際連合と戦後世界～冷戦の開始 ・戦後と占領の始まり～朝鮮戦争 | ・世界の歴史と日本の歴史の相互関連性を重視し、世界史的視野に立った歴史を学んだのち、日本の動向を学ぶことで、世界の歴史と日本の歴史を有機的に統合する。またその際、位置や空間的な広がりにも着目して歴史を捉える。 |
| 3 学期 | 冷戦と脱植民地 ・冷戦対立の推移～米ソ両陣営の動揺 ・日本の国際社会復帰と高度経済成長 多極化する世界 ・石油危機と世界経済～日本の経済大国化 | ・歴史的な経緯を踏まえて、よりよい社会、持続可能な社会の実現に向けての現代的諸課題の展望について考察・構想する。 |

| | |
|----|---------------------|
| 備考 | 主題学習については学期を通じて適宜行う |
|----|---------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|--|
| 学年 | 3 | 科目名 | 社会（公民的分野） | | 使用教科書 主教材 | 『中学社会 公民的分野』（日本文教出版） 『詳解現代地図 最新版』（二宮書店） |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | なし |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|--|--|---|
| 目標 | 社会的・協同的存在として、また個人的・実存的生として、自己が「善く生きる」ことは如何にして可能かを考え、指針を設計する力を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 現代の政治・経済・国際社会の基本理解 日本国憲法の基本的原則と政治、国際平和と人類の基本的理解 新聞などの諸資料から、現代社会を読み取り、まとめる力 | <ul style="list-style-type: none"> 現代社会の様々な事象の意味や意義等を現代生活と関連付けて考察し判断する力 他者の主張もふまえて思考・判断し、自らの考えを説明したり、互いに議論したりする力 | <ul style="list-style-type: none"> 現代の社会的事象について、知的好奇心を持って主体的に調べ、課題を探究する力 現代社会における諸課題の解決に向けて、主体的に関わろうとする力 | <ul style="list-style-type: none"> 他者と協働し、自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 歴史的・現代的な諸課題と教科の学びとをつなげて理解し、社会へと視野を広げる力 |
| 学習方法 | 基本的には講義によるが、グループでの話し合いや討論、模擬選挙などの参加型学習教材をできるだけ取り入れる。 | | | |
| 評価の方法 | 定期考査、提出物、レポート、発表、出席状況などを基に、総合的判断で評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | 1. 社会のなりたち方について考える 2. 日本国憲法を日々の生活から観る 3. 「権利」とは何か～基本的人権について学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 人間関係が規定される社会の仕組みを知る。 「日本国憲法」を通して、近代法治国家の基本的な考え方と、市民としての「教養」とを身に付ける。 |
| 2 学期 | 4. 「戦争と平和」～激変する国際社会の中での日本の国際協力のあり方について考える～ 5. 政治の仕組みについて考える 1 (三権分立) 6. 政治の仕組みについて考える 2 (地方自治) 7. 年金・司法制度改革を討議しよう | <ul style="list-style-type: none"> 憲法第9条と「平和」の意味について考える。 民主主義のシステムを理解し、現代日本の政治—司法におけるさまざまな問題、論点を多面的な視野から考察できる力を養う。 |
| 3 学期 | 8. 税金の使われ方を考える 9. 消費者として知っておきたいこと | <ul style="list-style-type: none"> カネの流れ方の基本理解、市場価格の決定方法や「消費者」として心得ておきたい知識を学ぶ。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|--------------|------|-----|------|---|--------------------------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 解析入門 | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「これからの数学3」数研出版 「数学I Advanced」東京書籍 |
| 理系・文系 | | 必修・必修選択・自由選択 | | 副教材 | | 「システム数学2 代数編」(啓林館) 「システム数学2 代数編 問題集」(啓林館) 「改訂版 4STEP 数学I+A」(数研出版) | |
| 共通 | | コマ数 | 2 | | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 方程式や不等式を用いて、いろいろな事象を数学的に表現することができ、それらを解決することができる。様々な初等関数の中でも、特に2次関数の性質を理解し、具合的な現象と関連付けて議論することができる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 関数のグラフをかくことで、変化の様子を把握するとともに、方程式を視覚的に表現し、様々な表現を得ることができる。 | 現実問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、事象を関数的に考察することができる。 | 積極的に関数の考えを適用することにより、具体的な現象の理解や課題の解決を図ろうとする。 | 学んだ関数が出現する現象を探すとといった数学的活動を通して、自分が学習した数学を的確に応用して問題解決することができる。 |
| 学習方法 | 数学的な概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題をともに考えながら、知識・理解の定着をはかる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-----|--|---|
| 1学期 | 1. 実数(数学I) 絶対値, 2重根号 2. 2次方程式(中3) 2次方程式, 2次方程式の利用 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 絶対値や2重根号の意味を理解し処理できる。 平方根を用いた方法で2次方程式を解ける。 解の公式を導き、用いることができる。 2次方程式を活用し、関連した問題を解決することができる。 |
| 2学期 | 3. 2乗に比例する関数(中3) 2乗に比例する関数とそのグラフ 関数の値の変化, 課題学習 4. 2次関数(数学I) 2次関数とそのグラフ 2次関数の最大・最小 | <ul style="list-style-type: none"> 2乗に比例する関数の意味を理解する。 2乗に比例する関数のグラフをかくことができる。 関数の値の変化の特徴について理解する。 平行移動の考え方を理解し、2次関数のグラフがかける。 |
| 3学期 | 2次関数の決定 2次方程式・2次不等式 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 2次関数を決定するのに必要な条件を理解する。 一般の2次不等式や、関連した問題を解決できる。 日常の事象における問題解決に2次関数を活用できる。 |
| 備考 | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|---|--------------|---------|---|-----|------|------------|---|
| 学年 | 3 | 科目名 | 代数・幾何入門 | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「これからの数学3」数研出版 「数学I Advanced」「数学A Advanced」 東京書籍 |
| 理系・文系 共通 | | 必修・必修選択・自由選択 | コマ数 | 2 | 単位数 | | 副教材 | 「システム数学2 幾何編」(啓林館) 「システム数学2 幾何編 問題集」(啓林館) 「改訂版 4STEP 数学I+A」(数研出版) |

| | | | | |
|-------|--|---|--|--|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> 幾何的対象について数値計算を用いて分析し、理解することができる。 統計に関する基礎知識を習得し、統計的に適切な推測をもとに判断、主張することができる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 三角比の相互関係を理解することができる。データの傾向を把握し、それを説明できる。 | 円や三平方の定理について、複数の視点から作図や証明をすることができる。幾何的対象から代数的側面を抽出し、考察することができる。 | 議論や数学的活動を通して、数学の基礎としての数学、文化としての数学を協働して味わうことができる。 | 具体的な事例を用いて三角比を用い、データを扱うなどの数学的活動を通して、自分額学習した数学を的確に応用する。 |
| 学習方法 | 予想 → 操作・実験 → 直観的に理解 → 論理的に説明・証明 の流れで学習する。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-----|--|---|
| 1学期 | 1. 数と式(中3) 素因数分解、最大公約数と最小公倍数 整数の問題 2. 円の性質(中3, 数学A) 円・直線の位置関係, 円周角の定理 円と四角形 接弦定理・方べきの定理、課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 素因数分解・最大公約数と最小公倍数を活用して整数の問題を解決することができる。 円の性質、直線や円の位置関係を探究する。 円の接線が作図できる。 定理を利用して、角度などの計算ができる。 円についての今までの知識を、証明問題などで総合的に応用できる。 |
| 2学期 | 3. 三平方の定理(中3) 三平方の定理、中線定理、課題学習 4. 三角比(数学I) 三角比, 三角比の相互関係三角比の拡張, 三角比を含む方程式, 不等式 | <ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理の様々な証明方法を考える。 三平方の定理を平面図形や空間図形に応用できる。 三角比の定義と意味を理解することができる。 三角比の相互関係を理解することができる。 三角比を利用して問題解決を図ることができる。 |
| 3学期 | 5. データの分析(数学I) データの散らばり データの相関 | <ul style="list-style-type: none"> 分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明する。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握し説明する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|-----------|-----|------|------------|---------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 理科総合 | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「中学校 科学3」学校図書 |
| 理系・文系 | | 必修 | 必修選択・自由選択 | | 教材 | 副教材 | 「改訂版 地学基礎」啓林館 |
| 共通 | | コマ数 | 2 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|---|-----------------------------|-------------------------------|---|
| 目標 | 生活体験だけによる認識から、経験的な知識の抽象化や一般化ができるようにする。また、自然科学に対する基本的な理科的素養を身につけ、実験観察等により検証する方法を習得する。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 自然科学に関する経験的な知識の抽象化・一般化ができる。実験観察を計画し、実行する力。 | 自然現象の本質や、自然界の共通性と多様性が理解できる。 | 自然現象に関心を持ち、それを主体的に探究しようとする態度。 | 自然現象について、その本質を理解しようと努め、周囲の助けを借りながら主体的に探究することができる。 |
| 学習方法 | 授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 地球の運動と天体の動き 1. 天体の日周運動 2. 天体の年周運動 3. 季節の変化 恒星と宇宙 1. 太陽と太陽系 | <ul style="list-style-type: none"> 天体の日周運動や年周運動を地球の自転、公転から理解する。 季節の変化を地域の緯度と年周運動から理解する。 太陽系の誕生と太陽系の各天体の特徴を理解する。 |
| 2 学期 | 2. 恒星の性質と進化 3. 銀河系と宇宙 電気とその利用 1. 電流と磁場 | <ul style="list-style-type: none"> 恒星の特徴から、恒星の進化を理解する。 銀河系の構造および宇宙の構造を理解し、太陽系や銀河系、宇宙の成り立ちを理解する。 電流のつくる磁場の仕組みを理解する。 電流が磁場から力を受けることを理解する。 |
| 3 学期 | 運動とエネルギー 1. 運動の規則性 | <ul style="list-style-type: none"> 物体の運動について確認する。 力に関する基本概念を獲得する。 |

| | |
|----|--------------------------------|
| 備考 | 学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。 |
|----|--------------------------------|

| | | | | | | | |
|-------|-----|--------------|------|--|------|-----|---|
| 学年 | 3 | 科目名 | 化学入門 | | 使用教材 | 教科書 | 「中学校 科学3」学校図書 |
| | | | | | | 主教材 | 「化学基礎」東京書籍 |
| 理系・文系 | | 必修・必修選択・自由選択 | | | | 副教材 | 「スクエア最新図説化学」第一学習社 「セミナー化学基礎」第一学習社 「フォローアップドリル化学基礎－物質 量・化学反応式－」数研出版 |
| 共通 | コマ数 | 1 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|---|--|--------------------------------|--|
| 目標 | 生活体験だけによる認識から、経験的な知識の抽象化や一般化ができるようにする。また、自然科学に対する基本的な理科的素養を身につけ、実験観察等により検証する方法を習得する。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。 | 身の回りの自然現象について、比較・分類ができたり、論理的に思考することができる。 | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。 | 身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。 |
| 学習方法 | 授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること（考査時にノートを提出する）。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---|---|
| 1 学 期 | 物質の構成 1. 物質の構成 2. 物質の構成粒子 3. 化学結合 | 原子の構造、電子配置と周期律の関係及び化学結合のしくみについて理解できる。 |
| 2 学 期 | 物質の変化 1. 物質と化学反応式 2. 酸と塩基 | 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。 |
| 3 学 期 | 2. 酸と塩基（続き） 生態系とその保全 1. 自然の中の生物と化学 2. 自然環境の調査と保全 3. 科学技術と人間、持続可能な社会 | 自然環境保全の重要性について認識し、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察できる。また、持続可能な社会をつくることの重要性を理解する。 |

| | |
|----|--------------------------------|
| 備考 | 学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。 |
|----|--------------------------------|

| | | | | | | | | |
|-------------|---|--------------|-----------------|-----|-----|------|---|----------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | Topic Studies I | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | Here We Go! 3 (光村図書) |
| 理系・文系 共通 | | 必修・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | | Stretch 2B (OXFORD)、Bird's-eye 総合英語(エスト出版)、Bird's-eye English Grammar28(エスト出版)、WISDOM 英和辞典(三省堂) | |
| | | コマ数 | 2.5 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|---|--|--|--|
| 目標 | 国際的に通用する発音、リズム、イントネーションで自分の考えや意見を表現する。幅広いトピックの英文を理解し、そこから情報を引き出す。視野を広げ、地球市民として世界を知ろうとする態度を養う。身近なトピックについて、意見を論理的に表現したり、意見の交換を行う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際コミュニケーションにおいて活用することができる。 | コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について知識や得た情報を整理・活用して自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。 | トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとする。相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。 | ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で自分の役割を考え英語を学ぼうとする。辞書を活用し、自主的に調べたり、知識を広げようとする。 |
| 学習方法 | 身近なトピックについて、英語を読んだり、聞いたりする。 読んだ内容について英語を書いたり意見交換する。 まとまりのある英文を、文法や語法などに注意して読み、文章の意味を正しくつかむ。 辞書を利用し、自分の力で理解しようとする。 | | | |
| 評価の方法 | Topic Studies として総合評価する。 定期考査、小テスト、課題、発表、授業態度 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---|---|
| 1 学 期 | School Life School Trip World Peace | 文章を読み、共通点と相違点を述べるができる。 世界に関する幅広い知識と教養を身につける。 |
| 2 学 期 | AI Technology Plastic Waste School Events | 様々な社会の課題について自分の意見をわかりやすく相手に伝える力を身につける。 |
| 3 学 期 | Speech、Friends Environment | これまでの自分のことや社会的な問題について、考えを順序立てて伝え合う力を身につける。 |

| | |
|----|--------------------|
| 備考 | 英和辞典及びファイルを持参すること。 |
|----|--------------------|

| | | | | | | | |
|-------------|--------------|-----|-----------|--|----------|------------|---|
| 学年 | 3 | 科目名 | Writing I | | | 教科書 主教材 | Here We Go! 3 (光村図書) |
| 理系・文系 共通 | 必修・必修選択・自由選択 | | | | 使用 教材 | 副教材 | Stretch 2B (OXFORD)、Bird's-eye 総合英語(エスト出版)、Bird's-eye English Grammar28(エスト出版)、WISDOM 英和辞典(三省堂) |
| | コマ数 | 1 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|--|--|
| 目標 | トピックについての自分の意見を、論理的に書く力を身につける。 内容にふさわしい英文スタイルを学ぶ。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際コミュニケーションにおいて活用することができる。 | コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、知識や得た情報を整理・活用して自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。 | トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとする。相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。 | ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で自分の役割を考え英語を学ぼうとする。辞書を活用し、自主的に調べたり、知識を広げようとする。 |
| 学習方法 | パラグラフ構成法に基づいてパラグラフの構成を学ぶ。 スピーチやプレゼンテーションの原稿を論理的に書く。 正確な英文が書けるよう練習問題（和文英訳を含む）に取り組む。 | | | |
| 評価の方法 | Topic Studies として総合評価する。 定期考査、小テスト、課題、発表、授業態度 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | School Life School Trip World Peace | 辞書を効果的に利用し、よりよいパラグラフが書ける力を身につける。 パラグラフの構成を身につける。 |
| 2 学 期 | AI Technology、 Plastic Waste School Events | パラグラフ展開の基本的な特徴を身につける。 正確な英文を書くための基礎的な文法事項を学ぶ。 |
| 3 学 期 | Speech Friends Environment | パラグラフ展開に従って論理的な文章を書き、発表する力を身につける。 |

| | |
|----|--------------------|
| 備考 | 英和辞典及びファイルを持参すること。 |
|----|--------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|----------------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 技術 | | 使用教科書 主教材 | 「新しい技術・家庭科 技術分野」 (東京書籍) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 「情報モラル」 (数研出版) |
| 共通 | | コマ数 | 0.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|-----------------------------|-------------------------------------|--|
| 目標 | 製作実習を通して科学・技術への興味・関心を実践力として高め、社会的役割へと視野を広げる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 製作を行うための理論と技法についての知識と技能の獲得。 | 設計・製作を通して理論的な理解と工創的自己実現の達成。 | 製作実習を通して協働の力で問題解決する能力と創造する意欲・態度の育成。 | ものづくりの社会的課題や社会的役割を理解し、未来を拓くために新たな技術を活用する力。 |
| 学習方法 | エネルギーをテーマとして講義を行い、実験、製作実習を行うことからものづくりの社会的課題や社会的役割について視野を広げる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・自己評価 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|---|
| 半期 | <ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換 電気を中心に、暮らしの中のエネルギーについて考える。 発電、送電などエネルギーの供給について考える。 電気部品の仕組みからエネルギー変換機器の構造を学ぶ。 情報伝達と制御 CDSセルを用いた回路をグループで組み立て、その仕組みや活用を考える。 エネルギー変換を含む製作実習 回路設計について学び、実験を行う。 回路製作を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 身近なエネルギーについて、再評価し、選択する力をつける。 エネルギーの供給について学び、エネルギーの安定供給や省エネルギーについて考える。 半導体部品を中心に、電気回路に見られる部品の特徴や活用方法について学ぶ。 光センサーの活用について学ぶ。 光センサーやLEDなどの電子部品の仕組みを、実験を通じて理解する 回路製作技能の習得の中でそれぞれ部品の果たす役割を理解する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|-----|--------------|---------|--|--------------|-------------------|--------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 家庭・家庭基礎 | | 使用教科書 主教材 | 新技術・家庭 家庭分野（教育図書） | |
| 理系・文系 | | 必修・必修選択・自由選択 | | | 教材 | 副教材 | 自作プリント |
| 共通 | コマ数 | 1 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|--|--|---|
| 目標 | 生活を総合的に捉えるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・協働的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 食生活と健康や環境との関連、日本の食文化についての知識と技能。 住生活及び消費生活についての知識と技能。 | 健康や環境に配慮した食生活及び住生活・消費生活について、身の回りの課題を見だし、考え解決しようとする力。 | 健康や環境に配慮した食生活及び住生活・消費生活について、主体的に工夫し創造しようとする実践的な態度。 | 学びを総合的に統括させて、食生活や住生活・消費生活の向上に発展させ応用する力。 |
| 学習方法 | 座学と実験・実習とを組み合わせ、食生活や住生活・消費生活の内容を中心に学習する。調理実験・実習については調理教室を使用する。使用上の注意を守り、安全と清潔に留意して実習を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・実技・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|--|
| 通年 | 食生活の自立 ・健康と食生活との関連 ・日常食の調理 | <ul style="list-style-type: none"> 毎日の食生活が健康と深く結びついていることを理解し、健康な生活を営むための知識と技術を習得する。 日本の伝統的食文化の特徴とそれを伝承していく大切さを理解する。 |
| | 消費生活 ・消費者問題 ・消費生活と環境・資源 | <ul style="list-style-type: none"> 消費生活は、一人ひとりの消費者の責任の上に成り立っていることを理解し、自立した消費者としての態度と生活力を育成するとともに、18歳成人年齢を自覚し、生活者としての態度を身につける。 |
| | 住生活 ・住居の機能 ・安全・健康で快適な住空間 ・身の回りの住環境調査 | <ul style="list-style-type: none"> 人間らしく生きるために欠かせない住まいのはたらきについて認識し、安全・健康で快適な住まい方を工夫する態度を養う。 住環境を調査し、住みやすい環境について考察する。 |

| | |
|----|---|
| 備考 | 技術・家庭の授業では、技術と半分ずつの時間を学習する。 家庭基礎の授業では、高等学校家庭科の内容を学習する。 |
|----|---|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|----------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 音楽 | | 使用教科書 主教材 | 「中学生の音楽2・3下」「中学生の器楽」 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 配布プリント、鍵盤ハーモニカ、ギター |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|--|--|---|
| 目標 | 独自の作品を創作することができる。表現法の幅を広げることができる。 自己と他者の感性を融合することにより新たな創造の可能性に気付く。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 作曲理論の概要を理解し、独自の楽曲を創作できる。音楽外の要素と音楽の関連を理解し音楽に深く親しむ。 | 楽曲を多面的に理解し、根拠に基づき独自の表現を考え、演奏をもって他者に伝えることができる力。 | 理論と個性のバランス、多様な感性の調和等、様々な要因を勘案しながら表現の可能性を追求する力。 | 音楽作品の歴史的背景や作曲技法等に好奇心を持ち、積極的に創造のプロセスを紐解こうとする力。 |
| 学習方法 | 器楽や歌唱表現では、模倣ではなく独自の表現の確立を目指す。鑑賞では聴き比べを多く行い、できるだけ多様な表現に触れる。随時小編成のアンサンブルを行い、多様な感性の調和を図るべくチームで話し合う機会を多く設ける。作曲理論を学び、楽譜打ち込みソフトや作曲ソフトなどを駆使して発展的な作曲を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、発表・実技、ワークシート等 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-----|--|---|
| 1学期 | 1.フレージングと表現 《帰れソレントへ》《花の街》等 2.楽曲探究/プレゼンテーション | ・旋律の特徴を捉え適切なフレージングを行い、速度、強弱の変化などを工夫し、独自の表現ができるようになる。また、詩の内容とこれらの要素との関連を探り、より深い表現を目指す。 ・ある楽曲について時代背景、作曲家の人となり等々、多面的な視点で探究を行い、その楽曲の魅力を他者に伝えることで音楽への理解を深める。 |
| 2学期 | 3.合唱・合奏による表現 4.標題音楽の鑑賞 《交響詩モルダウ》など | ・クラスで一つの音楽表現を作り上げる過程で、互いの個性や感性を認め合いながら高い協調性に裏付けされた表現を目指す。 ・楽曲の文化的背景を理解しながら標題音楽を鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。 |
| 3学期 | 5.アンサンブル作品の創作 | ・共通の和音進行によるアンサンブル作品を創作し、多様な感性の重なりが生み出す新たな価値に気付く。 |
| 通年 | ・クラシック音楽の歴史と発展 ・発声法/リコーダー、鍵盤楽器の奏法 ・楽典/作曲理論 | ・教養としての音楽史を学び、音楽への興味関心を高める。 ・思いや意図を適切に音に反映できるよう、基礎的な技能を身につける。 ・表現や鑑賞に取り組む上での基礎知識として、各学習を通じて学ぶ。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|-----|--------------|-----|--|-------|-------------------------|--------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 美術 | | 使用教科書 | 「美術 2 上 学びの深まり」 | |
| | | | | | 主教材 | 「美術 2 下 学びの深まり」(日本文教出版) | |
| 理系・文系 | | 必修・必修選択・自由選択 | | | 教材 | 副教材 | 「美術資料」 |
| 共通 | コマ数 | 1 | 単位数 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|--|--|
| 目標 | 美術の基本的な技法を習得し、美術に親しむ態度を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 素材や技法を通じた体験や発見を大切にし、自らの表現に活かす。 | 視覚の客観性について理解・習得した上で、自分自身のオリジナリティを作品に反映する。 | 作品を通して他者の喜びや困難を想像し、問題解決に向けて作品を企画・制作することができる。 | 作品制作のコンセプトについて考え言語化することによって、他者と意見交換ができる。 |
| 学習方法 | ○様々な素材や技法を使い、課題内容に基づいた作品制作を行う。 ○完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。また、課題内容に合わせてテーマが類似した過去の美術作家の作品を参考にし、自らの作品の表現をさらに向上させる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・課題作品の提出 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|------|--|--|
| 1 学期 | 立体表現 (デザイン) ○社会的な意義やターゲットを意識した上で商品を企画し造形する。商品名や会社名も併せて考える。 | ◇主題を明確にした上で作品の構想を練る。 ◇計画・企画を大切にし、正確に再現できるよう素材の特性を活かし造形する。 |
| 2 学期 | 映像表現 (デザイン) ○1 学期に制作した作品を商品と設定し、販売戦略に合わせて、その商品の写真撮影・パッケージデザイン・ロゴデザイン・キャッチコピー作成・ポスターデザインを行う。 | ◇主題や意図について深く考察し理解した上で制作を行う。 ◇商品企画を行うことによって客観的視点を身につける。 ◇著作権・肖像権について学び理解する。 ◇画面構成について学び作品制作に活かす。 |
| 3 学期 | 映像表現 (デザイン) ○HP デザイン (2 学期に続いて 1 学期に制作した作品を商品と設定し、販売戦略に合わせて Web ソフト「Adobe Creative Cloud Express」を用い簡単な HP を作成する) | ◇「見やすさ」「わかりやすさ」など作品を見る他者の視線を想像し作品を制作する。 |

| | |
|----|------------------------------|
| 備考 | 2、3 学期は各自の PC 端末を使用して作品制作を行う |
|----|------------------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|--------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 体育 | | 使用教科書 主教材 | 「アクティブスポーツ」(大修館書店) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 特になし |
| 共通 | | コマ数 | 2 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|---|--|---|
| 目標 | <p>多種多様な運動を経験し、自分の能力にあった運動課題の解決を目指す中で運動技能、体力の向上を図る。</p> <p>学習活動を通して自己のからだへの気づき・健康の維持増進に努める。</p> | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | <p>各種スポーツの基本技能。自ら運動・スポーツを楽しむ力。練習や競技の仕方を工夫し、自分に適した運動課題を解決していく力。</p> | <p>多様な運動・スポーツに関心を持ち、自らの課題に積極的に取り組む態度。自己および周囲の安全に留意し、楽しく運動ができる力。</p> | <p>様々なスポーツ種目に挑戦しようという姿勢。「できない」ことを恐れずに挑戦しようとする姿勢。</p> | <p>「なかま」と協力して運動・スポーツを楽しみながら、お互いのからだについて考え、ステップアップしようとする力。</p> |
| 学習方法 | <p>原則として希望する種目を選択し学習する。</p> <p>教師側からの指示に従って動けばよい場合(一斉指導)もあるが、「自ら考えて」動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。</p> | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などから総合的に判断する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | <p>体づくり運動</p> <p>I期 2種目より選択 男子：バスケットボール・ソフトボール 女子：体操・陸上</p> <p>II期 4種目より選択 ※II期のみ男女共習 水泳・武道・ダンス・トレーニング</p> | <ul style="list-style-type: none"> 必要な体力と技能を養い、それらを向上させるための態度を身につける。 多種多様な運動を経験させることにより、自らの運動経験を養い、その後の運動生活に役立てるようになる。 |
| 2 学期 | <p>III期 2種目より選択 男子：体操・陸上 女子：バスケットボール・ソフトボール</p> <p>IV期 2種目より選択 男子：バドミントン・卓球 女子：バレーボール・サッカー</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自らの興味・適性に合った運動種目の選択を行うことでより意欲的に運動に取り組み、運動の楽しさを味わう。 各種目の基本的な練習方法を用いて、基礎技能を身につける。 簡易ゲームなどを通して、種目の特性を理解し、競技を楽しむことができるようになる。 |
| 3 学期 | <p>V期 2種目より選択 男子：バレーボール・サッカー 女子：バドミントン・卓球</p> | |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------------------------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 保健 | | 使用教科書 主教材 | 「保健体育」(大修館書店) 「最新高等保健体育」(大修館書店) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 特になし |
| 共通 | | コマ数 | 0.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|---|--|---|
| 目標 | 健康と安全に関する理解を通して、豊かに生きる能力を身につける。 現代社会における健康問題を理解するための基礎知識を習得する。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 自分のからだやこころ、健康状態について理解する力。日常生活における健康課題に関する知識。 | 健康課題や問題点を思考し、解決に向けた確かな判断、行動ができる力。自分の考えを適切に表現し、グループ討論などで発話する力。 | 日常生活において、習得した知識を主体的に実践する姿勢。知識を実生活と関連させ、さらなる健康維持向上のために自ら学ぶ姿勢。 | 日常生活における健康課題に対して問題意識を持ち、簡潔に向けて知識や思考を他者と共有しようとする力。 |
| 学習方法 | 日常生活に即した「実践的」な内容を意識しつつ、対話型・グループ学習を重視し、協働的な学びを進める。他者との対話によって自己の思考を広げ、深めていくことを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、定期考査、レポート、出席状況、課題の到達度 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|---|
| 1学期 | 健康な生活と病気の予防 ・栄養・休養・運動と健康 ・生活習慣病と健康 ・感染症と健康 | ・健康の保持増進のために、栄養、休養、運動と疾病、およびその予防の観点から望ましい生活習慣について学ぶ。 ・自らの身体や生活に向き合い、習得した知識を日常的に活用できる態度を養う。 |
| 2学期 | 健康な生活と病気の予防 ・喫煙・飲酒と健康 ・薬物と健康 | ・喫煙や飲酒などの嗜好品および薬物が個人や社会に及ぼす問題について学ぶ。 |
| 3学期 | 現代社会における健康問題 | ・現代社会・生活における健康に関する諸問題について知り、自らの問題として考える力を身につける。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 探究基礎 | | 使用教科書 主教材 | 「課題研究のメソッド」(啓林館) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 研究ノート |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|--------------------------------|-------------------------|-----------------------------|
| 目標 | 自然科学と人文社会に関する共通課題について、小集団による探究活動を通じて、探究活動における基本的な手法や態度を身につける。自然科学と人文社会それぞれの視点から課題を捉え、仮説の設定、実験・調査計画の立案、先行研究の調査、実験・観察の実施、研究記録の付け方、データ処理、考察の組み立て、論文・ポスターの書き方、プレゼンテーションの方法など、一連の探究活動の過程を経験しながら、探究活動の基礎的技能を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 探究活動に必要な基礎技能や姿勢 | さまざまな角度から物事を考える力や、内容を正確に伝える表現力 | 他者と協働し、積極的に課題を解決しようとする力 | 他者あるいは自己の取り組みを公正かつ的確に評価する姿勢 |
| 学習方法 | 探究活動では、領域ごとに設定された共通テーマに即して、調査・実習・実験を行い、発表・討議し、相互評価を行う。また、探究活動の各段階において、グループ間の比較や検討を行うための講座内での共有を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 「探究活動の基礎的技能の習得」を基準に、以下の項目について総合的に判断して評価する。 <ul style="list-style-type: none"> 定期的に行う振り返りや探究成果レポートなどをまとめたポートフォリオ 実験や調査の過程を記録した研究ノート 探究活動の報告・発表に関する他者評価ならびに自己評価 など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 自然科学領域と人文社会領域の2つの学問的手法を用いて、全員がそれぞれの領域における共通課題に取り組みながら、探究活動に必要な基本的な技能や姿勢を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 自然科学領域 (理科、数学) 人文社会領域 (社会、創作) | それぞれの領域において、次の過程で授業を進める。 ①課題に対する仮説を立てる。 ②先行研究の調査を行う。 ③検証方法を考えて、計画を立てる。 ④実験・調査・フィールドワークを行う。 ⑤データ処理に関する基礎を学ぶ。 ⑥実験・調査結果から考察を行う。 ⑦仮説の修正や実験・調査方法の修正を図る。 ⑧レポートやプレゼンテーションを作成する。 ⑨発表会を行い、自己評価・相互評価を行う。 |
| 2 学期 | 各領域について、2人の教員が協働して授業を進める。それぞれ課題提示からはじまり、仮説の立て方、実験・調査、分析・考察、発表など、探究活動の一連の過程を授業で行う。 | |
| 3 学期 | 4年「基盤探究I」において、個人またはグループで取り組む課題を決定し、4年の探究活動がスムーズに始められるように準備を行う。 | テーマは次の3種類のいずれかとする。 (1) 科学探究系 (2) 社会貢献系 (社会貢献活動、国際交流活動) (3) 芸術探究系 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|-----|-----------|-----|----|------------------|-----------------------------|
| 学年 | 3 | 科目名 | 道徳 | | 使用 教科書 主教材 | 「中学道徳 あすを生きる 3」 (日本文教出版) |
| 理系・文系 | 必修 | 必修選択・自由選択 | | 教材 | 副教材 | 特になし |
| 共通 | コマ数 | 1 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|---|--|
| 目標 | 自立した人間として他者と共によりよく生きるために、物事をさまざまな方向からとらえ、議論することを通して、自分の生き方や他者、社会との関わり方を深く考え、行動することができる。 【3年生の重点目標】 主として集団や社会との関わりを通じて、他者を受容するとともに、自己肯定感を育む | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 世界のさまざまな道徳的価値について知る、学ぶ | 主張が対立する諸価値について考え、議論し、自分ならどうするかを判断する力を養う | 自分たちにとって身近な問題等をテーマとして授業を展開し、主体的に学ぶ力や道徳的心情を豊かに育む | 他者の意見を「聴く」ことと、自分の意見を「語る」ことを通じて、人として生きる意味を重層的に概念把握する力 |
| 学習方法 | 教材（教科書や視聴覚教材、シミュレーション教材、その他）を用いて、個人やグループで主題に沿った活動（自分の考えを書く、述べる／他者の考えを聴く／お互いに意見を交わして議論する）。また活動内容を振り返ることで、学習内容の確認と定着をはかる。 【3年生の重点目標】 多様な価値観の存在を知り、世界に目を向けた道徳的価値について考えさせる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業者による評価、自己評価、他者評価等を総合的に判断し、文章による評価を行う | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 端末の使い方等を通じて、情報モラルについて学習する。 映像教材（映画等）を用いて、人としての生き方、社会の一員としての自己のあり方について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 高度情報化社会に生きる中で、必要となる情報モラルを身につけさせる。 いかに生きるかを考えるなかで、自己を見つめさせる中でとともに、社会の中の個人について考えるきっかけを与える。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> SDGs の 17 の目標から、それぞれが関心を持つ目標についてグループで意見交換することで、他者の価値観について知る 教科書の教材や映像教材等から異文化について知り、私との関わりの中で考える。 | <ul style="list-style-type: none"> SDGs の視点から世界の文化や価値観について学び、広い視野に立って考える能力の育成に努める。 文化や価値観が違っているとどんな問題が発生し、それを解決するためにはどうすればいいかを考え、異文化について共感的理解を進める。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書の教材や課外活動の中で得られた経験等をもとに、「公平」「公正」などの社会的価値について、それぞれの異なる立場からの異なる見解について学び、ともに考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 「多様性」「共生」などの、地球規模的な課題について理解し、自分なりの問題へのかかわり方や考え方を深める。 |

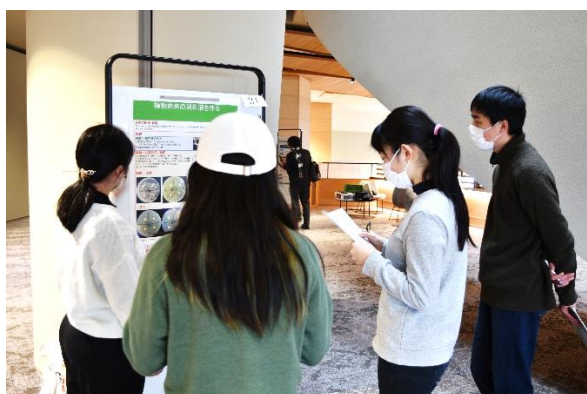
| | |
|----|---------------------------|
| 備考 | 教科の性質上、主題や教材は変更することがあります。 |
|----|---------------------------|

4年

体育大会



「基盤探究Ⅰ」成果発表会 @大和ハウスみらい価値共創センター「コトクリエ」



文科系か理科系か

後期課程の生徒を悩ませる魔物のひとつが、「文科系か理科系か、それが問題だ。」というセリフです。興味・関心をはっきりしている人は、迷わずにすみますが、すんなりと決められない生徒は、毎年3分の1以上います。

また、現代学問の発達とは学際的（従来の学問領域をこえていく）で、文科系・理科系の境界をこえた研究が目白押しです。また大学によっては、境界領域を扱う学科等が新設されつつあります。「哲学と科学の再婚の時代」ともいわれます。さて、この難問に対し、どのように考えればよいのでしょうか。

1 「文科系」「理科系」機械的分離への反省

センター試験制度が登場するまでは、文科系・理科系を問わず、生徒はかなり共通した教科内容を履修していました。しかし、私立大学を中心に受験科目数を減らすところが出てくると、科目数の少ない大学・学部には受験生が殺到するという状況が生まれました。「科目数の減少＝受験の負担軽減」と受けとられたのです。多くの場合、科目数の軽減は合格ラインの上昇という形で、負担軽減には結びつかなかったのですが……。

しかしその結果、大学では困った事態が生じ始めました。経済学部で統計学を教えようとしても指数・対数がわからない。環境問題を学ぶのに、化学の国際基本単位系(SI)がわかっていない。数学や物理の問題は解けても、新書本も読めず、論文も書けない学生等が、次々と登場したからです。したがって、そんな大学生にならないためには、「楽をしたい」一心で科目履修の幅を狭めることのないようにすることが肝要です。

2 自分の「適性」を発見する

とはいえ、便宜上現実に「文科系」「理科系」の区分はあります。境界領域も含め、5・6年に選択を迫られることは事実です。将来の可能性から何かを「選択」ということは、逆に、何かの可能性を「捨てる」ということでもあります。

「選択」する際に大切なことは、自分の「適性」を客観視することです。とはいえ、自分の「適性」をピンポイントで発見することは不可能です。ただ、「好きこそものの上手なれ」というように、「興味・関心のあること」＝「適性」と考えて、おおむね間違いはなさそうです。6年間の生活の中で打ち込んだものがあるとなれば、そこに必ずヒントがあります。

もちろん、例外はあります。「星空を眺めていると、ギリシャ神話の悲恋を想像する。だから天文学をやりたい。」という人の多くは、間違いなく文科系向きです。実際の天文学は「超」理科系の学問です。選択にあたっては、多くの人に話を聞いてもらいながら、自分で整理していくことが大切です。

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|---------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 現代の国語 | | 使用教科書 主教材 | 「現代の国語」(筑摩書房) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | 「最新国語便覧」浜島書店 |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|--|--|---|
| 目標 | さまざまな時代の文章を、その言語表現を通して読み味わう態度を身につける。先哲の叡智と対峙し、仲間との対話的な学びによって理解を深める。言語への感覚を磨き、論理的に書き表す力を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 基礎的な言語事項に関する理解。論理的な文章を読み解くための基礎的な語彙の理解。 | 文章の意味や論点を的確に捉え、理解する力。筆者の主張を自身の言葉に置き換える力。 | 新たな語彙や表現を習得しようとする姿勢。自らや社会に対して考えを深める姿勢。 | 他者との交流で新たな考えを獲得し、異質性を受け入れる姿勢。問いと向き合う態度。 |
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 ・論理的な文章や実用的な文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・スピーチや討論などで自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。 | | | |
| 評価の方法 | 定期考査・提出物・小テスト・授業内課題などを総合的に加味する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・「境目」川上弘美 ・「ことばとは何か」内田樹 ・「デジタル社会」黒崎政男 ・「身体、この遠きもの」鷲田清一 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を把握しながら、論理性に着目しつつ文章を読み取る。 ・筆者の主張を正確に理解し、問いかける力を伸ばす。 |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・「わかっていることと知らないこと」堀正岳 ・「誰かの靴を履いてみること」プレディみかこ ・「マルジャーナの知恵」岩井克人 ・「会話と対話」長田弘 ・「記憶する体」伊藤亜紗 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を支える根拠を論理的に把握する。 ・文章の修辞や構成、論理展開上のさまざまな工夫などについての確にとらえて読み進める。 ・読解したものを論理的に表現する。 |
| 3 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・「主体という物語」小坂井敏晶 ・「開かれた文化」岡真理 ・「リスクと近代社会」大沢真幸 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて叙述を基に内容を的確に捉える。 ・筆者の主張を自身の言葉に置き換えて理解する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や表現方法を工夫する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | | |
|-------|---|--------------|------|-----|---|------|------------|---|
| 学年 | 4 | 科目名 | 言語文化 | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | 「言語文化」(筑摩書房) |
| 理系・文系 | | 必修・必修選択・自由選択 | | | | | 副教材 | 「体系古典文法」(数研出版)「精説漢文」・ 「古文単語 330」(いっずな書店)「最新国語便覧」(浜島書店) |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | 2 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|--|--|
| 目標 | 様々なテキストに対する読解力の向上をはかり、言語や文化を動的に捉え、それらに対する見方や考え方の深化と拡充を目指す。言語への感覚を磨き、論理的に書き表す力を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 基礎的な言語事項に関する理解。歴史的な言語文化事象に対する基礎的理解。 | 様々な作品を比較して多角的多面的に考察する力。言語文化の現象を動的に捉える力。 | 新たな語彙や表現を習得しようとする姿勢。自らや社会に対して考えを深める姿勢。 | 他者との交流で新たな考えを獲得しようとする態度。自身の問いと向き合い問い直す力。 |
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 古典作品のものの見方や考え方、言語文化を理解して、さまざまなジャンルの文章を読み深める。 文学作品の表現方法や主題などについて、自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。 | | | |
| 評価の方法 | 定期考査・提出物・小テスト・授業内課題などを総合的に加味する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | (古典分野) ・説話「大江山」など・物語「伊勢物語」など ・故事成語「推敲」「漁夫の利」など ・古典文法、古文単語、漢文の句法 (現代文分野)・小説「羅生門」など | (古典分野) ことばの変遷、古語への関心を深める。 古文の説話、物語を読んで、古人のものの見方や考え方を理解する。漢文への関心を高め、基本的な句法を習得する。 (現代文分野) 物語を読み、人物の心情を読み解く。 |
| 2 学 期 | (古典分野) ・随筆「徒然草」「方丈記」など ・唐詩、十八史略など ・古典文法、古文単語、漢文の句法 (現代文分野) ・随想「失われた両腕」など | (古典分野) ことばの変遷、古語への関心を深める。 随筆を読んで、古人のものの見方や考え方を理解する。唐詩を学び、日本にも生きる漢詩の世界に気づく。史伝を読み味わい、古人の生き方を知る。 (現代文分野) 筆者の主張を把握し、論理性に着目して随想を読み解く。 |
| 3 学 期 | (古典分野) ・日記「土佐日記」など ・中国古典思想など ・古典文法、古文単語、漢文の句法 (現代文分野)・韻文など | (古典分野) ことばの変遷、古語への関心を深める。 日記を読んで、古人のものの見方や考え方を理解する。中国古典思想を学び、日本文化とのつながりを発見する。 (現代文分野) 韻文を読み味わい、表現の仕方や特色を理解する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|-----------|-----|--------------|------------------------------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 地理総合 | | 使用教科書 主教材 | 『地理総合』（東京書籍） 『詳解現代地図 最新版』（二宮書店） |
| 理系・文系 | | 必修 | 必修選択・自由選択 | | 教材 | 副教材 |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|--|--|---|
| 目標 | 地理的な見方や考え方を活かし、グローバル化に対応しつつ持続可能な社会の担い手として求められるシティズンシップとともに、防災などの諸課題に即応する力を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地理的知見を空間的に認識する力 ・GISの諸機能を操作する技能 ・地図や統計を読み解く力 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に、地理的知見を防災や減災のために使う判断力 ・地図やグラフを使って表現する力 | <ul style="list-style-type: none"> ・知的好奇心を持って主体的に探究する力 ・多様な世界に共感的に理解する力 ・地理的諸課題の解決に主体的に関わる力 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働しながら、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 ・歴史的・現代的な諸課題とつなげて理解し、社会へ視野を広げる力 |
| 学習方法 | 教師の講義とともに、地理院地図など主にインターネットGISの諸機能を用いて、オリジナルな地図を描いたり、共感的理解を得るためにシミュレーションゲームを用いたりする。 | | | |
| 評価の方法 | 作成したオリジナルの地図やグラフなど提出物の評価を重んじるが、従来通りの定期考査や授業への参加度などの評価も用いる。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | 1. 地図と地理情報システム (1)地図の役割と種類 (2)GISのしくみと使い方 2. 自然環境と防災 (1)日本の自然環境の特色 (2)さまざまな自然・人為災害と防災・避難行動 (3)生活圏の調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の場面でも生かせるよう、地理情報を取り出して表現する力を身に付けさせるとともに、紙媒体の地図の重要性も認識させる。 ・自然災害だけでなく、それに伴う火災や原発事故などについても学習する。また、自然災害の種類によって避難行動が異なることを考えさせることで、“命を守る行動”を身に付けさせる。 |
| 2 学 期 | 3. 国際理解と国際協力 (1)生活文化と地形 (2)生活文化と気候 (3)生活文化と産業 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界のさまざまな地域に多様な文化があることを地理的に理解するために必須となる地形と気候について、各地域の文化と絡めて理解させる。 |
| 3 学 期 | (4)地球的課題と国際協力 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地球的課題(グローバルイシューズ)についての理解を深め、その解決に向け行動できるシティズンシップを身に付けさせる。 |

| | |
|----|---|
| 備考 | この科目は全国的に設置初年度であるため、シラバスに書いた順番や内容は変更する可能性がある。また、必要に応じて副教材を購入してもらうこともある。 |
|----|---|

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------|---|--|--------------|---|
| 学年 | 4 | 科目名 | 解析 I | | | 使用教科書 主教材 | 「数学 I Advanced」(東京書籍) 「数学 II Advanced」(東京書籍) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | 副教材 | 「改訂版教科書傍用 4STEP 数学 I + A、II」(数研出版) |
| 共通 | コマ数 | 1.5 | 単位数 | 2 | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|---|--|
| 目標 | 論理を構成する力を身につけ、数学的な様々な事柄を証明することができる。 さまざまな関数の特徴や違いを理解し、関数で世界を見る力を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 等式などのいろいろな証明方法を理解する。関数のグラフをかくことで、方程式や不等式を視覚的に表現し、そこから様々な表現を得ることができる。 | 現実問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、事象を関数的に考察することができる。 | 積極的に関数の考えを適用することにより、具体的な現象の理解や課題の解決を図ろうとする。 | 学んだ関数が出現する現象を探すなどの数学的活動を通して、学習した数学を応用して問題の解決や探究活動を遂行できる。 |
| 学習方法 | 概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題を考えながら、知識・理解の定着をはかる。実験や観察をできるだけ取り入れ、主体的な学びを期待する。 授業進度によって、内容を変更する場合がある。 | | | |
| 評価の方法 | 学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | 1. いろいろな式 (数学 II) 整式の乗法、3 次の乗法 (因数分解) 公式 整式の除法、分数式の計算、恒等式、 等式と不等式の証明・課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> 分配法則や乗法公式をもとに、因数分解ができる。 整式の除法、商と余りの求め方を理解する 恒等式の意味を理解する。 等式・不等式の証明ができるようになる。 |
| 2 学期 | 2. 指数関数・対数関数 (数学 II) 指数関数 対数関数 課題学習 3. 微分積分の基礎 (数学 II) 微分の考え | <ul style="list-style-type: none"> 累乗根の意味を理解し、指数を任意の実数まで拡張する。また、指数関数の性質について理解する。 対数を定義し、その基本性質を理解する。 対数関数の性質について理解する。 極限の考え方をを用いて、微分係数や導関数を理解し、それらを求めることができる。 3 次関数の最大、最小や極値を求め、増減表を書き、グラフの概形を描くことができる。 |
| 3 学期 | 積分の考え | <ul style="list-style-type: none"> 定積分を用いて、種々の図形の面積を求めることができる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|--|
| 学年 | 4 | 科目名 | 代数・幾何 I | | 使用教科書 主教材 | 「数学 I Advanced」(東京書籍) 「数学 A Advanced」(東京書籍) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 「改訂版教科書傍用 4STEP 数学 I + A」 (数研出版) 授業用プリント |
| 共通 | | コマ数 | 2 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|------------------------------------|--|---|
| 目標 | 論理を構成する力を身につけ、数学的なさまざまな事柄を証明することができる。 平面幾何から三角比、解析幾何へと学習分野を広げることで、幅広い幾何的な学力を身につける。 場合の数を正確に計算し、確率を正確に求めることができる。条件付き確率について理解できる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 場合の数や確率、三角比などを求めることができる。 不定方程式や合同式を活用して整数の問題を解決できる。 | 三角比などで、図形のさまざまな性質を、数式を用いて表せることを知る。 | 現実の問題に、積極的に数学の考えを利用しようとする。 具体的な事象から、興味を持って、積極的に問題を数学的に解決しようとする。 | 実験や操作活動を通じて、確率の概念を理解する。 現実問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、事象を数学的に考察できる。 |
| 学習方法 | 概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題を考えながら、知識・理解の定着をはかる。 実験や観察をできるだけ取り入れ、主体的な学びを期待する。 授業進度によって、内容を変更する場合がある。 | | | |
| 評価の方法 | 学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 1. 図形と計量 (数学 I) 正弦定理・余弦定理, 三角形の面積 2. 集合と命題 (数学 A) 集合と命題, 必要条件と十分条件, 対偶, 集合の要素の個数 | <ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理と余弦定理を理解できる。 ・三角形の辺と角の関係や図形の面積を求められる。 ・集合と集合の間の包含関係について理解する。 ・命題の真偽と集合の包含関係を理解する。 ・対偶を用いた証明, 背理法を理解し, 証明できる。 |
| 2 学期 | 3. 場合の数と確率 (数学 A) 和の法則・積の法則, 順列・組合せ (二項定理), 確率とその基本的な法則, 独立な試行と確率, 条件付き確率 | <ul style="list-style-type: none"> ・順列・組合せについて理解し, その総数を求められる。起こりうるすべての場合をもれなく, 重複なく列挙する方法を身につける。 ・確率の意味を理解し, 正しく計算できる。 ・独立試行の確率・条件付き確率について理解し, 具体的な場面で活用できる。 |
| 3 学期 | 4. 整数の性質 (数学 A) ユークリッドの互除法, 整数の性質, 不定方程式, 合同式 | <ul style="list-style-type: none"> ・不定方程式の意味を理解し, 使うことができる。 ・合同式を理解し, 整数の性質を探究できる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------|---|--|--------------|------------------------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 物理入門 | | | 使用教科書 主教材 | 改訂「物理基礎」東京書籍 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | | 副教材 「New Global 物理基礎」東京書籍 |
| 共通 | コマ数 | 1.5 | 単位数 | 2 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|--|--|
| 目標 | 自然界や日常の諸現象を一般化するための、物理学の入門的な理論について学習する。特に、力学や波動など、各領域の相関と差異に注目しながら、物理現象を考察する視点を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 実験や観察の結果に基づいて知識を抽象化および一般化する力。 目的に応じた実験器具や実験方法を選定する力。 | より抽象的な科学的思考力の育成。 自然現象の本質と自然界の一樣性と多様性を理解する能力。 | 知識の現実生活への適用と応用。 実験観察に意欲的に取り組む態度。 多様な解の存在を意識し、別解を思考する力。 | 習得した知識を他の事例に反映させる態度。 生徒自身による観察実験の計画と実施。 |
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を通して、物理の基礎概念を形成する力を養う。 ・思考実験や問題演習を通して、科学的思考力を高める。 ・グループワークや討論を通して、自分の意見や考えを表現する。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|-------------------------|--|
| 1 学期 | 1. 運動方程式 2. 運動とエネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ・運動方程式について理解し、力の概念とその作用について理解を深める。 ・仕事とエネルギーの関係について理解する。 ・力学的エネルギーが保存されることを理解する。 ・力学の発展として、円運動の仕組みや遠心力の概念を理解する。 |
| 2 学期 | 3. 熱 4. 波の性質 | <ul style="list-style-type: none"> ・熱に関する基本概念を獲得する。 ・多様なエネルギーに関する諸概念を獲得する。 ・波に関する基本概念を獲得する。 ・音の現象を波の性質から捉え、理論化する。 |
| 3 学期 | 5. 円運動 6. 万有引力 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動方程式の発展として、円運動の仕組みや遠心力の概念について理解する。 ・万有引力の概念について理解し、円運動を応用した概念形成を行う。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|----|------------|---|
| 学年 | 4 | 科目名 | 生物入門 | | 使用 | 教科書 主教材 | 「高等学校 改訂 生物基礎」 第一学習社 |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 | 副教材 | 「三訂版 フォトサイエンス生物図録」 数研出版 「セミナー生物基礎」 第一学習社 |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|-------------------------------------|--|
| 目標 | 生活体験だけによる浅い知識から、経験的な知識の抽象化や一般化ができるようにする。 自然科学一般に対する理科的素養を身につけさせる。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 経験的な知識を抽象化および一般化する力。 器具の扱い方の習熟と正確な観察や測定をする技能。 | より抽象的な科学的思考力の育成。 自然現象の本質と自然界の一樣性と多様性を理解する能力。 | 知識の現実生活への適用と応用。 実験観察に意欲的に取り組む態度。 | 習得した知識を日常のトピックスに反映させる態度。 生徒自身による観察実験の計画と実施。 |
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を通して、器具の扱いに慣れ、生物の共通性と多様性を理解する。 ・思考実験や問題演習を通して、科学的思考力を高める。 ・グループワークや討論を通して、自分の意見や考えを表現する。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・提出物・レポート・実験観察技能・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---------------------------------|---|
| 1 学 期 | 1. 生物の特徴 2. 遺伝子とその働き | <ul style="list-style-type: none"> ・環境に適応した生物や細胞の多様性を学ぶと同時に、細胞構造を中心とした生物の共通性を学ぶ。 ・エネルギーと代謝の関係性、酵素の基質特異性や最適温度・最適 pH について学ぶ。葉緑体・ミトコンドリアの内部構造とはたらきを知る。 |
| 2 学 期 | 2. 遺伝子とその働き (つづき) 3. 生物の体内環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝していくもの (遺伝子) の次世代への遺伝方法やそのはたらきを学ぶ。 ・体内環境を維持するしくみと健康の関係について学ぶ。体液の循環や、調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などのはたらきを学ぶ。自律神経とホルモンによる体内環境の調節や免疫のしくみを学ぶ。 |
| 3 学 期 | 4. バイオームの多様性と分布 5. 生態系とその保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な植生や、遷移が生じるメカニズム、気候条件の違いにもとづく様々なバイオームの分布、生態系におけるエネルギーの移動と物質の循環のしくみを理解し、生態系の保全の重要性や地球環境について考える。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------------|-----|---|------|------------|--|
| 学年 | 4 | 科目名 | Topic Studies II | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | Crossroads English Communication I (大修館) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | | 副教材 | be English Grammar 46 Workbook (い いずな書店)、WISDOM 英和辞典(三省堂)、 『総合英語 be』(い いずな書店) |
| 共通 | | コマ数 | 2.5 | 単位数 | 3 | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|--|--|
| 目標 | 国際的に通用する発音、リズム、イントネーションで自分の考えや意見を表現する。幅広いトピックの英文を理解し、そこから情報を引き出す。視野を広げ、地球市民として世界を知ろうとする態度を養う。身近なトピックについて、意見を論理的に表現したり、意見の交換を行う。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。 | コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について知識や得た情報を整理・活用して自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝えることができる。 | トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとする。相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。 | ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で自分の役割を考え英語を学ぼうとする。辞書を活用し、自主的に調べたり、知識を広げようとする。 |
| 学習方法 | 身近なトピックについて、英語を読んだり、聞いたりする。 読んだ内容について英語を書いたり意見交換する。 まとまりのある英文を、文法や語法などに注意して読み、文章の意味を正しくつかむ。 辞書を利用し、自分の力で理解しようとする。 | | | |
| 評価の方法 | 定期考査、小テスト、課題、発表、授業態度、学習意欲、出席状況 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | Cross-Cultural Communication Media Literacy Environment | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい文化の中で生活する人を支える取り組みについて理解し、考えを深める。 ・新しいメディアやコミュニケーションの方法について理解し、考えを深める。 ・世界の海が抱える問題について理解し、考えを深める。 |
| 2 学 期 | Volunteer Activities Health | <ul style="list-style-type: none"> ・他人を援助している人々について理解し、考えを深める。 ・長く健康に生きるための方法について理解し、考えを深める。 |
| 3 学 期 | Cultural Exchange War and Peace | <ul style="list-style-type: none"> ・異文化交流について理解し、考えを深める。 ・難民と彼らを救った人々について理解し、考えを深める。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|---|------|------------|--|
| 学年 | 4 | 科目名 | Writing II | | | 使用教材 | 教科書 主教材 | Crossroads English Communication I (大修館) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | | 副教材 | be English Grammar 46 Workbook (い いずな書店)、WISDOM 英和辞典(三省堂)、 『総合英語 be』(い いずな書店) |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | 1 | | | |

| | | | | |
|-------|--|---|--|--------------------------------------|
| 目標 | トピックについての自分の意見を、論理的に書く力を身につける。 内容にふさわしい英文スタイルを学ぶ。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等 | 学びに向かう力・ 人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を用いて意見を表現しようとする。 | 新しく習った語句や文法を使って、目的・場面・状況等に応じて読み手を意識した文章を書くことができる。 パラグラフ展開法に従って論理的な文章を書き発表することができる。 | トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとするとともに、相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。 | 辞書や参考書を利用し、よりよいパラグラフになるよう工夫することができる。 |
| 学習方法 | パラグラフ構成法に基づいてパラグラフの構成を学ぶ。 スピーチやプレゼンテーションの原稿を論理的に書く。 正確な英文が書けるよう練習問題（和文英訳を含む）に取り組む。 | | | |
| 評価の方法 | 定期考査、小テスト、課題、発表、授業態度、学習意欲、出席状況 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | (例) Problem Solution Classification Cause and Effect | 基本的なパラグラフ展開を学び、パラグラフが書ける。 |
| 2 学 期 | (例) Persuading by Argument Graph description | さらに進んだパラグラフ展開を学び、書くことができる。 |
| 3 学 期 | これまで学習したパラグラフのまとめ | これまで学習したパラグラフの展開のうち、書きたいことに合うものを選び、説得力のあるパラグラフを書くことができる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|------------|---|----|--------------|-----------------------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 家庭基礎 | | | 使用教科書 主教材 | 家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍） |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | | | 副教材 L I F E おとなガイド（教育図書） |
| 共通 | コマ数 | 2 | 単位数 | 2 | 教材 | | |

| | | | | |
|-------|---|-------------------------------|---|-------------------------------|
| 目標 | 生活を総合的に捉えるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 人の一生と家庭生活、衣食住、消費生活・環境など生活を総合して主体的に営むために必要な知識と技能。 | 生涯を見通した生活において、課題を見だし、考え解決する力。 | 家庭生活や社会生活を豊かにするために工夫し創造する実践的な態度・伝統的生活文化を継承しようとする態度。 | 学びを総合的に発展させて、生涯生活の質的向上に応用する力。 |
| 学習方法 | 座学と実験・実習とを組み合わせ、食生活や家庭生活の内容を中心に学習する。 実験・実習については、調理教室または被服教室を使用する。使用上の注意を守り、安全と衛生に留意して実習する。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・実技・出席状況など | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | 食生活 ・栄養素の科学的機能 ・食環境の安全性 住生活 ・ライフサイクルと住生活 ・住環境調査 | ・栄養素を科学的に見る目を養い、実験・実習を通して食品の科学的機能を理解する。 ・食中毒などを中心に食品の衛生と安全についての理解を深める。 ・ライフサイクルやライフスタイルに適した住生活を学ぶ。 ・身の回りの住環境を調査し、安全で快適な住環境について考察する。 |
| 2 学 期 | 人の一生と家族・家庭及び福祉 ・生涯の生活設計 ・共に生きる生活と社会 ・乳幼児や高齢者への理解 ・ライフスタイルの選択 ・課題学習 | ・人の一生と発達課題について理解し、生涯の生活設計を考える。 ・家族・家庭・社会の意義や関わりについての理解を深め、協力して家庭経営できる能力を養う。 ・児童文化財等の製作・幼児との交流を通して、人の一生や幼児への理解を深める。 |
| 3 学 期 | 日本の食文化の継承・創造 ライフステージの特徴と衣食住の生活 探究活動 | ・ライフステージとライフスタイルとの関連・伝統的生活文化の特徴とそれを伝承することの大切さを学ぶ。 ・身近な生活の中から、いろいろな違いやその理由を探究する活動を通して、ものの見方・考え方を広げる活動を体験する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|--------------|-----|------|---|--------------|--------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 美術 I | | 使用教科書 主教材 | 高校美術（日本文教出版） |
| 理系・文系 | 必修・必修選択・自由選択 | | | | 教材 | 副教材 |
| 共通 | コマ数 | 1.5 | 単位数 | 2 | | |

| | | | | |
|-------|---|---|---|---|
| 目標 | 高度な技能の習熟を目指し、創造活動に主体的に取り組む。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 素材や技法を通じた体験や発見を大切に、自らの表現に活かす。 | 視覚の客観性について理解・習得した上で、自分自身のオリジナリティを作品に反映する。 | 作品の考察によって他者世界を認める。自己世界について模索し表出させることで、自己について省み、内面の更なる充実を図る。 | 作品制作のコンセプトについて考え言語化することによって、互いに意見交換できる。 |
| 学習方法 | ○様々な素材や技法を使い、課題内容に基づいた作品制作を行う。 ○完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。また、課題内容に合わせテーマが類似した過去の美術作家の作品を参考にし、自らの作品の表現をさらに向上させる。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・課題プリント及び作品の提出 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | 平面表現（油彩による静物画制作） ○静物モチーフの配置・構成 ○F4キャンバスと同サイズの鉛筆素描 ○支持体の制作（木枠組み／キャンバス張り／白亜地制作） ○下図からの転写・一色塗り | ◇モチーフが配置された空間をよく観察し、画面に自らが観察したことを表現する力を培う。 ◇光と影の色の差を認識し、二次元上に立体感を表現できるよう努力する。 ◇油彩の支持体を制作することによって絵画材料の理解を深める。 |
| 2 学期 | 平面表現（油絵の具による静物画制作）の続き ○彩色 映像表現（30秒CMの制作） ○ペットボトル飲料の商品企画を行い、同商品のラベルデザイン、CM制作を行う。 | ◇作品における表現を向上させるために粘り強く取り組むことができる。 ◇様々なペットボトル飲料のデザインを鑑賞し、その意図を汲み取り、自らの制作に活かすことができる。 |
| 3 学期 | 映像表現（30秒CMの制作）の続き | ◇CM制作の流れを理解し、計画を立て、作品を完成できる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-----------|-----------------------|-----|------|-----|--------------|---------------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 音楽 I | | 使用教科書 主教材 | Music View I (教育出版) |
| 理系・文系 | 必修・ 必修選択 ・自由選択 | | 教材 | 副教材 | 配布プリント等 | |
| 共通 | コマ数 | 1.5 | | | | 単位数 |

| | | | | |
|-------|--|---|---|---|
| 目標 | 多様な感性を認め、個性豊かな表現力と鑑賞の能力を伸ばす。生涯にわたって音楽に親しみ芸術文化を尊重する態度を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 器楽演奏及び歌唱に関する基礎的な技能。また、音楽理論や音楽史に関する基礎知識。 | 創作背景や音楽理論等多面的に音楽を理解し、適切な楽曲解釈を行う力。また、その解釈を他者に伝える力。 | 改善点を明確にし、目的意識をもって主体的に活動する力。音楽芸術の歴史的・文化的背景への理解を深め、学問としての音楽を尊重する姿勢。 | 自己の感性を磨くと共に、多様な感性を受容する力。他者と協働して音楽表現を作りあげる力。 |
| 学習方法 | 歌唱：アカペラを主として、純正律を目指した響きづくり。 器楽：専門楽器を選択し、2年計画で取り組む。グループで目標を共有し、互いに学び合い高め合う。 鑑賞：音楽芸術に沢山触れ、歴史的・文化的背景から楽曲理解を深める。 創作：自作の音楽作品を他の芸術表現へと拡張する。 | | | |
| 評価の方法 | 発表・実技、学習意欲、ワークシート、創作作品、その他提出物等 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|---|
| 通年 | 1.歌唱(独唱, 合唱) 2.器楽(2年計画) 基礎技能の習得⇒ソロ曲の習得⇒同楽器とのアンサンブル⇒他楽器とのアンサンブル⇒大編成のアンサンブル 3.創作(音楽映像作品) 4.鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに身につけた発声法をベースに様々なジャンルの楽曲に取り組む。また、アカペラにより純正律の美しい響きを体得する。 ・専門楽器を一つ選択し、グループで適切な題を設定し、協働して基礎技能を習得する。アンサンブルの喜びを得る。 ・自作曲を視覚的に表現し、創作表現の可能性を拓げる。 ・様々な名作・名演に触れ、多様な価値を認めると共に、歴史的・文化的背景を紐解き、芸術を深く理解する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | | |
|-------|--------------|-----|------|-----|--------------|-------------|--|
| 学年 | 4 | 科目名 | 工芸 I | | 使用教科書 主教材 | 課題にあわせた独自教材 | |
| 理系・文系 | 必修・必修選択・自由選択 | | 教材 | 副教材 | | | |
| 共通 | コマ数 | 1.5 | | | | | |

| | | | | |
|-------|--|----------------------------|-----------------------------------|-----------------|
| 目標 | 風土、歴史に根ざした身近な生活文化への認識を高め、工芸作品への理解を深める。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 生活の中での有用性、機能と美しさについて考える。 | 日常の生活を豊かに楽しむための発想力・構成力を養う。 | 作品のコンセプト考案から完成まで、作品制作に必要な技法を習得する。 | お互いの作品を比較し討論する。 |
| 学習方法 | 素材や技法の特徴を理解し、作品作りを行う。 完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 作品の制作の過程や実習中の意欲・態度、完成された作品を評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|------------------------------|---|
| 通年 | 陶芸 ・器のデザインと制作 ・陶芸作品の制作 | <ul style="list-style-type: none"> ・陶器での作品作りを通して、日本の食文化を体験する。 ・器のデザインと機能美について考え、プロダクトデザインを体験する。 ・食と器について考え、工夫する。 ・装飾文化に関する意識を深める。 ・伝統文化に対する理解を深める。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|--------------|-----|------|-----|--------------|--------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 書道 I | | 使用教科書 主教材 | 「書道 I」(東京書籍) |
| 理系・文系 | 必修・必修選択・自由選択 | | 使用教材 | 副教材 | | |
| 共通 | コマ数 | 1.5 | | | | |

| | | | | |
|-------|--|-----------------------------|---------------------------|----------------------|
| 目標 | 作品制作のための創造的な技能の習熟を目指し、個々の違いや表現の工夫を楽しむ。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 書における美や芸術性に興味を持ち理解する。 | いろいろな表現や美しさに対する興味・関心から工夫する。 | 書によって筆者の精神や感興が表現できることを理解。 | 古典やお互いの作品を比較検討し討論する。 |
| 学習方法 | 個々の技術に応じた制作活動を行う。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・作品・鑑賞 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|---|--|
| 通年 | <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字(草・隸・篆書)、仮名の臨書 ・篆刻 ・自由課題制作(展覧会、文化祭) <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名筆(古典)に触れる。 ・外部展覧会鑑賞。 ・作品の相互評価。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作に必要な古典技術を選別し、個性的な表現をする。 ・個々の興味や技術にあわせて課題を決め、自主的にすすめる。 ・古典やいろいろな作品を評価し自分の作品を向上させる。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 体育 | | 使用教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 副教材 | アクティブスポーツ（大修館書店） |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|--|--|--|
| 目標 | スポーツを通して運動技術を獲得し、運動技能や競技力を向上する。 男女の性差による運動能力や体力の違いを理解し、適切な行動を取れるようにする。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 「なかま」とともに各種スポーツを楽しむ運動技能。運動体系およびルールを理解する力。安全について理解し、実行できる力。 | 自らの興味・適性に合った運動種目を選択する力。自らの課題解決に向けて取り組む力。自他の安全に留意し、楽しく運動できる力。 | 多様な運動種目に積極的に取り組み、挑戦し続ける姿勢。「なかま」とともに協力して運動に親しむ態度。 | 「なかま」と協力して運動・スポーツを楽しみながら、お互いのからだについて考え、ステップアップしようと行動する力。 |
| 学習方法 | 原則として希望する種目を選択し学習する。 教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などから総合的に判断する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | 体づくり運動（全員） Ⅰ期 テニス、ソフトボール、バレーボール、バスケットボールから1種目選択 Ⅱ期 ダンス、水泳とニュースポーツ、陸上、器械体操、武道から4種目開講、1種目選択 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を4期に分け、各期に設置された種目から4種目を開講し、そのうちの1種目を選択する。 ・多種多様な運動を経験することにより、心身の調和的な発達を促す。 ・自らの興味、適性に合った運動種目の内容をさらに進め、運動の楽しさを体験する。 |
| 2 学期 | Ⅱ期 ※上記選択種目を継続 体づくり運動（全員） Ⅲ期 ソフトボール、バレーボール、テニス、武道、ニュースポーツから4種目開講、1種目選択 | <ul style="list-style-type: none"> ・男女や個人の能力の違いについて理解するとともに、互いに協力して練習や競技ができるようにする。 |
| 3 学期 | Ⅳ期 サッカー(男子)、フットサル(女子)、バドミントン、卓球から1種目選択 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種目の特性を理解し、基本技能を用いて競技ができるとともに、勝敗に対する公正な態度をとれるようにする。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|------------------------------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 保健 | | 使用教科書 主教材 | 「保健体育」(大修館書店) 「最新高等保健体育」(大修館書店) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 特になし |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|--|---|---|
| 目標 | 個から集団、社会・世界に目を向け、様々な視点から「健康」をとらえ、思考を深める。 生涯を通じた健康づくりの基礎・基本を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 現代社会における様々な健康問題に関する知識、健やかな生涯生活を送るための知識を習得する力。自らのからだやこころの変化や健康状態について理解する力、「性差」や「個人差」を理解する力。 | 「健康」について、個人から集団へと観点を広げ、考えを深める力。他者との違いを理解し、適切な発言、行動ができる力。自己の考えを適切に表現し、グループ討論などで発話、発表できる力。 | 思春期を健やかに過ごし、生涯にわたって健康な暮らしを送るために、からだや生活の変化を積極的に意識し、よりよい状態に改善しようと努める姿勢。 | これまで習得してきた知識や経験を活かし、生涯における社会問題や健康課題の解決に向けて、他者との対話により、一層自己の思考を広げ、深めようとする力。 |
| 学習方法 | 日常生活に即した「実践的」な内容を意識しつつ、対話型・グループ学習を重視し、協働的な学びを進める。他者との対話によって自己の思考を広げ、深めていくことを期待している。 | | | |
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、定期考査、レポート、出席状況、課題の到達度 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | 性への関心・欲求と性行動の選択 ・からだどこころの発育発達 ・性感染症・エイズの予防 | ・思春期の心と体の変化について理解し、健やかな思春期を送ることができる力をつける。 ・性感染症やエイズの基礎知識を身につけ、正しい性のあり方や行動の仕方について理解させる。 |
| 2 学期 | 結婚生活と健康 ・妊娠、出産と健康 ・避妊法の選択と人工妊娠中絶 | ・健やかな生涯生活を送るための基礎知識を理解し、計画的な人生設計ができる力を養う。 |
| 3 学期 | 健康な社会生活を送るために ・労働と健康 ・加齢と健康 ・医療、保健サービスとその活用 ・精神疾患と健康 ・がんと健康 ・環境問題等 ・献血 | ・高齢化社会を健やかに過ごせる力を身につけるとともに、医療、保健、福祉など社会生活を健康に送るための様々なしくみや活動を理解する。また、安全に健康に労働できる環境作りについても理解し、よりよい社会生活が送れる知識を身につける。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|--|
| 学年 | 4 | 科目名 | 情報 I | | 使用教科書 主教材 | 高等学校 情報 I (数研出版) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 高等学校 情報 I サポートノート ポイント整理 情報モラル (数研出版) |
| 共通 | | コマ数 | 1.5 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|---|--|--|--|
| 目標 | 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技術を習得する。 | 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。 | 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。 | 他教科・科目においても、主体的に必要な情報を収集・判断・表現・処理・創造し、効果的に発信・伝達することができる。 |
| 学習方法 | ICTを活用した課題解決型学習を通して、情報活用能力の育成を目指す。單元ごとに進めていくのではなく、網羅的に学習していくため、授業で扱いきれなかった部分については、副教材のサポートノートを用いて、自学すること。 | | | |
| 評価の方法 | 実習課題やレポートなどの日々の活動や定期考査、出席状況などを総合的に評価する。 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|----|--|---|
| 学年 | <p>次の①～④の課題解決型学習を通して、4領域を網羅的に学習する。</p> <p>※ 順番や内容は多少変更することもある。</p> <p>① 情報デザイン ・情報デザイン ・情報のデジタル表現 ・プログラミング ・プレゼンテーション</p> <p>② モデル化とシミュレーション ・情報デザイン ・データサイエンス ・モデル化とシミュレーション</p> <p>③ プログラミング ・プログラミング ・情報のデジタル表現 ・ネットワークのしくみ ・セキュリティ</p> <p>④ データベース ・データベース</p> | <p>各領域のねらいは以下の通りである。</p> <p>(1) 情報社会の問題解決 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。</p> <p>(2) コミュニケーション ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける。</p> <p>(3) コンピュータとプログラミング ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。</p> <p>(4) 情報通信ネットワークとデータの活用 ・データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善することができる。</p> |

| | |
|----|----------------------------------|
| 備考 | 自作プリントを用いて学習を進める。ファイルに綴じて管理すること。 |
|----|----------------------------------|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|--|
| 学年 | 4 | 科目名 | 統計入門 | | 使用教科書 主教材 | 「数学I Advanced」(東京書籍) 「数学B Advanced」(東京書籍) |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 「改訂版教科書傍用4STEP 数学I+A、II」(数研出版)、授業用プリント |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|--|----------------------------------|--|
| 目標 | 探究活動に向けた基礎的な統計処理として、確率分布、標本調査、推定、検定などに関する内容を扱う。また、自然科学だけではなく、人文・社会科学においても有用な確率分布を用いたデータの処理方法を身につける。それぞれの分布の意味や統計分析の必要性、実際の分析手法の理解を目指す。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 確率分布の基本について理解し、推定や検定の意味と仕組みを理解する。探究活動で得られたデータを統計的に正しく処理して、考察の根拠として提示する。 | 得られたデータを統計的に分析し、仮説の妥当性を判断する。また、データの誤差を適切に評価して判断に生かす。 | 探究活動において、正しい統計的推測をもとに考察することができる。 | 具体的な事例を用いて統計的推測を行うなどの数学的活動を通して、自分が学習した数学を的確に応用し、探究活動を遂行することができる。 |
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・実習、班活動 ・発表、議論 | | | |
| 評価の方法 | レポート・提出物、定期考査、出席状況 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | 1. データの分析 データの散らばり、データの相関と近似 | <ul style="list-style-type: none"> ・分散や標準偏差の意味を理解する。 ・データの相関について理解し、相関の有無を判断することができる。 |
| 2 学期 | 2. 確率分布と統計的推測 確率分布、二項分布、正規分布、推定と検定 3. 具体的な確率分布 t分布、F分布、 χ^2 分布 など | <ul style="list-style-type: none"> ・確率分布とその性質について理解する。 ・代表的な確率分布として、離散型の二項分布と連続型の正規分布を理解する。 ・推定と検定の意味と手法を理解する。 ・探究活動で応用することの多い確率分布として、いくつかの代表的な確率分布を扱う。主にt分布、F分布、χ^2分布などを想定している。 |
| 3 学期 | 4. 探究活動におけるデータ処理(実習) | <ul style="list-style-type: none"> ・実際の探究活動で得られた実験データやアンケート結果を学習した統計的手法を用いて分析する。 ・誤差論について基本を理解する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | | | | |
|-------|---|-----|------------|-----|--------------|----------------------------|
| 学年 | 4 | 科目名 | 基盤探究 I | | 使用教科書 主教材 | 特になし |
| 理系・文系 | | 必修 | ・必修選択・自由選択 | | 教材 副教材 | 「課題研究メソッド」(啓林館) 「研究ノート」 |
| 共通 | | コマ数 | 1 | 単位数 | | |

| | | | | |
|-------|--|--|----------------------------------|--|
| 目標 | 「探究基礎」で身につけた手法と姿勢を活かして、各自の課題について、個人または小集団による探究活動を行う。主体的に課題を設定し、学問的手法を用いて、協働的に探究する力を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 | 学びを活性化する力 |
| | 仮説の立て方や文献調査の方法、ポスターのまとめ方など探究活動に必要な知識と技能 | 探究に適する手法を正しく選択して多角的に考察し、その成果を分かりやすく表現する力 | 主体的に課題を設定し、他者と協働しながら課題を解決しようとする力 | 互いの探究活動について積極的に意見を交わし、自らの探究にフィードバックする力 |
| 学習方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・「研究ノート」に毎回の活動内容や結果などを記録する。 ・定期的に指導教員と進捗状況や成果について確認する。 ・中間発表会および研究成果発表会で発表する。 ・1年間の研究概要をレポートもしくは論文にまとめる。 | | | |
| 評価の方法 | 以下の事項をもとに、総合的に判断して評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動への取り組み方や意欲、態度 ・探究活動におけるデータや研究ノート、資料等を総合したポートフォリオ評価 ・ポスター発表およびレポート ・自己評価および相互評価 | | | |

| | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | 1. グループまたは個人による探究活動を行う。 ・研究テーマの分野に応じて 8 人の教員が指導を担当する。 ・研究計画書に基づいて、探究活動を展開する。 ・探究活動の進捗状況を毎回記録し、振り返りと次回の活動内容を確認する。 | ・各教員の指導のもと、研究計画に基づいて探究活動を行い、仮説の検証を行う。 ・実験や観察、フィールドワークや調査活動など、仮説の検証に適した手法を正しく選択する。 |
| 2 学期 | ・定期的に指導教員と研究計画を確認し、必要に応じて計画を修正しながら探究活動を進める。 | ・指導教員やグループのメンバーと議論しながら探究活動を進める。 |
| 3 学期 | 2. まとめと振り返り ・9月下旬に中間発表会を行う。 ・2月中旬に他学年を交えた研究成果発表会を開催し、ポスター発表を行う。 ・年度末に研究概要をレポートまたは論文にまとめる。 | ・必要に応じて仮説や研究計画を修正する。 ・レポートやポスター発表が学問的手法に基づいて仮説を検証したものであるかを、自他ともに正しく評価する力を習得する。 |

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

5年



学園祭



修学旅行（九州）



体育大会

5・6年カリキュラム

5・6年カリキュラムの特色は、生徒の適性や進路志望を尊重して、大幅な選択制度をとり入れているところにあります。学習内容は、当然のこととして高度になります。また、6年生は4クラス編成にして、進路指導体制を手厚くしています。

1 適性や進路希望に応じた選択制度

必修科目は、国語（「現代文」「古典」）・英語（「Topic Studies」）・保健体育等を除いて大幅に減ります。ただし、数学・理科・社会などでは、選択必修（どれかの科目を選ばなくてはいけない）になっているものもあります。卒業に必要な教科の単位数は、77単位（4～6年で修得、HRも含む）以上ですが、100単位を超えて修得することも可能です。なお、理系選択者を中心に、最大限の単位を取得する生徒が多いのが現状です。

科目選択については、前年度の11月に登録しますので、詳しくは『科目選択の手引き』や『フォルトナ（進路のしおり）』を参照して下さい。

2 学力の向上と「観」の形成

大多数の生徒が大学進学志望で、5年後半には受験勉強の態勢に入ります。以後は修行僧のごとき真摯さが求められます。その際、学校の授業で身につける学力が基本になっていることは当然です。入試科目や傾向も多様化しており、些末な情報に惑わされない「高性能なレーダー」も必要といえます。また、高卒者の就職は厳しく「就職できないから大学に行く」人が多い時代状況でもあります。

しかし、より重要なことは、「自分は何をめざし、どう生きるのか」、「世の中をどうとらえるのか」といった、いわば人生観・世界観（の基礎）や、「個性」を客観視できる力です。これは、将来の人生にわたって大切な力です。こういう力は一朝一夕に身につくものではありませんが、進路を考える中で身につくこともあります。近年は、こうした学力を重視する入試も増えており、このような入試に対して、本校の生徒は比較的強いという結果も出ています。

3 5・6年時の特色

- (1) 選択授業が多いため（講座成立条件は原則10人以上）、講座平均人数は、5、6年30人程度になります。5年後半からは、補習や個別指導（小論文）なども多く行われています。
- (2) 5年には「基盤探究（コロキウム）」が設けられています。これは「21世紀を生きるための教養」を身につけることを目的として設置されたもので、本校カリキュラムの特長の1つでもあります。積極的に取り組んで下さい。
- (3) 5年生では、個人でテーマを設定し、それを一年間追究する「テーマ研究」があります。6年理系では、2017年度から課題研究のまとめとして、「SS課題研究」が必修になりました。
- (4) 卒業生や大学関係者を招いて、アカデミックガイダンス、キャリアガイダンス、ヴォケーショナルガイダンス等を実施し、幅広い進路指導にも力を入れています。
- (5) 高校から大学へとつながる「学びの質」の深化を目的として、「PICASOコース」が2019年度から開設されました。探究活動を通して、「本物」を知り、研究や未知の領域に関わっていく能力を身につけます。

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 5 | 現代文 B | 必修 | 2 |

| 目標 | 近現代文学や評論を幅広く読み、文章を読解する力を養う。また、自己の思考を深め、論理的かつ説得的な表現力を身につけ、認識力・思考力・感受性を育成する。 | | | |
|-------|--|---|--|------------------------|
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 人間、社会、自然などについて考えを深め、自分の考えを発表し、他者と話し合うことができる。 | 設定された課題に応じて、情報を収集し、わかりやすく論理的な文章を書くことができる。 | 物語の読解を通して、人物・情景・心情を的確に捉えることができる。また、論理の展開を的確に捉えることができる。 | 語句の意味を的確に理解し、語彙を豊かにする。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | 評論「情報の彫刻」 「実体の美と状況の美」など 小説「山月記」 詩歌「永訣の朝」 | <ul style="list-style-type: none"> ・評論を読むことによって、文章の構成、筆者の主張やものの見方を理解する。また、自分なりの疑問を見つめながら、自己の考えを深める。 ・小説では、文体が持つ独特のリズムを味わう。また、作品の舞台や時代背景を理解し、人物像や主題を考える。 ・詩で表現されていることは何かを考え、読み楽しむ。 |
| 2 学 期 | 評論「「である」ことと「する」こと」 「消費されるスポーツ」 小説「こころ」など 短歌など | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな評論を読み、読解する力を養うとともに、多岐の話題について興味関心を広げ基本的な素養を養う。 ・古典的定番小説を扱い、登場人物の心情に寄り添いつつ、執筆の背景の投影などにも合わせて関心を払えるようにする。 ・近代短歌を味わう。 |
| 3 学 期 | 評論「身体、この遠きもの」など 小説「水仙」など | <ul style="list-style-type: none"> ・内容、分量ともに重厚な評論や小説を読み通し、自らの考えを深めさせる。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況などを総合的に評価する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式であるが、思考の深化を図るためにグループ活動での話し合いや書く活動を取り入れる。 |
| 教科書・主教材 | 『精選現代文 B 改訂版』(筑摩書房) |
| 副教材 | 『語彙力をつける入試漢字 2600』(筑摩書房) 『最新国語便覧』(浜島書店) |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 5 | 古典 B | 必修 | 2 |

| | | | | |
|-------|--|--|---|---|
| 目標 | さまざまな古文を読むことを通して、現代に通じる日本の伝統文化の特質や言語等についての考察を深める。また、古文を原文のまま享受する力を育むべく、古文単語、古典文法に対する知識を深める。年間を通して、古文単語の語彙力を高める取り組みを行う。 | | | |
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 古文の持つリズムを味わいながら、音読、朗読できる。 他者の考えを聴き取り、自身の考えを的確に表現することができる。 | 作品のテーマや作者の考え方について、自ら考えたことを文章にまとめることができる。 | 作品に描かれたテーマや先人のものの見方、感じ方、考え方などを的確に読み取ることができる。的確な文法理的な解釈のもと、文意を正しく解釈する。 | 古文単語は、語源や派生語も含めて理解し、ことばの変遷の多様さ、面白さを知る。的確な解釈のための古典文法、特に助詞と敬語を習得する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・随筆『枕草子』等 ・敬語の学習 ・助動詞の総復習 ・古文単語の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文の持つリズムを味わいながら、朗読する楽しさを知る。 ・諸テキストのものの見方や考え方を読みとり、自身のものの見方や考え方を深化拡充する。 ・敬語についての理解を深める。 ・語源や派生語に注目しながら、古文単語を習得する。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・随筆『徒然草』等 ・歴史物語『大鏡』等 ・助詞の学習 ・古文単語の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文の持つリズムを味わいながら、朗読する楽しさを知る。 ・諸テキストを読むことを通じて、「古典」や「語ること」、「文化」について思索を深める。 ・助詞に対する理解を深める。 ・自身で古文の読みとりができるようになる。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・日記『更級日記』等 ・古典文法の総復習 ・古文単語の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文の持つリズムを味わいながら、朗読する楽しさを知る ・これまでの古典学習を通じて、「古典」や「語ること」、「文化」について思索を深める。 ・自身で古文の読みとりができるようになる。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物などを総合的に評価する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式で行うが、グループ学習や調べ学習も取り入れる |
| 教科書・主教材 | 『古典B 古文編』（筑摩書房） |
| 副教材 | 『体系古典文法』（数研出版）『古文単語 330』（いっぴな書店）『最新国語便覧』（浜島書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 5 | 古典講読 | 必修 | 1 |

| | | | | |
|-------|--|---|--|--|
| 目標 | 日本文化の底流に存在する中国古典文学を「漢文」という形で学ぶことを通して、現代に生きる日本人としての母語（日本語）の能力を総合的にたかめ、教養の素地の獲得をはかる。文化的な背景を意識し、国際的な視野へと拡張して言語を使いこなせるようにする。 | | | |
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 漢文の持つリズムを味わいながら、音読、朗読できる。 他者の考えを聴き取り、自身の考えを的確に表現することができる。 | 確かな構成力と豊かな構想力を身につけ、論理的で説得力のある文章を書くことができる。 | 言葉に対する感受性を磨き、自己の認識を拡充するよう、読みの深化をはかる。 表現や言葉を手がかりに、筆者の発想の独自性や思想を読みとる。 | 国際化の中で自国の言語文化に関心と理解を深める。 時代の推移や社会の変化に関心を持ち、豊かな言語感覚を身につける。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|-------------------|---|
| 1 学期 | ・史伝：鴻門之会、四面楚歌など | <ul style="list-style-type: none"> 中国の代表的な古典を学習することで、中国の文化や思想、ものの見方や考え方を豊かにする。 日本の現代文とのつながりは、抽象的な概念を表す語に漢語が多いという、単に語彙的な側面にとどまらず、内容や考え方そのものの中にあることを知る。また、文体としての現代日本語と漢文訓読文との関わりにも気づかせる。 句形の定着を図る。 |
| 2 学期 | ・思想：孟子、荀子、老子、荘子など | |
| 3 学期 | ・思想：韓非子など | |

| | |
|---------|------------------------------------|
| 評価の方法 | 定期考査・小テスト・提出物・出席状況・授業態度などを総合的に評価する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式で行うが、グループ学習や調べ学習も取り入れる |
| 教科書・主教材 | 『古典B 漢文編』（筑摩書房） |
| 副教材 | 『詳説漢文』『精説漢文 完成ノート』（いいずな書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 日本史 B | 選択必修 | 3 |

| 目標 | 4年生までの社会科・歴史学習をふまえて、社会構造の歴史的变化を追いながら「国家とは何か」「民族とは何か」などを考察し、単なる歴史的事項の暗記に陥ることのない「本物の歴史学習」を目指す。 | | | |
|-------|--|-----------------------------------|---|--|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 歴史事象および因果関係、後世への影響に関する基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題追求力 主題的表現力 多角的視点に基づく討論および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> 系統的思考方法 現代的課題との関連把握及び探究 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|---|
| 1学期 | 1. 原始社会とその文化 2. 国家成立期の社会と文化 3. 律令国家と古代文化の形成 4. 貴族社会と貴族文化 | <ul style="list-style-type: none"> 旧石器・縄文・弥生時代の社会と文化を学ぶ。 小国家成立期の時代からヤマト政権の成立及び古墳の文化を学ぶ。 東アジアの中における律令国家の成立と展開について学ぶ。 律令体制の変容と平安中期の政治的・社会経済的変遷について学ぶ。 |
| 2学期 | 5. 貴族政治の動揺・衰退と中世社会の萌芽 6. 武家政権の成立と鎌倉文化 7. 武家政権の展開と東アジア 8. 下剋上の社会と庶民文化の萌芽 | <ul style="list-style-type: none"> 平安中後期の政治的・社会経済的変遷と中世社会成立期の諸様相について学ぶ。 中世前期の政治的・社会経済的変遷と文化について学ぶ。 中世後期の政治的・社会経済的変遷と文化について学ぶ。 戦国期の政治的・社会経済的変遷と文化について学ぶ。 |
| 3学期 | 9. 統一政権の成立と近世前～中期の政治と文化 10. 幕藩体制の動揺 ※トピック学習（学期を通じて適宜） 現代社会に生じる歴史に関わる諸課題を取り上げ、担当者と受講生がともに議論する | <ul style="list-style-type: none"> 中近世移行期および近世前～中期における政治的・社会経済的変遷について学ぶ。 幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤形成について学ぶ。 |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 定期考査、提出物、レポート、発表、出席状況、課題の到達度、授業態度、学習意欲などを総合的に判断して評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 基礎的・基本的な知識の獲得をもとにしつつ、より高度な概念の獲得をめざす。また、教師の講義を中心としながらも、獲得した知識・概念を活かしたものとするために、意見交換や討論等の時間をできるだけ取り入れて「自らの頭で考えること」を重視する。 |
| 教科書・主教材 | 『詳説 日本史 B』（山川出版社）・自作プリント |
| 副教材 | 『新詳日本史』（浜島書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 世界史 B | 選択必修 | 3 |

| 目標 | あらゆる地域の過去がいかにより現在の世界を構成する要素となっているかを学び、歴史的視座を獲得する。 | | | |
|-------|---|-------------|---|--|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題追求力 主題的表現力 多角的視点に基づく意見表明および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> 系統的思考方法 現代的課題との関連把握及び追求 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-------------|---|--|
| 1 学 期 | 1. 人類と文明の起源 2. 西アジア・地中海世界の形成 3. 南アジア世界の形成 4. 東アジア世界の形成と内陸アジア | <ul style="list-style-type: none"> 世界各地の人類が、気候や風土など様々な条件のなかで、「地域世界」を形成する過程と、それらの地域世界をつなぐ人や物、文化の交流について学び、前近代の世界のあり方を理解する。 |
| 2 学 期 | 5. 東アジア世界の一体化 6. 東南アジア世界の形成 7. イスラーム世界の形成と発展 8. ヨーロッパ世界の形成と発展 9. 諸地域世界の交流 | <ul style="list-style-type: none"> 「宗教」「民族」「国家」といった存在について、文化圏の形成過程を学びながら考える。 広い視野と、長い時間軸を体得する。 「グローバルゼーション」の始まりと近代主権国家の誕生を通じて、現代の世界のあり方を問い直す。 |
| 3 学 期 | 10. アジア諸地域の繁栄 11. 近代ヨーロッパの誕生 | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 学習意欲、定期考査、出席状況、課題の到達度などを基に、総合的に評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 講義を中心として基礎的な知識の獲得をめざすと共に、それを活かした知識とするための思考と論述を積極的に行う。 |
| 教科書・主教材 | 『新詳世界史 B』（帝国書院）・自作プリント |
| 副教材 | 『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 地理 B | 選択必修 | 3 |

| 目標 | 地理的なものの見方考え方を身につけ、それが国際交流や災害の時などに活用できるよう、各個人に定着する知識や技能となるようにする。修学旅行と連携することにより、現実に生きる学力を確かめる。また、見世物小屋的異文化理解とならないよう、深い学びをめざし、持続可能な社会の構成員として行動に移せる力をつける。 | | |
|-------|---|----------------------------|---|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 |
| | 文理融合科目の特徴を生かし、各自の目的意識をもった「探究」活動 | 基礎的知識の習得とともに、活用できる知識としての定着 | <ul style="list-style-type: none"> 問題発見&解決能力 読図能力 統計読み取り能力 課題提示能力 |
| | | | 思考力 身につけた地理的能力を、課題解決に結び付けて考える力 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|------|---|---|
| 1 学期 | 1. 地図と地理的技能 2. 修学旅行についての学習と発表 <講義・調査・レポート・発表> 3. 世界と日本の大地形と小地形 | <ul style="list-style-type: none"> 地図の基本的学習を通して空間認識能力を養う。また、GISの活用技能を習得する。さらに、統計資料を読み取り適切な地図化方法を選択する能力も育成する。 修学旅行先の地形図を通じた地図学習、修学旅行先について各自がテーマを選んで調査・発表する学習により、訪問地について地理的な視点で深く理解する。また、観光についての学習もすすめる。 |
| 2 学期 | 4. 世界と日本の気候 5. 災害と地理 6. 世界地誌（アジア） ・各地域別の講義 | <ul style="list-style-type: none"> 日本および世界各地の地形や気候の仕組みを学習し、自然地理について理解を深める。 地震や津波、台風などの自然災害について学び、減災の手立てについて考える。 |
| 3 学期 | 6. 世界地誌（つづき） ・各地域別の講義 ・個人による調査と発表 ・（シミュレーション教材） | <ul style="list-style-type: none"> 地誌的にまとめて世界の各地域についての理解を深める。 各自が自主的に、興味のある世界各地の特定のテーマについて、深く掘り下げてレポート作成と発表を行い、プレゼン能力の向上をめざしつつ各地域についてより深く理解させる。さらに、自己評価とともに相互評価を取り入れ、対話的な学びを取り入れる。 世界各地でおこっている紛争や民族問題などについて理解する。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 定期考査、「修学旅行」と「世界地誌」での調査・レポート・発表等をそれぞれ定期テスト一回分とする。その他、各種提出物、授業への積極的参加などを基に、総合的判断で評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 教員の講義、調査活動と発表で構成する。参加型学習の導入をすすめるなど、獲得した基礎的な知識を生きた知識とするための学習方法を積極的に行う。 |
| 教科書・主教材 | 『新詳地理B』（帝国書院）、『新詳高等地図』（帝国書院） |
| 副教材 | 『世界の諸地域 NOW2022』（帝国書院）、『データブック オブ・ザ・ワールド 2022』（二宮書店）、地形図（国土地理院） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-------------|------|-----|
| 5 | 倫理・政経（倫理分野） | 選択必修 | 3 |

| 目標 | 現代社会の諸問題を思想的・倫理的問題としてとりあげ、それらと向き合い、解決の道を探るために必要となる思考力を、思想家達の言葉を手がかりに育成していく。 | | | |
|-------|---|---------------------|---|--|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 日常の言葉から、思想の言葉（概念）へ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・読み解く力 ・調べる力 ・表現する力 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統的思考方法 ・観念操作能力 ・文脈形成能力 ・表現力 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|---|
| 1学期 | 1. 日常における哲学の発見 2. 青年期 3. 古代ギリシアの思想 4. ユダヤ教とキリスト教、イスラム教 5. 東洋思想（インド・中国・日本） | ① 哲学や思想を学ぶ意味を考える。 ② 日常における知識を思想や哲学の言葉に置き換える力をつける。 ③ 哲学ないし思想における問いの構造の変化を理解する。 |
| 2学期 | 6. 中世ヨーロッパの哲学 7. 宗教改革の思想 8. 西洋近代哲学Ⅰ（大陸合理論とイギリス経験論、社会契約説） 9. 日本における近世・近代の思想 | ① 宗教改革が如何にして西洋の近代を形成したのかを理解する ② 西洋近代哲学の問いの構造を理解する。 ③ 江戸期における日本独自の思想の形成と、明治以降における西洋思想の受容と日本的展開について理解する |
| 3学期 | 10. 西洋近代哲学Ⅱ（カントとドイツ観念論） 11. 現代思想（マルクス、実存主義以降） 12. 21世紀における哲学的課題 | ① 西洋近代との関連性および差異についての考察とともに、現代思想の問いの構造を理解する。 ② 21世紀社会が直面している諸問題を哲学的問題としてとらえる力をつける。 |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度、定期考査、提出物（レポート等）などを基に、総合的に評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 講義を中心としながらも、意見交換や対話をできるだけ取り入れる。 選択講座／一斉授業・グループ活動／講義・発表・討論 科目の性格上、順序や題材は変更することがある。 |
| 教科書・主教材 | 『倫理』（東京書籍） |
| 副教材 | 『倫理 ワークノート』（東京書籍）、その他授業中に提示する資料等 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 5 | 解析 I | 必修 | 4 |

| | | | | |
|-------|--|-------------------------------------|----------------------------|-----------------------|
| 目標 | 数列および微積分などの考え方について理解し、基本的な知識と技能の習熟を図る。 さまざまな事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 数列・微積分を用いて、事象を簡潔に表し、問題を解決しようとする。 | 数列の考え方や微積分を用いてグラフや面積、体積を考察することができる。 | 諸問題に対して、意味をふまえて処理することができる。 | 数列の考え方や微積分の考え方が理解できる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | 1. 三角関数 (数学Ⅱ) 角の拡張、三角関数 三角関数の加法定理 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・弧度法を考え、その有用性を理解する。 ・三角比を一般角まで拡張し、関数として扱うことができる。 ・三角関数の基本的な諸性質を理解する。 |
| 2 学期 | 2. 数列 (数学 B) 数列とその和 漸化式と数学的帰納法 課題学習 3. 微分積分の考え (数学Ⅱ) 微分の考え、積分の考え 課題学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな数列について、一般項や和を求めることができる。 ・帰納的な定義として数列の漸化式を理解する。 ・数学的帰納法による証明方法を理解する。 ・極限の考え方をを用いて、微分係数や導関数を理解する。 ・3次関数の最大、最小や極値を求め、増減表を書き、グラフの概形を描くことができる。 ・定積分を用いて、種々の図形の面積を求めることができる。 |
| 3 学期 | 4. 確率分布と統計的推測 (数学 B) 確率分布と期待値・分散 二項分布と正規分布 推定と検定 課題学習 5. 関数と極限 (数学Ⅲ) 分数関数と無理関数 合成関数と逆関数 | <ul style="list-style-type: none"> ・確率分布を理解し、期待値や分散の計算ができるようになる。 ・正規分布について理解し、実際の統計処理の基本として、検定・推定を行う。 ・分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフを描くことができる。また、合成関数を理解する。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート |
| 学習活動の特徴 | 数学的な概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題をともに考えながら、知識・理解の定着をはかる。 |
| 教科書・主教材 | 「数学Ⅱ Advanced」(東京書籍) 「数学 B Advanced」(東京書籍) 「数学Ⅲ Advanced」(東京書籍) |
| 副教材 | 「改訂版 教科書傍用 4STEP 数学Ⅱ+B」(数研出版) 「改訂版 教科書傍用 4STEP 数学Ⅲ」(数研出版) |
| 補足 | 春季休業期間に補習(必修)を開講する。 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 5 | 代数・幾何 | 必修 | 2 |

| | | | | |
|-------|---|-----------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 目標 | 座標幾何やベクトルなどの考え方について理解し、基本的な知識と技能の習熟を図る。 さまざまな事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 座標やベクトルを用いて、幾何の問題を代数的に解決しようとする。 | 座標やベクトルの考え方の共通性をとらえることができる。 | 問題に対して、座標やベクトルの意味をふまえて処理することができる。 | 座標幾何やベクトルの基本知識を身に付け、それらの有用性を理解する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|--|---|
| 1学期 | 1. 対数関数 (数学Ⅱ) 対数、底の変換公式 対数関数、常用対数 2. 図形と方程式 (数学Ⅱ) 座標と直線の方程式 円の方程式 | <ul style="list-style-type: none"> 対数の定義を理解して、正しく計算することができる。 対数関数の性質を理解し、応用することができる。 座標を利用して、直線や円の方程式について理解する。 |
| 2学期 | 軌跡と領域 3. ベクトル (数学B) 平面ベクトル | <ul style="list-style-type: none"> 軌跡の考え方を理解し、諸問題に応用する。 領域を利用して、線形計画法などの問題解決の方法を身に付ける。 ベクトルの考え方を理解する。 位置ベクトルの概念をつかみ、幾何の問題を代数的に解決する手法を身に付ける。 |
| 3学期 | 空間ベクトル | <ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルの概念を空間上に拡張して理解し、空間図形の考察にそれらを活用する。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート |
| 学習活動の特徴 | 数学的概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題をともに考えながら、知識・理解の定着をはかる。 |
| 教科書・主教材 | 「数学Ⅱ Advanced」(東京書籍) 「数学B Advanced」(東京書籍) |
| 副教材 | 「改訂版 教科書傍用 4STEP 数学Ⅱ」(数研出版) 「改訂版 教科書傍用 4STEP 数学B」(数研出版) |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 物理（理系） | 選択必修 | 3 |

| | | | | |
|-------|---|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究し、一般化しようとする態度。 | 科学的な概念をモデル化する能力。仮説を設定し、推論する能力。 | 観察・実験結果を科学的に論理立てて考察して、実験レポートを作成する。 | 科学概念の習得。 ・力学 ・波動学 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|--|
| 1学期 | 力学① 1. 力のモーメント 2. 運動量 | <ul style="list-style-type: none"> ・回転の効果をもたらす力のモーメントの概念を獲得する。 ・力のモーメントの概念を発展させ、物体の重心について理解する。 ・運動量の概念の獲得と、衝突する物体の運動について理解する。 ・衝突の前後で保存する物理量について理解を深める。 |
| 2学期 | 波動学 1. 波の基本的性質 2. 音波の性質 3. 光波の性質 | <ul style="list-style-type: none"> ・波の回折や反射などの基本性質を理解する。 ・観察・実験を通して音の性質を理解する。 ・ドップラー効果の仕組みを、波の性質から考察する。 ・スリットや回折格子などの観察から光の性質を理解する。 ・光の干渉の基本概念を獲得し、薄膜による干渉などの現象を理解する。 |
| 3学期 | 力学② 1. 円運動 2. 単振動 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動方程式から円運動を捉え、基本概念を獲得する。 ・物体に働く向心力や慣性力について理解する。 ・円運動の概念を利用して、万有引力による運動について理解する。 ・ばね振り子や単振り子の運動を調べ、単振動を理解する。 |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 生徒・教員間での議論を中心とした授業展開を目指す。 |
| 教科書・主教材 | 「物理」東京書籍 |
| 副教材 | 「フォトサイエンス物理図録」数研出版 「四訂版 リードα物理基礎・物理」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|---------|----|-----|
| 5 | 化学基礎・化学 | 必修 | 2+2 |

| | | | | |
|-------|---|--|---|--|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究し、一般化しようとする。 | 観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断することができる。 | 観察、実験の技能を習得するとともに、科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 | 観察、実験などを通して、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|--|---|
| 1学期 | 物質の変化 [化学基礎/化学] 1. 物質と化学反応式 (3年次の復習) 2. 酸と塩基 (3年次の復習) 3. 酸化還元反応 | 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。 |
| 2学期 | (物質の変化) 3. 化学反応と電気エネルギー (1学期の続き) 物質の変化と平衡 [化学] 1. 化学反応と熱・光エネルギー 物質の状態 [化学] 1. 固体の状態 2. 物質の状態変化 | 化学変化に伴うエネルギーの出入りについて理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 気体、液体、固体の性質を探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 |
| 3学期 | 3. 気体の性質 4. 溶液の性質 | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。 |
| 教科書・主教材 | 「化学基礎改訂版」啓林館、「化学改訂版」啓林館 |
| 副教材 | 「十訂版スクエア最新図説化学」第一学習社、「セミナー化学基礎+化学」第一学習社 「レポート&チャージ化学基礎ドリル 酸と塩基/酸化還元反応」実教出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 生物（理系） | 選択必修 | 3 |

| | | | | |
|-------|---|-----------------------------------|-------------------------|---------------------|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、統合的に理解できるようにする。 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 日常で扱われるトピックスを自ら深めようとする探究心。 | 科学的概念をモデル化する能力。 仮説を設定し、推論する能力。 | 仮説に基づく観察・実験の課題の設定とその検証。 | 生命現象に関する科学知識・概念の習得。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム 2. バイオームの形成過程 3. バイオームとその分布遺伝 生物と環境 1. 個体群と生物群集 2. 生態系 | <ul style="list-style-type: none"> ・気候とバイオームについて理解し、地球規模での生物環境について考察する。 ・植生の成立や様々な植生および植生の遷移について理解する。 ・気温や降水量とバイオーム、世界や日本のバイオームについて学び、地球環境について考察する。 ・同種生物の集まりである個体群について、その性質や特徴を理解し、生物群集を構成する個体群間の相互作用や遷移について理解する。 ・生態系における物質生産及び生物群集と環境との関わりについて理解する。 |
| 2 学期 | 生命現象と物質 1. 細胞と分子 2. 代謝 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物現象の様々な働きがタンパク質の多様性や特異性に基づいていることを理解する。 ・呼吸・光合成・窒素同化などについてその反応のしくみを中心に理解する。 |
| 3 学期 | 3. 遺伝情報の発現 生殖と発生 1. 有性生殖 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の遺伝情報の形質への反映を、細胞の分化や形態形成とも関連して理解する。 ・減数分裂や受精について、遺伝子の視点から学び、生物の生殖について考察する。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・提出物・レポート・発表・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 実験や実習を実施する。 |
| 教科書・主教材 | 「高等学校 改訂 生物基礎」第一学習社、「高等学校 改訂 生物」第一学習社 |
| 副教材 | 「四訂版 リードα生物」数研出版 「三訂版 フォトサイエンス生物図録」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-------------------|----|-----|
| 5 | Topic Studies III | 必修 | 3 |

| | | | | | |
|-------|--|---------------------|---------------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 目標 | 抽象的な概念を含む相当量の英語情報を収集・加工・発信することができ、場面・状況を考慮した高度で総合的な言語運用能力を身につける。広い世界との関わりを考え、自己を再認識する。 | | | | |
| 育てたい力 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 自己学習能力 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | 読んだり聴いたりした内容についての意見を論理的に述べることができる力。 | 学習した語句等を家庭学習で定着させる。 | 自分の意見・考えを場面・状況に応じ論理的に述べることができる。 | 抽象的概念も含む英文を読み、聴くことができる。 | 様々なトピックに関する知識と豊かな語彙力。 |

| 時期 | 学習内容 | テーマ |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> さまざまなトピックに関する抽象的な概念を含む英文を読む。 トピックに関連する英語を聴いてタスクを行う。 読んだり聴いたりした内容について、自分の考えを持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> Life and Culture Society and Communication Nature and Environment Science and Technology |
| 2 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> 考えたことを、英語で話したり書いたりして表現する。 他者と意見交換をして、自らの考えを深める。 | <p>上記のテーマの中で、以下の問いに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> What are humans? How are we connected? |
| 3 学 期 | | <ul style="list-style-type: none"> Where have we come and where are we going? |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・出席状況 |
| 学習活動の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 予習を必須として課する。 様々なテーマの英文を数多く読むことで、読解力を深める。 学んだテーマについて自分の考えを深め、表現できるようになる。 リーディングを通して文法、語法、語彙を習得する。 |
| 教科書・主教材 | <p>ハンドアウト</p> <p><i>Genius English Communication II</i> (大修館)</p> |
| 副教材 | <p>「英語の構文150」(美誠社)、 「be総合英語」/<i>Listening Platform</i> (いっずな書店)</p> <p><i>Wisdom</i> 英和辞典 (三省堂)</p> |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|---------|------|-----|
| 5 | Reading | 自由選択 | 2 |

| | | | | | |
|-------|--|---------------------|------------------------|--------------------|-----------------------|
| 目標 | 精読と速読を組み合わせ、英語で読むことの楽しさを味わいながら読解力をつける。 | | | | |
| 育てたい力 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 自己学習能力 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | 内容を把握しようとし、読んだ内容について意見交換ができる力。 | 学習した語句等を家庭学習で定着させる。 | 読んだ内容についての意見を論理的に述べる力。 | 抽象的概念も含む英文を読みこなす力。 | 様々なトピックに関する知識と豊かな語彙力。 |

| 時期 | 学習内容 | テーマ |
|-------------|---|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックの英文を、文章の構成を意識しながら読む。 演習を通して、速読や精読の技術を高める。 文法、語法、語彙の総復習を行う。 英文を読むことを通して、論理的思考を養い知識や教養を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> Life and Culture Society and Communication Nature and the Environment Science and Technology <p>以上のテーマに沿ったトピックを扱う。</p> |
| 2 学 期 | | |
| 3 学 期 | | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・出席状況 |
| 学習活動の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 予習を必須として課する。 様々なテーマの英文を数多く読むことで、読解力を深める。 演習を通して、速読や精読の技術を高める。 リーディングを通して文法、語法、語彙を習得する |
| 教科書・主教材 | <i>Change the World (Standard)</i> (いいずな書店) |
| 副教材 | <i>Mileage Readers 5</i> (いいずな書店) |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|---------|----|-----|
| 5 | Writing | 必修 | 1 |

| | | | | | |
|-------|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------|
| 目標 | 学ぶ英語が抽象度を増す中で、実際に用いることとしての英語の使い方を学ぶ。 英語で自己表現するための基礎として、機能別に表現法を学び、正確な英語を書き、話せるようになる。 | | | | |
| 育てたい力 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 自己学習能力 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | 様々なトピックについて理解し、意見を表現しようとする。 | 文脈や状況に応じた適切な表現をすることができる。 | 英語らしい表現を理解し、正確に使うことができる。 | 英語らしい表現を理解し、正確に使うことができる。 | 様々なトピックに関する知識と語彙を得る。 |

| 時期 | 学習内容 | テーマ |
|-------------|---|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・英文で表現するために必要な語彙、構文、文法事項などを学習する。 ・簡単には英語で表現しにくい日本語の意味を考え、既知の語句を用いて英語で表現することを学ぶ。 ・日本語と英語を比較しながら、英語の表現方法を学ぶ。 ・学んだ事柄を用いて、英文で表現する力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Life and Culture ・ Society and Communication ・ Nature and Environment ・ Science and Technology <p>以上のテーマに沿ったトピックを扱う。</p> |
| 2 学 期 | | |
| 3 学 期 | | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・出席状況 |
| 学習活動の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切に英語で表現するためのスキルを身に着ける。 ・ Structures と Ways to Express It を学んで使えるようにする。 ・小テストで語彙の確認をする。 ・ノートを用いて必ず予習・復習を行う。 |
| 教科書・主教材 | <i>Departure English Expression II</i> (大修館) |
| 副教材 | ハンドアウト |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 音楽 I | 選択必修 | 1 |

| | | | | |
|-------|---|-------------------------------|------------------------|--|
| 目標 | 個性豊かな表現力と、鑑賞の能力を伸ばし、多様な表現に触れることで感性を磨き、生涯にわたって音楽に親しむ心と芸術文化を尊重する態度を身につける。 | | | |
| 育てたい力 | 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
| | 音楽や音楽文化に関心をもち主体的に音楽表現や鑑賞を楽しむ力。 | 楽曲にふさわしい音楽表現を工夫するために表現意図をもつ力。 | 自らのもつ意図を表現するための発展的な技能。 | 歴史的・文化的背景を理解して多様な音楽のよさや美しさを味わい、楽曲のもつ価値を考えて発信することができる力。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|----|---|---|
| 通年 | 1. 歌唱(独唱, 合唱) 2. 器楽(前年からの続き) 基礎技能の習得⇒ソロ曲の習得⇒同楽器とのアンサンブル⇒他楽器とのアンサンブル⇒大編成のアンサンブル 3. 創作(音楽と映像) 4. 鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに身につけた発声法をベースに様々なジャンルの楽曲に取り組む。また、アカペラにより、純正律の美しい響きを体得する。 ・4年で選択した楽器の発展的な技能習得を目指し、小編成のみならず大編成でのアンサンブルが出来ようになる。 ・創造の可能性を拓げる(自作曲を視覚表現に繋げる等)。 ・様々な名作名演に触れ、多くの感動を得る。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、発表・実技、ワークシート等 |
| 学習活動の特徴 | 前年から継続して選択楽器の基礎技能の習得を目指し、生涯にわたって楽器に親しむための基盤を築く。 同じ楽器の選択者がグループとなり互いに目標を共有し、学びあい高め合う。 |
| 教科書・主教材 | Music View II(教育出版) |
| 副教材 | 楽譜プリント等 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 美術 I | 選択必修 | 1 |

| 目標 | 高度な技能の習熟を目指し、創造活動に主体的に取り組む。 | | | |
|-------|---------------------------------------|---------------------------|--|-----------------------------|
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 知識・理解 | 技能 | 創意工夫する能力 |
| | 様々な表現に対して興味・関心を持ち、より良い作品を制作するために工夫する。 | 他者世界を認め、自己世界の模索から表出までの体験。 | 作品のコンセプトの考案から完成までの体験 作品制作に必要な技法の選別。 | お互いの作品を鑑賞し、相互に意見交換することができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|----|--|--|
| 通年 | 1.平面表現（版画・ステンシル） ○鑑賞「版画史」 ○制作（孔版の特徴の理解／孔版の制作／着色） | ◇材料や技法の特徴を理解し、自らの表現に活かす。 ◇各自の関心と興味に合わせて、研究制作を行う。 ◇作品を互いに評価することによって、自らの制作をさらに向上させる。 |
| | 2.個人の作品制作（絵画・版画・立体・映像など） ○主題の設定 ○授業ごとの詳細な制作計画 ○鑑賞 | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・課題プリント及び作品の提出 |
| 学習活動の特徴 | ○自ら主題を設定する。課題に対し様々な側面から考察し、高度な作品制作を目指す。 ○多様な資質を持った集団として、自他の作品を認め合い、意見交換を行う。 |
| 教科書・主教材 | 「高校美術」（日本文教出版） |
| 副教材 | 特になし |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 工芸 I | 選択必修 | 1 |

| 目標 | 風土、歴史に根ざした身近な生活文化への認識を高め、工芸作品への理解を深める。 | | | |
|-------|--|--------------------------|---------------------------------|-----------------|
| 育てたい力 | 創造的な思考 | 知識・理解 | 技能 | 鑑賞 |
| | 日常の生活を豊かに楽しむための発想力・構成力。 | 生活の中での有用性、機能と美しさについて考える。 | 作品のコンセプト考案から完成まで、作品制作に必要な技法の習得。 | お互いの作品を比較し討論する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|----|----------------------------------|---|
| 通年 | 陶芸クラスとテキスタイルクラスに分かれて、個人作品の制作を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の興味にあわせて、自主的に課題を進める。 ・作品を互いに評価し、更に作品を向上させる。 |

| | |
|---------|-------------------|
| 評価の方法 | それぞれの制作過程、提出作品を評価 |
| 学習活動の特徴 | 個人制作を行う。 |
| 教科書・主教材 | 課題にあわせた独自教材 |
| 副教材 | 特になし |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 5 | 書道 I | 選択必修 | 1 |

| 目標 | 作品制作のための創造的な技能の習熟を目指し、個々の違いや表現の工夫を楽しむ。 | | | |
|-------|--|-----------------------|-----------------------------|----------------------|
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 知識・理解 | 技能 | 鑑賞 |
| | いろいろな表現や美しさに対する興味・関心から工夫する。 | 書における美や芸術性に興味を持ち理解する。 | 書によって筆者の精神や感興が表現できることを理解する。 | 古典やお互いの作品を比較検討し討論する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|----|--|--|
| 通年 | 表現 ・漢字、仮名の臨書 ・篆刻 ・自由課題制作（展覧会、文化祭） 鑑賞 ・名筆（古典など）に触れる。 ・外部展覧会鑑賞。 ・作品の相互評価。 | ・作品制作に必要な古典技術を選別し、個性的な表現をする。 ・個々の興味や技術にあわせて課題を決め、自主的にすすめる。 ・古典やいろいろな作品を評価し自分の作品を向上させる。 |

| | |
|---------|--------------------|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・作品・鑑賞 |
| 学習活動の特徴 | 個々の技術に応じた制作活動ができる。 |
| 教科書・主教材 | 「書道 I」 東京書籍 |
| 副教材 | 特になし |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 5 | 体育 | 必修 | 3 |

| 目 標 | スポーツを通して運動技術を習得し、運動技能や競技力を向上する。また、学習を通じて自己のからだへの気づきと健康の維持増進に努める。 | | | |
|-------------------|--|---|--------------------------|---|
| | 男女の性差による運動能力や体力の違いを理解し、適切な行動を取れるようにする。 グループ学習を生徒主導ですすめ、生涯スポーツにつながる主体的態度を養う。 | | | |
| 育 て たい 力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 積極的に技術を習得しようとする意欲。 学習に主体的に取り組み、仲間と協力して取り組む態度。 | 運動能力差や体力差を考慮して運動する力。 仲間との関わりの中で自分の役割を果たすことができる力。 | スポーツを楽しむために必要な技術を習得する能力。 | ルールを理解する力。 技術や戦術、練習方法について理解する力。 ケガの予防など安全について理解する力。 |

| 時 期 | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|---|
| 1 学 期 | 全員必修実施種目 体づくり運動 I期実施種目 バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、テニス、陸上、器械運動から1種目選択 II期実施種目 アルティメット、バドミントン、卓球、ダンス、水泳から1種目選択 | <ul style="list-style-type: none"> 一年間を4期に分け、各期に設置された種目から4種目を開講し、そのうちの1種目を選択する。選択し参加することで主体的態度を促す。 目標設定と練習計画の実践を繰り返すことで、目標達成に即した安全で効率的なスポーツ実践を学ぶ。 |
| | 2 学 期 | 全員必修実施種目 体づくり運動 III期実施種目 ラクロス、ユニホッケー、ソフトボール、テニス、バレーボールから1種目選択 |
| 3 学 期 | IV期実施種目 サッカー(男子)、フットサル(女子)、バドミントン、卓球、武道から1種目選択 | <ul style="list-style-type: none"> 一年間を通して、男女の性差、個々の体力差などに十分に留意し生涯にわたって安全にスポーツを楽しむことができる態度をグループ学習により学ぶ。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、実技、出席状況、課題の到達度などから総合的に判断する。 |
| 学習活動の特徴 | 主体的に選択した種目を、基本的には男女共習で行う。部分的、あるいは全般的なグループ学習で、生徒が主体的に各時間の目標を決め、それにあわせて練習計画を立て、実行する。 |
| 教科書・主教材 | 特になし |
| 副教材 | 「アクティブスポーツ」(大修館書店) |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|------------------|----|-----|
| 5 | 基盤探究Ⅱ (コロキウム) | 必修 | 2 |

| | |
|-------|--|
| 目標 | <p>① 21世紀に求められる Citizenship（市民的素養）を身に付ける。</p> <p>② “学問の根底にある精神”を中等教育において学ぶ。</p> <p>③ 文理の垣根を超えて、対話（双方向）型で学ぶ。</p> |
| 育てたい力 | <p>本類型では、「リベラルアーツ」（21世紀に必要とされる教養）の習得を目的とする学校設定科目「コロキウム」の理念を継承し、授業者と選択者の対話による学びの場の形成をめざしている。</p> <p>この科目は、1年間を通じてさまざまな活動を経て生徒が人間形成していく学習・探究活動を中心とし、狭義の知識や技能の習得を目指したものではない。授業者と選択者の1年間の様々な思索・活動を通して、教科の枠を越えて物事を様々な視点から多角的に思考する力、粘り強くかつ協働的に探究する力の育成をめざしている。</p> |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|----|---|---|
| 通年 | <p>今年度は、以下の5講座を開講する。</p> <p>講座1 住まいとくらしをSDGsの視点から考える</p> <p>講座2 文化人類学的な視点から問いを立てる</p> <p>講座3 「コロナの時代」と地域社会 — “奈良” から時代・社会と向き合う—</p> <p>講座4 「人生幸福論」—しあわせって何だろう—</p> <p>講座5 学校と教科と時代を超えるプロジェクト —360°動画を制作しメタバース（仮想現実）で共有—</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各講座における探究活動を通して、思考を深め、学んだことの意味や価値を再考する。 自他の成果を見合うことによって、共感・連帯し、同時に、自らの在り方・生き方・振る舞い方を自省し調整していく知を育む。 |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | <p>評価の観点「学びとったことを意味づける素養」がどのように磨き上げられていったのか、である。以下の事項を基に、この点を総合的に判断して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義への取り組み方や態度 探究活動の発表に関する他者評価ならびに自己評価 各種レポート 作品 <p style="text-align: right;">など</p> |
| 学習活動の特徴 | 各担当教員のもとで、少人数（15人程度）による、参加体験型学習と実験・実習・フィールドワークを特徴とする学習・探究活動が行われる。今年度は5講座が開講される。 |
| 教科書・主教材 | 各講座において指示する。 |
| 副教材 | 各講座において指示する。 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------------------|----|-----|
| 5 | 基盤探究Ⅱ (科学探究・社会貢献) | 必修 | 2 |

| | | | | |
|-------|--|--|--|---|
| 目標 | 「基盤探究Ⅰ」における一年間の探究活動により身に付けた手法と姿勢を生かして、個々の課題について、個人または小集団による探究活動を行う。主体的に課題を修正あるいは発展させ、その課題に対して学問的手法を用いて、問題解決していくことができる力の育成を目指す。 | | | |
| 育てたい力 | 調査能力 | 思考力 | 発表能力 | 協働能力 |
| | 一連の探究活動に必要な知識と技能を身に付け、正しく実践することができる。 | 先行研究をもとに課題の探究に適する探究手法を正しく選択し、適宜修正することができる。 | 研究発表を通じて、自分の成果と課題を明確にし、相互に探究活動に対する意見を交換することができる。 | 探究過程における自分の役割を遂行し、多様な視点を取り入れて探究を推進することができる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|----|--|--|
| 通年 | <p>1. グループまたは個人による探究活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年「基盤探究Ⅰ」で行った探究活動または新たに計画した研究テーマに関する探究活動を、個人またはグループにより行う。適時、担当教員とのディスカッションを行う。 研究計画書に従い、探究活動を展開する。 毎回、探究活動の進捗状況を記録し、振り返りと次回の活動内容を確認する。 定期的に指導教員と研究計画を確認し、必要に応じて計画を修正しながら探究活動を進める。 <p>2. まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月に中間報告会を開催する。 2月中旬に他学年を交えた研究成果発表会を開催し、ポスター発表を行う。 年度末に研究概要をまとめたレポートまたは論文を提出する。 | <ul style="list-style-type: none"> 各教員の指導のもと、研究計画に従って探究活動を行い、仮説の検証を行う。 実験や観察、フィールドワークや調査活動など、仮説の検証に適した手法を正しく選択する。 指導教員や研究グループのメンバーと議論しながら探究活動を進める。 必要に応じて仮説や研究計画を修正する。 レポートやポスター発表が学問的手法に基づいて仮説を検証したものであるかを、自他ともに正しく評価する力を習得する。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | <p>以下の事項をもとに、総合的に判断して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究活動への取り組み方や態度（仮説・計画・実践・改善等） 探究活動におけるデータや研究ノート、資料等を総合したポートフォリオ評価 探究活動の研究発表に関する他者評価ならびに自己評価 毎回の活動報告シート 各種レポート <p style="text-align: right;">など</p> |
| 学習活動の特徴 | 各担当教員の指導の下で、個人または少人数グループによる、探究活動が行われる。 |
| 教科書・主教材 | 特になし |
| 副教材 | 「課題研究メソッド」(啓林館)、研究ノート |

6年



学年の漢字（1年の最初に決めた「最」と、6年の最後に決めた「愛」）

SSH とカリキュラム

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）は、理数教育を重視しつつ優秀な理数系生徒を育てようとする国家的プロジェクトであり、全国で約 200 校の高等学校が指定を受けています。

本校は、2005(平成 17)年度から 2009(平成 21)年度まで 5 年間の SSH 指定を受け、自然科学リテラシーを育む中高 6 年一貫教育 SSH カリキュラムの研究開発を行い、表現力を持つ理数に強い生徒を育成するなどの成果をあげてきました。

また、2010(平成 22)年度から 2014(平成 26)年度までも、新たに 5 年間の SSH の指定を受け、自然科学リテラシーとリベラルアーツを身につけ、科学・技術系に研究意欲を持った人材の育成を目標に研究開発を行いました。Ⅱ期の指定においては国際的な連携活動にスポットを当て、生徒の活動を企画推進しました。

さらに、2015(平成 27)年度から 2019(平成 31)年度までも、Ⅲ期目 5 年間の SSH の指定を受け、「共創力を備えた科学技術イノベーターを育成する」ことを研究開発のテーマに掲げ、理科と数学の融合授業の実現や探究活動の再編を行い、多分野において多様な他者と協働して問題を解決できる人材の育成を目指しました。

そして現在、2020(令和 2)年度から 2024(令和 6)年度まで、引き続きⅣ期目 5 年間の SSH の指定を受けています。Ⅳ期では、「科学技術イノベーションにより未来社会を創出する『飛躍知』を育む」ことを研究開発のテーマに掲げ、探究活動の拡充をはじめとして、『飛躍知』育成に向けた新しい取り組みを進めています。



| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 6 | 現代文 B | 必修 | 3 |

| 目標 | 現代に生きる日本人としての母語（日本語）の能力を総合的に高める。文化的背景の意識の上に国際的視野をもった言語の使い手として、他者とのコミュニケーションを通じ社会に貢献することを目指す。 | | | |
|-------|--|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 話題を選び、互いの考え方を深め合う、対話の力。 | 確かな構成力と豊かな構想力を身につけ、論理的で説得力のある文章を書く力。 | 言葉に対する感受性を磨き、自己の認識を拡充するよう、読みの深化をはかる態度。 | 国際化の中で自国の言語文化に関心と理解を深める態度と、言葉の知識。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 橋爪大三郎「近代の成立—遠近法」 森岡正博『「自然を守る」ということ』 坂口安吾「日本文化私観」 森鷗外「舞姫」 熊野純彦「ことばへの問い」 野口裕二「物語としての自己」 主に大学入学共通テストの演習問題 | <ul style="list-style-type: none"> 評価の定まっている代表的な書き手になる評論を読む。 多岐にわたる話題を扱い、現代思想のあらましや背景などを体験し、自らの言語世界や精神世界を豊かにする糧とする。 時代と社会体制の中での自己の生き方に対する苦悩、自我のめざめと挫折、その背景に存するものへの意識を喚起し、自分自身の自我への意識を喚起し、自分自身の自我への内省と成長を促す。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 中沢新一「Not I, not I…」 李禹煥「戦場の凧揚げ」 大江健三郎「チャンピオンの定義」 谷崎潤一郎「陰翳礼賛」 小林秀雄「無常ということ」 三島由紀夫「小説とは何か」 南木圭士「急須」 木村敏「もとのとこと」 清水哲郎「死と向き合う」 岩井克人「貨幣共同体」 石垣りん「表札」 石原吉郎「夜がやって来る」 俳句 主に大学入学共通テストの演習 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な分野の評論を読解し、筆者の主張を理解する。自分の意見をまとめ話し合うことで、自身の考えを深める。 教養を深めつつ、読解力向上を意識した演習に取り組む。 理系については現古融合的に課題を扱う。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 魯迅「藤野先生」 主に大学入学共通テスト、二次試験に向けた演習 | |

| | |
|---------|--------------------------------|
| 評価の方法 | 学習意欲・態度・小テスト・定期考査・提出物を総合的に加味する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式だが、対話的な学びを適宜実施する |
| 教科書・主教材 | 精選現代文 B 改訂版 |
| 副教材 | 特になし |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-----------|----|-----|
| 6 | 古典 B (文系) | 必修 | 2 |

| | | | | |
|-------|---|------|---|----------------------------------|
| 目標 | 古典作品に書かれている思想や考え方を学び、日本文学、日本文化への理解や関心を深め、自ら思索する態度を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 古典の息づかいを感じとり、聞いたり、朗読したりできる。 | なし | 古典作品を講読及び精読することで、当時の人々のものの見方、考え方等の理解を深める。 | 文章読解をより進めるために、古語・古典文法・古典常識を学習する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・物語文学 『源氏物語』『桐壺』『若紫』など ・歴史物語 『大鏡』『花山院の出家』など ・古語、敬語、古典文法、古典常識の総復習 | <ul style="list-style-type: none"> ・中古における物語を読み、日本人のものの見方や感じ方、考え方について考察する。 ・作品に描かれる人物の生き方を理解し、自らの生き方についても考える機会とする。 ・人物描写、表現の特徴などを理解し、読みを深める。作者の創作上の意図を読みとる。 ・古典を読むのに必要な知識をきちんと復習する。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典評論 『無名抄』『深草の里』など ・入試問題演習 ・共通テスト対策問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・中世や近世の古典評論や俳論を読み、日本人のものの捉え方や感じ方、考え方の根幹について考察を深める。 ・大学入学共通テストや国公立大学二次試験、私立大学など、入試問題に対応できる読解能力を育成する。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト対策問題演習 | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・小テスト・定期考査・提出物を総合的に加味する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式だが、対話的な学びを適宜実施する |
| 教科書・主教材 | 「精選古典 B 古文編」(東京書籍) |
| 副教材 | 「体系古典文法」(数研出版)「最新国語便覧」(浜島書店) 「わかる・読める・解ける古文単語 330 三訂版」(いっぴな書店) 「和歌る力がつくノート」(尚文出版) |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-----------|----|-----|
| 6 | 古典 B (理系) | 必修 | 2 |

| | | | | |
|-------|--|------|---------------------------|---------------------------|
| 目標 | 母語をよりよく理解し、操るために、日本人の知性の源となっている古文・漢文への理解を深め、自らの言語生活を豊かにする。 | | | |
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 古典の息づかいを感じ取り、聞き、読む。 | なし | 時代背景、思想などに留意し、内容を確実に把握する。 | 古典文法や助字、その他、必須の重要語句を習得する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|------|--|--|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・物語文学 『源氏物語』『若紫』など ・歴史物語 『大鏡』『花山院の出家』など ・古語、敬語、古典文法、古典常識の総復習 ・漢文(句形総復習など)も一部取り扱うことがある ・三国志「赤壁之戦」 | <ul style="list-style-type: none"> ・古文を読解する力を身につける。 ・中古における物語を読み、日本人のものの見方や感じ方、考え方について考察する。 ・古典を読むのに必要な知識をきちんと復習する。 ・物語文学では、人物描写、表現の特徴などを理解し、読みを深める。作者の創作上の意図を読みとる。 ・評論では、多様なものの見方、考え方、感じ方を理解しつつ、自らの考えを深める。 ・漢文の句法などの漢文の読解に必要な知識を身につける。 ・大学入学共通テストに対応できる読解能力を育成する。 ・重要必須語句の習得を目指す。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典評論 『俊頼髓脳』『鷹狩りの歌』など ・漢詩「長恨歌」 ・漢文(句形総復習など)も一部取り扱うことがある ・大学入学共通テスト対策問題演習 | |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト対策問題演習 | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・小テスト・定期考査・提出物を総合的に加味する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式だが、対話的な学びを適宜実施する |
| 教科書・主教材 | 「精選古典 B 古文編」「(精選古典 B 漢文編) (東京書籍) |
| 副教材 | 「体系古典文法」(数研出版)「最新国語便覧」(浜島書店) 「わかる・読める・解ける古文単語 330 三訂版」(いわずな書店) 「和歌る力がつくノート」(尚文出版) 「漢文必携チェックノート四訂版応用編」(桐原書店) |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|----|-----|
| 6 | 古典講読（文系） | 必修 | 1 |

| 目標 | 母語をよりよく理解し、操るために、日本人の知性の源となっている古文・漢文への理解を深め、自らの言語生活を豊かにする。 | | | |
|-------|--|------|---------------------------|---------------------------|
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 古典の息づかいを感じ取り、聞いたり、読んだりする。 | なし | 時代背景、思想などに留意し、内容を確実に把握する。 | 古典文法や助字、その他、必須の重要語句を習得する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・逸話 「不死之薬」など ・漢詩 「長恨歌」など | <ul style="list-style-type: none"> ・漢文を読解する力を身につける。 ・句形などの漢文の読解に必要な知識を身につける。 ・漢詩のきまりを復習するとともに、有名な漢詩を読み味わう。 |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・古詩 「飲酒」など ・入試問題演習 ・共通テスト対策問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本人にも影響を与えた当時の中国人のものの感じ方、考え方について考察を深める。 ・重要必須語句の習得を目指す。 ・共通テスト対策問題を中心に演習を行い、入試に対応できる読解能力を育成する。 |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト対策問題演習 | |

| | |
|---------|---------------------------------------|
| 評価の方法 | 授業態度・小テスト・定期考査・提出物を総合的に加味する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式だが、対話的な学びを適宜実施する |
| 教科書・主教材 | 「精選古典B 漢文編」（東京書籍） |
| 副教材 | 「漢文必携」（桐原書店）「漢文必携チェックノート四訂版応用編」（桐原書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-----------|------|-----|
| 6 | 現代文特講（文系） | 自由選択 | 1 |

| | | | | |
|-------|--|---|---|---|
| 目標 | 近代以降のテキストを精読する。文章の内容に対して自分の頭で考え、意見を持ち、それを表現する。ジャンルは文学にとどまらず、エッセイや評論文、詩歌を扱うこともある。 | | | |
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 特になし | 文章を的確に読みとり、簡潔にまとめて表現する能力、自分の思考を分かりやすくかつ、的確なことばを選び表現する力。 | 文章の内容を正確に把握する力、さまざまな文章の独特な表現方法や、ことばの使い方を読みとる力、筆者の思想や発想を読みとる力。 | 国際化の中で多様化する言語について理解を深める語彙力。 日本語についての豊かな言語感覚。 近現代の文学史を概観する力。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|--|
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> 近代小説の名作に触れる 評論文のトレンドを知る 「哲学・芸術」についての評論 「ことば」についての評論 「都市」についての評論 記述試験演習 | <ul style="list-style-type: none"> 文章を正確に読み取り、的確にまとめる力を身につける。 現代の評論に触れて、今、わたしたちが直面する問題について、どのように論述されているかを読み取る。 小説をテーマ毎に読み比べて、時代とテーマとの関係性を考察する。 評論、随筆、小説等、入学試験問題への読解力を養う。 |
| 2学期 | <ul style="list-style-type: none"> 記述試験演習 | |
| 3学期 | <ul style="list-style-type: none"> 記述試験演習 | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 学習意欲・態度・小テスト・定期考査・提出物を総合的に加味する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式だが、対話的な学びを適宜実施する |
| 教科書・主教材 | 過程の演習 新国語問題集 セレクト第3集 2014～2016 過去問精選集 現代文編（京都書房） |
| 副教材 | 特になし |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 古典特講（文系） | 自由選択 | 1 |

| 目標 | 和歌の技巧や表現を理解し、和歌に込められた心情を味わう力や、さまざまなジャンルの古文を読み解く力を養う。また、古語、古典文法、古典常識を学ぶことで言語生活を豊かにし、日本文化への理解や関心を深める。 | | | |
|-------|---|---|--|--|
| 育てたい力 | 聞くこと・話すこと | 書くこと | 読むこと | 言語事項 |
| | 特になし | 和歌の心情を自分の言葉で表現する力。物語文では登場人物の思い、日記や評論では筆者の思いや主張を把握しそれを記述する力。 | 和歌の修辞技巧を習得して、和歌に込められた心情を理解する力。さまざまなジャンルの古文を正確に読みとる力、古文の世界を古語や古典文法の知識をもとに味わえる力。 | 和歌の技巧や表現を理解し習得して和歌を読み解く力を養う。古語・古典文法・古典常識を習得して、豊かな言語感覚を身につける。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|--|--|
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> 和歌の修辞技巧、表現方法 敬語の確認 文法事項の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 和歌の技巧や表現について理解し、作者の表現意図や心情を考える。 敬語を習得することで人物関係を理解し、古文を読み解く力を身につける。 古文を読むにあたって必要な文法知識を習得することで、古文の読解力を確かなものにする。 |
| 2学期 | <ul style="list-style-type: none"> 古語の確認 古典常識の確認 古文の入試問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> さまざまなジャンルの古文を読み、作者の表現意図や心情を考え、文章読解できる力を養う。 古文を読むにあたって必要な古語や古典常識を習得し、古文の読解力を確かなものにする。 和歌を含んだ文章を中心に演習を行い、入試に対応できる読解力を育成する。 |
| 3学期 | <ul style="list-style-type: none"> 古文の入試問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> 同上 |

| | |
|---------|----------------------------------|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・小テストを総合的に評価する |
| 学習活動の特徴 | 主として講義形式 |
| 教科書・主教材 | 特になし |
| 副教材 | 特になし |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 6 | 日本史 B | 選択必修 | 3 |

| | | | | |
|-------|--|-----------------------------------|---|--|
| 目標 | 5年生までの社会科・歴史学習をふまえ、社会構造の歴史的变化を追いながら時代の展開を理解できるようになる。そして、各時代の画期を考察して表現することで単なる歴史的事項の暗記に陥ることのない「考える日本史」を目指す。また、市民社会において社会に適応するだけでなく、社会に変革をもたらす市民となれるよう、情報を疑う・問いを立てる・仮説を考える・根拠を示して自分の意見を伝えるという資質や能力を育成する。 | | | |
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 歴史事象および因果関係、後世への影響に関する基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題追求力 主題的表現力 多角的視点に基づく討論および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> 系統的思考方法 現代的課題との関連把握及び探究 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|--|
| 1学期 | 1. 「近代国家」の成立 2. 日本の「近代化」と東アジア | <ul style="list-style-type: none"> 幕末以来の国際情勢の変化と影響などに着目して、日本における「近代国家」確立の過程と政治・経済・社会の変化を考察する。 東アジアにおける国際情勢の変化が日本にもたらした状況などについて、その推移や展開を考察する。また、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 |
| 2学期 | 3. 二つの世界大戦とアジア 4. 占領下の日本 5. 高度成長の時代 6. 激動する世界と日本 | <ul style="list-style-type: none"> 戦争が及ぼした影響などに着目して、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的な地位の変化などについて、推移や展開を理解する。 第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。 敗戦後の政治・経済や対外関係、また現代に至るまでの政治や社会の枠組み、国民生活の変容について考察する。 |
| 3学期 | 7. 「歴史を（に）学ぶということ」 | <ul style="list-style-type: none"> 6年間の授業、および学校生活をふりかえり、改めて現代社会において「歴史を（に）学ぶ」意味について考える。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 定期考査、提出物、レポート、発表、出席状況、課題の到達度、授業態度などを総合的に判断して評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 基礎的・基本的な具体的な知識の獲得をもとにしつつ、より抽象的で高度な概念の獲得をめざす。また、教師の講義を中心としながらも、獲得した知識・概念を活きたものとするために、教師に素朴な疑問をぶつける、意見交換や討論等の時間をできるだけ取り入れて「自らの頭で考えること」を重視する。 |
| 教科書・主教材 | 『詳説日本史B』（山川出版社）・自作プリント |
| 副教材 | 『新詳日本史』（浜島書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 6 | 世界史 B | 選択必修 | 3 |

| 目標 | 世界のあらゆる地域の過去が、いかにして現在の世界を構成する要素となっているかを学び、歴史的視座を獲得する。 | | | |
|-------|---|-------------|---|--|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題追求力 主題的表現力 多角的視点に基づく意見表明および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> 系統的思考方法 現代的課題との関連把握及び追求 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|------|---|---|
| 1 学期 | 1. 環大西洋革命 —資本主義と国民国家— 2. ウェスタン・インパクト —アジア諸地域の変容— 3. 帝国主義とアジアの民族運動 | <ul style="list-style-type: none"> 現代とは何か、その構成要素となる「国家」や「民族」「民主主義」「資本主義」の起源を探りつつ、現代の世界の本質について考える。 あらゆる地域が密接に関連しあい、相互依存する「近代世界システム」の形成過程と現状について認識を深める。 |
| 2 学期 | 4. 二つの世界大戦 5. 冷戦とアジアアフリカ世界の自立 6. 現代の世界 | <ul style="list-style-type: none"> 広い視野と、長い時間軸で現代の世界をとらえなおす。 |
| 3 学期 | | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 学習意欲、定期考査、レポート、出席状況、課題の到達度などを基に、総合的判断で評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 講義を中心として基礎的な知識の獲得をめざすと共に、それを活かした知識とするために意見交換を積極的に行う。 |
| 教科書・主教材 | 『新詳世界史 B』（帝国書院）・自作プリント |
| 副教材 | 『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 6 | 地理 B | 選択必修 | 3 |

| 目標 | 地理的なもの見方考え方を身につけ、それが国際交流や災害の時などに活用できるよう、各個人に定着する知識や技能となるようにする。また、見世物小屋的異文化理解とならないよう、深い学びをめざし、持続可能な社会の構成員として行動に移せる力をつける。 | | | |
|-------|---|----------------------------|--|----------------------------|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 文理融合科目の特徴を生かし、各自の目的意識をもった「探究」活動 | 基礎的知識の習得とともに、活用できる知識としての定着 | <ul style="list-style-type: none"> 問題発見能力 問題解決能力 読図能力 統計読み取り能力 課題提示能力 | 身につけた地理的能力を、課題解決に結び付けて考える力 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|------|---|--|
| 1 学期 | 1. 農業と生活 2. 水産業と海洋 3. 林業と森林資源 4. エネルギーと鉱工業 | <ul style="list-style-type: none"> 農林水産業の系統地理的学習により、地理学習の内容を整理して理解をすすめる。また、シミュレーション教材を使って、より深い理解をめざす。 鉱工業の地域的特性について学び、エネルギー問題についてデータから真実を読み取り、今後のエネルギー政策の在り方を考える。 |
| 2 学期 | 5. 都市と村落 6. 交通・通信・貿易 7. グローバルイシューズ | <ul style="list-style-type: none"> 集落の立地などについて、自然・社会の両視点から考察する。 交通と通信と貿易に関して、近年の状況を正しく把握する。 21 世紀に顕在化しているさまざまな現代的諸問題について考察を深め、持続可能な社会の構築のために、自分たちは何ができるかを考えさせる。 |
| 3 学期 | (1) 食糧問題 (2) 人口問題 (3) 開発と環境 (4) 民族問題と国境紛争 | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、定期考査、提出物、出席状況などを基に、総合的判断で評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 基礎的な知識の獲得を目指すとともに、それを生きた知識とし行動に結びつけることができるような学習方法を積極的に取り入れる。 |
| 教科書・主教材 | 『新詳地理 B』（帝国書院）『新詳高等地図』（帝国書院） |
| 副教材 | 『世界の諸地域 NOW2021』（帝国書院）、『データブック オブ・ザ・ワールド 2021』（二宮書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-------------|------|-----|
| 6 | 倫理・政経（政経分野） | 選択必修 | 3 |

| | | | | |
|-------|---|-------------|---|--|
| 目標 | 社会構造の変化に起因する社会問題をとりあげ、そうした諸問題が引き起こされる文脈を理解し、解決の道を粘り強く考えてゆく。授業を通して、新しい社会形成の担い手となることを目標とする。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 自分なりの目的意識を持って「探究」する。 | 基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題探究力 主題的表現力 多角的視点に基づく討論および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> 系統的思考方法 現代的課題との関連把握及び追求 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | 1. 権力とは？ 2. 選挙と民主主義 3. 議会と政治家、そして有権者 4. 権力分立と政治システム 5. 地方自治と地方分権 6. 政治過程と政策過程 | <ul style="list-style-type: none"> 政治学の基礎的な知識の習得 現代日本の政治的課題について、政策科学的な視点からアプローチする力を身につける。 |
| 2 学 期 | 7. リベラリズムとリアリズム 8. 国際政治学の誕生 9. 冷戦とは何だったのか？ 10. 宗教と国際政治 11. 民族と国際政治 12. 開発と民主化 | <ul style="list-style-type: none"> 国際政治の基礎的な知識の習得 国際政治をめぐる諸問題について、問題解決型思考に基づいてアプローチする能力を身につける。 |
| 3 学 期 | 13. 国家の多様性とグローバルな問題 | <ul style="list-style-type: none"> 21世紀世界の担い手として、どのような世界を作っていく必要があるか、国際政治学の視点に基づいて構想する力を身につける。 |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 定期考査、授業への参加、出席状況、課題の到達度などを基に、総合的に評価する |
| 学習活動の特徴 | 講義を中心としながらも、意見交換や対話をできるだけ取り入れる。 政治学・国際政治学を中心としながらも、経済学（経済思想）の基本視点を組み込んでいく。 選択講座／一斉授業・グループ活動／講義・発表・討論 科目の性格上、順序や題材は変更することがある。 |
| 教科書・主教材 | 『政治・経済』（東京書籍） |
| 副教材 | 『政治・経済資料集 2022』（清水書院）、『政治・経済ワークノート』（東京書籍） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-----------|------|-----|
| 6 | 日本史特講（文系） | 自由選択 | 1 |

| 目標 | ・大学入学試験問題のグループ別演習を通じて、通史を概観し、各時代の特色を理解する。また、原始から現代に至る日本文化の歴史の変遷について既習の政治史や経済史と関連づけ、知識を構造化する。 | | | |
|-------|--|-------------|---|--|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題追求力 主題的表現力 多角的視点に基づく討論および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> 系統的思考方法 現代的課題との関連把握及び追求 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|---|
| 1学期 | <ol style="list-style-type: none"> 古代の文化と社会 中世の文化と社会 | <ul style="list-style-type: none"> 古代文化を、仏教の変遷を通じて、考察する 中世文化を、「生存の維持」と「自力解決」を軸に考察する 近世文化を、「身分」と「共同体」を軸に、考察する |
| 2学期 | <ol style="list-style-type: none"> 近世の文化と社会 近代の文化と社会 戦時下の文化と社会 | <ul style="list-style-type: none"> 近代文化を、「国民国家」と「産業社会」を軸に考察する 戦争と人間の関係を、文化を通じて考察する 前近代～現代に至る日本の文化史的特徴について復習する。 |
| 3学期 | | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 到達度確認テストを中心に、提出物、発表、出席状況、課題の到達度などをもとに、総合的判断で評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 基礎的・基本的な知識の獲得をもとにしつつ、より高度な概念の獲得をめざす。また、意見交換・討論等の問題演習と講義形式とを組み合わせた知識獲得型学習を進める |
| 教科書・主教材 | 『詳説日本史B』（山川出版社）・自作プリント |
| 副教材 | 『新詳日本史』（浜島書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|-----------|------|-----|
| 6 | 世界史特講（文系） | 自由選択 | 1 |

| 目標 | 世紀ごとの世界の概観や、法制史・経済史・東西交流史などのテーマ史学習を通じて、多角的な「世界史像」を構築することをめざす。同時にセンター試験に向けた演習を兼ねる。 | | | |
|-------|---|-------------|---|--|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題追求力 主題的表現力 多角的視点に基づく討論および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> 系統的思考方法 現代的課題との関連把握及び追求 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|----------|---|
| 1学期 | 1. テーマ史① | <ul style="list-style-type: none"> 東西交流史や各世紀の概観など、前近代史を中心にピックアップしたテーマで、世界の諸地域を立体的に整理し、認識し直す。 |
| 2学期 | 2. テーマ史② | <ul style="list-style-type: none"> さまざまなテーマで、すべての時代に及ぶ世界史を「切り取る」力を身につける。 |
| 3学期 | | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、定期考査、発表、出席状況、課題の到達度などを基に、総合的判断で評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 基礎的・基本的な知識の獲得をもとにしつつ、より高度な概念の獲得をめざす。また、講義を中心としながらも、獲得した知識・概念を活用し、「自らの頭で考えること」を重視する。 |
| 教科書・主教材 | 『新詳世界史 B』（帝国書院）・自作プリント |
| 副教材 | 『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 地理特講（文系） | 自由選択 | 1 |

| 目標 | 通常の地理の授業とは異なった学習方法を取り入れて、地理的ものの見方・考え方の習得と異文化に対する共感的理解を深めることをめざす。 | | | |
|-------|--|-------------|--|--|
| 育てたい力 | 特徴 | 知識・概念 | 各種技能 | 思考力 |
| | 自分の目的意識を持って「探究」する。 | 基礎概念の習得と応用。 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題追求力 ・主題的表現力 ・多角的視点に基づく討論および相互認識 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統的思考方法 ・現代的課題との関連把握及び追求 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 1 学期 | 1. シミュレーション教材による学習 「遊牧民ゲーム」「焼津の遠洋漁業」「コンビニの立地」など | ・シミュレーション教材により、地理的諸事象を共感的に理解させる。 |
| 2 学期 | 2. GIS（地理情報システム）の実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・GISについての作業学習をすることにより、地理的情報を編集する力を身につける。 ・実際の地形図を読み取る作業を積み重ねることにより、地形の判読のスピードを上げるとともに質を高める。 |
| 3 学期 | 3. 地形図等の読図、空中写真判読など | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度、学習意欲、提出物、発表、出席状況、課題の到達度などを基に、総合的判断で評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 地域の様子や異文化を共感的に理解できるような、参加型学習教材を用いる。通常の授業では時間が足りなくてできない、GISに関連する作業、空中写真や地形図も積極的に用いる。また、状況が許せば地形図を持って、校外へ巡検に出かける。年度後半には、生徒の必要度に応じて、受験対策も考えている。 |
| 教科書・主教材 | 『新詳地理 B』（帝国書院）『新詳高等地図』（帝国書院） |
| 副教材 | 『世界の諸地域 NOW2021』（帝国書院）、『データブック オブ・ザ・ワールド 2021』（二宮書店） |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|---------|------|-----|
| 6 | 解析Ⅱ（理系） | 選択必修 | 6 |

| 目標 | 微積分、2次曲線、複素数平面についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。 | | | |
|-------|--|--|---|---|
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 微積分、2次曲線、複素数平面について興味をもち、既習の内容との関係を探ろうとする。 | 「拡大する、細かく分け足し合わせる」という微積分の考え方ができる。曲線の方程式を直交座標や極座標を用いて見ることができる。複素数を用いて、平面図形の性質を考察することができる。 | 微積分の意味をふまえ、それぞれの計算を処理することができる。曲線の方程式を直交座標や極座標を用いて表現することができる。平面図形の関係を、複素数を用いて表現することができる。 | 微積分の意味や計算方法が、既知の知識と関連づけて理解できる。いろいろな曲線の方程式について理解する。複素数の演算の図形的な意味を理解する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|------------------|---|--|
| 1 学 期 | 1. 関数と極限(数学Ⅲ) 関数の極限 2. 微分 微分法、導関数 3. 微分の応用 接線、関数の増減、微分のいろいろな応用 4. 積分とその応用 不定積分、定積分、面積・体積 | <ul style="list-style-type: none"> ・整関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数および対数関数の関数値の極限を求められる。 ・関数の和・差・積・商の導関数、合成関数の導関数、三角関数、指数関数、対数関数の導関数が求められる。 ・導関数が関数の値の変化の様子を表すものであることを応用して、接線や関数値の増減について調べる。 ・関数の特徴に着目して、不定積分や定積分の計算ができる。 ・積分を応用して、各種の図形の面積や体積、曲線の長さを求めることができる。 |
| | 5. 平面上の曲線 2次曲線、媒介変数表示と極座標 6. 複素数平面 複素数平面、図形への応用 | <ul style="list-style-type: none"> ・2次曲線の定義を理解し、方程式を求めることができる。 ・離心率を定義することによって、楕円・双曲線・放物線を統一的に表せるよさを知る。 ・複素数平面の意味を理解し、複素数平面上における複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解する。 ・複素数を用いて、平面図形の性質を考察することができる。 |
| 2 3 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅲの問題演習 ・微分方程式 | <ul style="list-style-type: none"> ・標準的な入試問題を解くことによって、総合力を養う。 ・可能な限り別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 ・答案を添削することにより、要点を押さえた記述力を養う。 ・発展的な内容として、微分方程式について取り上げる。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・レポート |
| 学習活動の特徴 | 複数の教員が並行して授業を行う。受験対策だけではなく、大学での学びの基礎となる部分でもあるので、高校の範囲を超えた発展的な内容も扱うことがある。 |
| 教科書・主教材 | 「数学Ⅲ Advanced」(東京書籍) |
| 副教材 | 「教科書傍用 4STEP 数学Ⅲ」(数研出版)「クリアー数学演習Ⅲ受験編」(数研出版) |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 数学演習（理系） | 選択必修 | 2 |
| | 数学演習（文系） | 自由選択 | 2 |

| | | | | |
|-------|-----------------------------------|---------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 目標 | 能力・進路に応じた講座選択により、各人の数学的な力をさらに伸ばす。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 進路に応じた数学を選択し、意欲的に学習しようとする。 | 1つの問題をいろいろな観点から考えることができる。 | 問題を多様な方法で処理し、正確に解決できる。 | 応用問題を解決するとき、既知の知識と関連づけて問題の構成が理解できる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|--------------|--|---|
| 1学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰ・Aの問題演習 ・数学Ⅱの問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト型の入試問題を解くことによって、総合力を養う。 ・可能な限り、別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 |
| 2 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱ・Bの問題演習 | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物 |
| 学習活動の特徴 | 問題集に沿って、問題演習を行う。類題をプリントの演習で補う。 解法や基礎事項に関する解説を行う。 |
| 教科書・主教材 | 「大学入学共通テスト対策 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 上級演習 PLAN120」（数研出版） |
| 副教材 | プリント課題 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 数学特講（理系） | 自由選択 | 3 |

| 目標 | 理系選択者に対して能力・進路に応じた講座選択をし、各人の数学的な力をさらに伸ばす。 | | | |
|-------|---|---------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 進路に応じた数学を選択し、意欲的に学習しようとする。 | 1つの問題をいろいろな観点から考えることができる。 | 問題を多様な方法で処理し、正確に解決できる。 | 応用問題を解決するとき、既知の知識と関連づけて問題の構成が理解できる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学ⅠAの問題演習 ・数学ⅡBの問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・標準的な入試問題を解くことによって、総合力を養う。 ・解法に至るアプローチを重視し、発想力を養う。 ・別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 ・答案を添削することにより、要点を押さえた記述力を養う。 |
| 2 学期 | | |
| 3 学期 | | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物 |
| 学習活動の特徴 | 準備する問題に沿って、問題演習を行う。 解答の解説や書き方を指導するための答案添削を行う。 定期的に提出課題を課す。 夏休みに補習を行う。 文理混合で習熟度別に3講座設ける。 |
| 教科書・主教材 | 「メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編」(数研出版) |
| 副教材 | プリント課題 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 数学特講（文系） | 自由選択 | 2 |

| | | | | |
|-------|--|---------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 目標 | 文系選択者に対して、進路に応じた内容を精選し、各人の能力・数学的な力をさらに伸ばす。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 見方・考え方 | 技能 | 知識・理解 |
| | 進路に応じた数学を選択し、意欲的に学習しようとする。 | 1つの問題をいろいろな観点から考えることができる。 | 問題を多様な方法で処理し、正確に解決できる。 | 応用問題を解決するとき、既知の知識と関連づけて問題の構成が理解できる。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学ⅠAの問題演習 ・数学ⅡBの問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・標準的な入試問題を解くことによって、総合力を養う。 ・解法に至るアプローチを重視し、発想力を養う。 ・別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 ・答案を添削することにより、要点を押さえた記述力を養う。 |
| 2 学期 | | |
| 3 学期 | | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・提出物 |
| 学習活動の特徴 | <p>数学演習との関係で、学習内容の順番を変更することがある。</p> <p>準備する問題に沿って、問題演習を行う。</p> <p>解答の解説や書き方を指導するための答案添削を行う。</p> <p>定期的に提出課題を課す。</p> <p>夏休みに補習を行うことがある。</p> <p>文理混合で習熟度別に3講座設ける。</p> |
| 教科書・主教材 | 「メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編」(数研出版) |
| 副教材 | プリント課題 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 6 | 物理（理系） | 選択必修 | 4 |

| | | | | |
|-------|---|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究し、一般化しようとする態度。 | 科学的な概念をモデル化する能力。仮説を設定し、推論する能力。 | 観察・実験結果を科学的に論理立てて考察して、実験レポートを作成する。 | 科学概念の習得。 ・力学 ・電場・磁場 ・原子の構造 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 熱力学 1. 気体分子運動論 2. 定積変化と定圧変化 3. 断熱変化と等温変化 | <ul style="list-style-type: none"> 熱力学の諸現象を気体の分子運動論の微視的視点から捉える。 熱力学第一法則から定積変化や定圧変化について理解する。 熱力学第一法則から断熱変化や等温変化について理解する。 |
| | 電磁気学 1. 電荷と電場 2. 磁場と電流 3. 電磁誘導と電磁波 | <ul style="list-style-type: none"> 場の概念を導入し、電位と電場を理解する。 回路に流れる電流や電圧から、抵抗やコンデンサー、半導体など基本的な素子の性質を理解する。 電磁誘導を理解する。 交流の発生と交流回路の特性を理解する。また、電場と磁場の相互関係によって、電磁波が発生することを理解する。 |
| 2 学期 | 原子 1. 電子と光 2. 原子と原子核 | <ul style="list-style-type: none"> 19世紀の後半から、徐々に明らかになっていった原子の姿を歴史に沿って理解する。特に、放射線や原子核、「光量子仮説」や「相対性原理」など、現代物理学の基礎をつくった新しい物理学に焦点を当てる。 |
| 3 学期 | | <ul style="list-style-type: none"> 原子物理によって拓かれる科学者と社会との関わりについて考察する。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 実験観察を随所に取り入れる。 |
| 教科書・主教材 | 「物理」東京書籍 |
| 副教材 | 「改訂版フォトサイエンス物理図録」数研出版 「四訂版リードα物理」数研出版 「2022 物理重要問題集 物理基礎・物理」数研出版 「カテゴリー別大学入学共通テスト対策問題集」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 6 | 化学（理系） | 選択必修 | 4 |

| | | | | |
|-------|---|--|---|--|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究し、一般化しようとする。 | 観察、実験などを通じて、事実を分析的・総合的に捉え、実証的、論理的に考察して問題を解決し、科学的に判断することができる。 | 観察、実験の技能を習得するとともに、科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。 | 観察、実験などを通して、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | 反応速度と平衡 1. 反応の速さ、触媒 2. 化学平衡、電離平衡有機化合物 1. 有機化合物の特徴と分類 2. 脂肪族化合物 3. 芳香族炭化水素 4. 生活と有機化合物 | <ul style="list-style-type: none"> 反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。 主な有機化合物について、その化学的性質や変化を観察・実験を通して扱い、それらの物質が日常生活と深い関連があることを理解する。 有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。 |
| 2 学期 | 無機化合物 1. 非金属元素と周期表 2. 典型金属元素 3. 遷移元素 4. 生活と無機物質 | <ul style="list-style-type: none"> 無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。 高分子化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。 |
| 3 学期 | 高分子化合物 1. 天然高分子化合物 2. 合成高分子化合物 3. 生活と高分子化合物 | <ul style="list-style-type: none"> 生命体を構成する物質、生命現象と関係する化学反応、医薬品や肥料を観察・実験などを通して探究し、それらの性質や利用について理解し、化学の成果が日常生活に役立っていることを認識する。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・月例テスト・レポート・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 写真や動画視聴を行い、可能な範囲で実験を実施する。実験レポートでは考察を重視。 |
| 教科書・主教材 | 「化学 改訂版」啓林館 |
| 副教材 | 「九訂版スクエア最新図説化学」第一学習社 「セミナー化学基礎＋化学」第一学習社 「2022 化学重要問題集 化学基礎・化学」数研出版 「2022 大学入学共通テスト対策チェック&演習 化学」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|------|-----|
| 6 | 生物（理系） | 選択必修 | 4 |

| | | | | |
|-------|---|--------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。特に、生命とは何かについて探究の方法を習得する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 新聞や専門雑誌などから最新生物学に興味関心を持つようになる。 | 仮説を設定し、推論する能力をつける。 | 仮説に基づく観察・実験の課題の設定とその検証ができる。 | 生命の共通性を理解し、生物現象をより深く理解する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--------------------------------------|---|
| 1 学 期 | 生殖と発生 1. 有性生殖 2. 動物と植物の発生 | <ul style="list-style-type: none"> 減数分裂や受精について遺伝子の視点から学ぶ。 動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。 |
| | 生物の環境応答 1. 植物の環境応答 2. 動物の反応と行動 | |
| 2 学 期 | 生物の進化と系統 1. 生物の進化 2. 生物の系統 | <ul style="list-style-type: none"> 進化に関する様々な学説を考える。 生物の分類とその類縁関係について理解する。 |
| 3 学 期 | | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・レポート・発表・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 実験観察を随所に取り入れる。 |
| 教科書・主教材 | 「高等学校 改訂 生物」第一学習社 |
| 副教材 | 「四訂版 リードα 生物」数研出版 「三訂版 フォトサイエンス生物図録」数研出版 「2022 大学入学共通テスト対策チェック&演習 生物」数研出版 「2022 生物重要問題集 生物基礎・生物」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 化学演習（文系） | 自由選択 | 2 |

| | | | | |
|-------|---|--------------------|-----------------------------|---|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。特に、生命とは何かについて探究の方法を習得する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 新聞や専門雑誌などから最新化学に興味関心を持つようになる。 | 仮説を設定し、推論する能力をつける。 | 仮説に基づく観察・実験の課題の設定とその検証ができる。 | 科学概念の習得。 ・ 化学結合 ・ 酸と塩基 ・ 酸化還元反応 など |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-------------|--|--|
| 1 学 期 | これまでの学習内容の振り返りと発展的内容 ・ 物質の構成 ・ 物質の構成粒子 ・ 化学結合 ・ 物質と化学反応式 ・ 酸と塩基 ・ 酸化還元反応 | ・ 5年生で学習した学習内容を振り返ると同時に、発展的内容も扱うことで、日常生活や産業・工業などに化学が深く関わっていることを理解する。 |
| 2 学 期 | 大学入学共通テスト対策演習 | ・ 予想問題により、共通テストのための実践力を身につける。 |
| 3 学 期 | | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・提出物・レポート・発表・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 基本的には演習となるが、可能なら実験や実習も取り入れたい。 |
| 教科書・主教材 | 「化学基礎 改訂版」啓林館 |
| 副教材 | 「九訂版スクエア最新図説化学」第一学習社 「ニューステップ化学基礎」東京書籍 「2022 大学入試共通テスト対策チェック&演習 化学基礎」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 生物演習（文系） | 自由選択 | 2 |

| | | | | |
|-------|---|--------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 目標 | 幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。特に、生命とは何かについて探究の方法を習得する。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 新聞や専門雑誌などから最新生物学に興味関心を持つようになる。 | 仮説を設定し、推論する能力をつける。 | 仮説に基づく観察・実験の課題の設定とその検証ができる。 | 生命の共通性を理解し、生現象をより深く理解する。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|---|---|
| 1 学期 | バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム 2. バイオームの形成過程 3. バイオームとその分布 | <ul style="list-style-type: none"> ・気候とバイオームについて学ぶ。 ・植生の成立や種類、および遷移について学ぶ。 ・気温や降水量とバイオームの関係、世界や日本におけるバイオームの分布について学ぶ。 |
| 2 学期 | 文系のための生物基礎発展 | <ul style="list-style-type: none"> ・形質の発現など最新情報も取り入れて、遺伝子とその働きの学習を深める。 ・過去の問題や予想問題により、共通テストのための実践力を身につける。 |
| 3 学期 | 大学入学共通テスト対策演習 | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・提出物・レポート・発表・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 実験や実習を随所に取り入れる。写真や図表、ビデオを見ながら進めることがある。 |
| 教科書・主教材 | 「改訂 高等学校 生物基礎」第一学習社 |
| 副教材 | 「2022 大学入学共通テスト対策チェック&演習 生物基礎」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|----------|------|-----|
| 6 | 地学演習（文系） | 自由選択 | 2 |

| | | | | |
|-------|--|--|-----------------------------|--|
| 目標 | 幅広い地学の知識を系統的、総合的に理解できるようにし、科学的な自然観を育成する。 自ら課題を見だし、そのための情報を収集して、地学的に探究する能力を養う。 | | | |
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 科学的思考力 | 実験観察技能 | 科学的知識・概念 |
| | 天気の変化や星空等に関心を持ち、それらについて更に自分で深く知ろうとする。 | 地学概念をモデル化する能力。 広大な空間や長大な時間について推論する能力。 | 仮説に基づく観察・実験の課題の設定とその検証ができる。 | 地学知識・概念の習得。 ・熱収支 ・太陽定数 ・ビッグバン |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|-----------------------------------|--|
| 1 学期 | 恒星と宇宙 1. 太陽と太陽系 2. 恒星の性質と進化 | ・太陽の活動やエネルギー源について考え、惑星の視運動とケプラーの法則を理解する。 |
| 2 学期 | 3. 銀河系と宇宙 | ・年周視差を理解するとともに、恒星の種類やその進化の過程を考える。 ・銀河系の大きさや構造を理解し、銀河系外の世界について考える。また、ハッブルの法則から宇宙の膨張を考える。 |
| 3 学期 | 発展内容 大学入学共通テスト対策演習 | ・地学基礎の発展的内容について学習する。 ・問題の演習を中心に、共通テストのための実践力を身につける。 |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・定期考査・レポート・実験観察技能・出席状況など |
| 学習活動の特徴 | 写真や図表、ビデオから、正しく情報を読み取って整理し、主体的に課題を見出すことで、基本的な知識の取得を目指す。 |
| 教科書・主教材 | 「地学基礎 改訂版」啓林館 |
| 副教材 | 「三訂版 リードα地学基礎」数研出版 「改訂版 フォトサイエンス地学図録」数研出版 「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 地学基礎」数研出版 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|------------------|----|-----|
| 6 | Topic Studies IV | 必修 | 3 |

| | | | | | |
|-------|--|--------------------|----------------------------|--------------------|-----------------------|
| 目標 | 抽象的な概念を含む相当量の英語情報を収集・加工・発信することができ、場面・状況を考慮した高度で総合的な言語運用能力を身につける。広い世界との関わりを考え、自己を再認識する。 | | | | |
| 育てたい力 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 自己学習能力 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | 読んだり聴いたりした内容についての意見を論理的に述べる力。 | 学習した内容を家庭学習で定着させる。 | 自分の意見・考えを場面・状況に応じ論理的に述べる力。 | 抽象的概念も含む英文を読み、聴く力。 | 様々なトピックに関する知識と豊かな語彙力。 |

| 時期 | 学習内容 | テーマ |
|---------|--|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な概念を含む英文を読む。 ・トピックに関連する英語を聴いて様々なタスクを行う。 ・読んだり聴いたりした内容について、自分の考えを持つ。 ・考えたことを英語で表現し、意見交換する。 ・構文・語法などの総復習を行う。 ・英文解釈の演習を行う。 | 1 Life and Culture 2 Society and Communication 3 Nature and the Environment 4 Science and Technology 上記のテーマの中で、以下の問いにとりくむ |
| 2 学期 | | <ul style="list-style-type: none"> ● What are humans? ● How are we connected? |
| 3 学期 | | <ul style="list-style-type: none"> ● Where have we come and where are we going? |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 予習状況・授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況 |
| 学習活動の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・予習を必須として課する。 ・学習した語句について家庭学習で定着させる。 |
| 教科書・主教材 | ハンドアウト |
| 副教材 | 「英語の構文150」美誠社、「be総合英語」/いっぴいな書店 <i>Wisdom</i> |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------------|------|-----|
| 6 | Reading (文系) | 自由選択 | 3 |

| | | | | | |
|-------|---|--|-----------------------|------------------------|-----------------------|
| 目標 | 抽象的な場面や概念を含む相当量の英文を理解し、それについて問題意識を持ち、自らの考えを表現する力を身につける。 | | | | |
| 育てたい力 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 自己学習能力 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | 読んだ内容について意見を交わそうとする力。 | 文章の構成を意識しながら英文を読み理解しようとする力。学習した語句、語法等を習得しようとする力。 | 読んだ内容について意見を論理的に述べる力。 | 抽象的概念を含む相当量の英文を読みこなす力。 | 様々なトピックに関する知識と豊かな語彙力。 |

| 時期 | 学習内容 | テーマ |
|---------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックの英文を、文章の構成を意識しながら読む。 リスニングの力を鍛える。 演習を通して、速読と精読の技術を高める。 文法、語法、語彙の総復習を行う。 英文を読むことを通して、論理的思考を養い知識や教養を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> Life and Culture Society and Communication Nature and the Environment Science and Technology <p>以上のテーマに沿ったトピックを扱う。</p> |
| 2 学期 | | |
| 3 学期 | | |

| | |
|---------|---|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・出席状況 |
| 学習活動の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 予習を必須として課する。 様々なテーマの英文を数多く読むことで、読解力を深める。 演習を通して、速読や精読の技術を高める。 リーディングを通して文法、語法、語彙を習得する。 |
| 教科書・主教材 | <i>Cutting Edge 2022 BLUE (EMILE)</i> |
| 副教材 | <i>Listening Platform 3</i> (いっずな書店) ハンドアウト |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------------|------|-----|
| 6 | Reading (理系) | 自由選択 | 1 |

| | | | | | |
|-------|---|--|-----------------------|------------------------|-----------------------|
| 目標 | 抽象的な場面や概念を含む相当量の英文を理解し、それについて問題意識を持ち、自らの考えを表現する力を身につける。 | | | | |
| 育てたい力 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 自己学習能力 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| | 読んだ内容について意見を交わそうとする力。 | 文章の構成を意識しながら英文を読み理解しようとする力。学習した語句、語法等を習得しようとする力。 | 読んだ内容について意見を論理的に述べる力。 | 抽象的概念を含む相当量の英文を読みこなす力。 | 様々なトピックに関する知識と豊かな語彙力。 |

| 時期 | 学習内容 | テーマ |
|---------|---|---|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なトピックの英文を、文章の構成を意識しながら読む。 リスニングの力を鍛える。 演習を通して、速読と精読の技術を高める。 文法、語法、語彙の総復習を行う。 英文を読むことを通して、論理的思考を養い知識や教養を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> Life and Culture Society and Communication Nature and the Environment Science and Technology <p>以上のテーマに沿ったトピックを扱う。</p> |
| 2 学期 | | |
| 3 学期 | | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・出席状況 |
| 学習活動の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なテーマの英文を数多く読むことで、読解力を深める。 演習を通して、精読の技術を高める。 リーディングを通して文法、語法、語彙を習得する。 |
| 教科書・主教材 | <i>Listening Platform 3</i> (いっずな書店) |
| 副教材 | ハンドアウト |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|---------|------|-----|
| 6 | Writing | 自由選択 | 1 |

| 目標 | 文法的正確さと文脈上の適切さを追求しつつ、自分の意見・考えをまとまりのある英文で表現する力を身につける。 | | | |
|-------|--|-----------------------|----------------------|-----------------------------|
| 育てたい力 | 文法的正確さ | 文脈上の適切さ | 段落構成 | トピックについての知識・理解 |
| | 文法的知識を「書く」作業の中で正しく使える。 | 文脈や状況に応じた適切な表現を選択できる。 | 表現したい内容に応じた段落構成ができる。 | さまざまなトピックに関する知識を深め語彙を身につける。 |

| 時期 | 学習内容 | テーマ |
|-------------|---|---|
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた表現方法と、さまざまな分野の語彙 文法的正確さ 日本語を正確に読み取って自然な英語で表現すること 伝えたい内容に応じた段落構成 過去の入試問題 | 1 Life and Culture 2 Society and Communication 3 Nature and the Environment 4 Science and Technology 以上のテーマに沿ったトピックを扱う。 |
| 2 学 期 | | |
| 3 学 期 | | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・出席状況 |
| 学習活動の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 重要項目を確認した後、生徒の作文をもとに授業を進める。 予習は必須。 毎回課題を提出し、教師から添削による指導を受ける。 |
| 教科書・主教材 | 『三訂版 入試必携 英作文』（数研出版） |
| 副教材 | ハンドアウト |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|---------|------|-----|
| 6 | 音楽Ⅱ（文系） | 自由選択 | 2 |

| | | | | |
|-------|---|-----------------------------------|----------------------------|---|
| 目標 | 個人の専門楽器に沿った課題演習により、専門的な技能を高める。 | | | |
| 育てたい力 | 音楽への関心・意欲・態度 | 音楽表現の創意工夫 | 音楽表現の技能 | 鑑賞の能力 |
| | 音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞を楽しむ力。 | 多面的な視点で楽曲を分析し、独自の解釈に基づいて表現を工夫する力。 | 創意工夫を生かした音楽表現をするための専門的な技能。 | 楽曲を解釈したり、その価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わう力。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|----|---|--|
| 通年 | 1. 音楽理論 楽典、楽曲の形式／和声学 等 2. 演奏研究 声楽または器楽 3. ソルフェージュ 視唱／視奏／聴音(旋律・和音) 4. 合理的奏法 ピアノ構造論／アレクサンダーテクニック | ある楽曲に取り組むうえで、深い解釈を得るためのアプローチの仕方と、専門的な知識を身につける。また、意図した音を適切に表現するための合理的な技能を身につける。受講者個々の必要に応じた専門性を身に付ける。 |

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 評価の方法 | 課題の達成度により評価する。 |
| 学習活動の特徴 | 受講者の必要に応じた、個人実習を行う。 |
| 教科書・主教材 | コールユーブンゲン・和声—理論と実習—・楽典—理論と実習—・コンコーネ等 |
| 副教材 | 授業プリント等 |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|---------|------|-----|
| 6 | 美術Ⅱ（文系） | 自由選択 | 2 |

| 目標 | 高度な技能の習熟を目指し、創造活動に主体的に取り組む。 | | | |
|-------|---|---------------------|------|----------|
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 知識・理解 | 技術 | 創意工夫する能力 |
| | 自らの創作における課題を自覚し、より良い作品を制作できるよう前向きに取り組む。 | 美術史や作品に対する知識・理解（鑑賞） | 作品演習 | 比較作品論 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|---------|--|--|
| 通年 | 面談 計画書を学期の最初の授業で提出する 個人制作 （進路にあわせた習熟度別の課題を行う） | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの課題を的確に把握する。 個々の課題を集中的かつ効率よく完成させる。 お互いを刺激し、同時に楽しむ。 |
| 評価の方法 | 作品（計画・報告書）提出 | |
| 学習活動の特徴 | 選択講座／個人練習・個人研究 | |
| 教科書・主教材 | 各自で準備 | |
| 副教材 | 特になし | |

| 学年 | 教科・科目等 | 種別 | 単位数 |
|----|--------|----|-----|
| 6 | 体育 | 必修 | 3 |

| 目標 | これまでに学習してきた多種多様な運動、スポーツの技能、戦術の向上、発展に努める。また、単元計画や授業案づくりを通して生涯スポーツへの意欲を高め、その力量を培う。 | | | |
|-------|--|--|---|-------------------------------------|
| 育てたい力 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能 | 知識・理解 |
| | 自分たちが身につけている運動・スポーツの技能・技術に基づいて、一定の目標を設定し、その達成に向けて、積極的に取り組む姿勢。 | それぞれが持つ、課題の解決をめざす力。話し合いを通して、目標とする技能・技術の獲得に相応しい単元計画や授業案づくりに取り組む力。 | 運動・スポーツ特有の動き・タイミングを高いレベルで発揮できる技能。それらを連繋プレイや全体の動きの中で活かせる力。 | 技能・技術を高めるための効果的な練習の仕方・方法を理解し、計画する力。 |

| 時期 | 学習内容 | ねらい |
|-----|---|---|
| 1学期 | 男女共習選択制 体づくり運動、器械運動、陸上競技、球技、武道、ダンス、ニュースポーツ、スポーツ理論などからの選択 | ・選択した運動やスポーツ種目の技能や技術を高めるとともに、単元計画を立て、授業案づくりを行う。 |
| 2学期 | 男女共習選択制 体づくり運動、器械運動、陸上競技、球技、武道、ダンス、ニュースポーツ、スポーツ理論などからの選択 | |
| 3学期 | | |

| | |
|---------|--|
| 評価の方法 | 学習意欲と態度・課題の達成度・実技・出席状況・授業案などから総合的に判断する。 |
| 学習活動の特徴 | 種目の選択は生徒主体で行うが、担当教員数・使用場所などの関係で、一定の制限がある。教員の指導のもと、毎時間各授業担当者が作成した授業案を元に生徒が授業を進める。バドミントンを選択する場合はラケットを、テニスはテニスシューズ、もしくはそれに類する靴底のシューズを各自で用意する。 |
| 教科書・主教材 | 特になし |
| 副教材 | 「アクティブスポーツ」(大修館書店) |

高大接続カリキュラム開発
文理統合探究

PICASO コース

Program for Integrated Curriculum of Arts and Science Objective

Syllabus

2022年度

■概要：5年・6年生を対象として、大学教員と附属教員が協働して開発したカリキュラムに基づき、剥落しない学力を育成する2年間の高大接続コース。このコースでは、早すぎる文理選択の固定化を緩和し、文理統合的視点の獲得を可能にするカリキュラムを設定し、中等教育と高等教育を通じて、広い視野を持ちつつ高度な専門性を身につけた人材育成をめざす。

■「文理統合的視点」について：「文理統合的視点」とは、文系と理系それぞれに関する知識やリテラシーの単なる習得ではない。そこには、<文をも理をも俯瞰しうる視座（＝統合的視点）の獲得>を目指すことが含意されている。「俯瞰しうる視座」とは、文と理における科学的精神や方法等において、なにが両者に通底し、どこが異なるのかの批判的把握などによって獲得された視点を指す。このことにより高校・大学において、既存科目を受講する際にもより深い学びが可能となったり、自ら研究をおこなう際にも、より創意に富んだテーマ設定や探究につながることを期待される。

※連絡などはPICASOのクラスルームでします。必ず毎日チェックするようにして下さい。

| 月 | 日 | 曜 | 回 | 基盤探究 | プログラムの流れ | 実践探究 | | |
|----|----|---|----|-----------------------|--|---|--|--|
| 4 | 8 | 金 | 0 | オリエンテーション | 5、6年生。始業式後に実施。 ①講義を受けながら、関心のあ る探究テーマの分野について、 自主的に調査活動をはじめ。 ②関心のあるテーマについての 先行研究調査を進める。 ③探究計画書の作成を進める。 | ①個人の探究活動を進 める。 ②附属の指導教員に引 き続き指導を仰ぐ ③附属の指導教員と相 談しつつ大学アドバイ ザー教員のアドバイ スを受ける ④探究成果発表会 5/18（予定） | | |
| | 13 | 水 | 1 | 講義① 探究の導入 | | | | |
| | 20 | 水 | 2 | 講義①② | | | | |
| | 27 | 水 | 3 | 才脇直樹先生（工学部） | | | | |
| 5 | 11 | 水 | 4 | 探究活動 | | | | |
| | 18 | 水 | 5 | 18日または25日 | | | | |
| | 25 | 水 | 6 | 6年生探究成果発表 | | | | |
| 6 | 1 | 水 | 7 | 講義③④ | | | ④附属学校指導教員のサポート の下、大学アドバイザー教員の アドバイスを得て、探究活動を進 める ⑤講義と並行して、探究活動を進 める。 ⑥全3回のアドバイスを大学ア ドバイザー教員より受ける。 | ⑤口頭発表の準備を進 める ⑥探究活動のまとめ ・各種発表会におけ る発表の準備 |
| | 8 | 水 | 8 | 田中希生先生（文学部） | | | | |
| | 15 | 水 | 9 | 講義⑤ 時岡良太先生（生活環境学部） | | | | |
| | 22 | 水 | 10 | 探究活動 | | | | |
| | 29 | 水 | 11 | 講義⑥ 時岡先生 | | | | |
| 7 | 13 | 水 | 12 | 探究計画書提出 | | | | |
| 9 | 7 | 水 | 13 | 探究活動 | | | | |
| | 14 | 水 | 14 | 講義⑦⑧ | | | | |
| | 28 | 水 | 15 | 篠田正人先生（理学部） | | | | |
| 10 | 5 | 水 | 16 | 6年生高大接続入試？ | | | | |
| | 12 | 水 | 17 | 講義⑨ 篠田先生 | | | | |
| | 19 | 水 | 18 | 探究活動 | | | | |
| | 26 | 水 | 19 | 探究活動 6年のみ？ | | | | |
| 11 | 2 | 水 | 20 | 探究活動 | | | | |
| | 9 | 水 | 21 | 探究活動 | | | | |
| | 16 | 水 | 22 | 探究活動 | | | | |
| 1 | 11 | 水 | 23 | 探究活動 | ⑦3月のポスター発表に向けて、 附属の指導教員の指導を仰ぐ。 ⑧附属の指導教員と相談しつつ 大学アドバイザー教員のアドバ イスを受ける。 | / | | |
| | 25 | 水 | 24 | 探究活動 | | | | |
| 2 | 1 | 水 | 25 | 探究活動 | | | | |
| | 8 | 水 | 26 | 探究活動 | | | | |
| | 15 | 水 | 27 | 探究活動 | | | | |
| | 22 | 水 | 28 | 探究活動 | | | | |
| 3 | ? | | | 5年生探究成果発表 | | | | |

上記のスケジュールは諸事情で変更することがあります。

ヒューマンインタフェースと人間情報学の世界

工学部 工学科
才脇 直樹 先生

ヒューマンインタフェースは、人間と機械を結びつける技術です。電子デバイス（ハードウェア）とプログラミング（ソフトウェア）といった基盤技術に加えて、人間の様々な特性を理解して反映させる事が、より便利で安心安全なシステムの構築につながります。その意味で、文理融合的な側面を持った分野であり、応用先の領域を含めて広く人間情報学と呼ぶこともあります。

その中から、スマートテキスタイルやウェアラブルコンピューティング、IoT、福祉・医用工学、VR や音楽といった五感に関連した情報処理、知能ロボットなどを具体例として、様々な先端技術と社会が如何に結びつき研究が進められているのか、豊富な実例と映像を用いてわかりやすくご紹介します。

1. スマートテキスタイルとウェアラブルコンピューティング

スマートテキスタイルは電気を通す繊維や布の事です。スマートフォンのような通信装置としての形があるものとは異なり、衣服の中に情報処理装置が一体化（ウェアラブルコンピューティング）して組み込まれていたとしたら、どんな機能や役割が期待できるでしょうか？また、そうした機能を十分役立たせるためには、どのような技術上の工夫や社会的ハードルをクリアする事が必要でしょうか？具体的に、IoT や福祉・医療・健康などをテーマとして、一緒に検討してみましよう。

また、これらは全く新しい技術ですから、例えばどの程度の耐熱性能や導電性能を持てばよいかなどは定まっていません。しかし、製品として広く社会に普及し受け入れられるためには、USB コネクタのサイズや使用電圧が決まっているのと同じように、誰もが安心して使える信頼できる世界標準規格を定める必要があります。現在、奈良女子大学は、この技術仕様の世界標準化にもリーダーとして取り組んでいます。このような、一般社会からはあまり見えない技術の世界の裏側についてもご紹介します。

2. 五感に関する情報処理技術

人間の五感である視聴覚や触覚に関する情報処理は、古くから様々に取り組まれてきました。今回はその中から触覚と聴覚に関する研究例を紹介します。具体的には、ロボットの指先に人間のような触り心地を理解できるセンサを組み込む触感センサ、触り心地を人工的に合成して呈示する触覚ディスプレイ、CD の音楽を AI を使って譜面にする自動採譜、音を自由に合成するミュージックシンセサイザなど、物理現象の応用からエンターテインメントまで幅広く活躍する技術の原理を探ってみましよう。

参考文献
特になし

【育成したい資質・能力のキーワード】

文理融合や分野横断的な研究テーマへの関心、オープンイノベーション

応仁の乱と明治維新

文学部人文社会学科歴史学コース

田中 希生 先生

1467年に起こった応仁の乱、1868年の明治維新、これら二つの事件のあいだには、およそ400年の歳月が流れています。一方は中世後期に、他方は近代の初頭に位置付けられるこの二つの事件が、じつは深いところで関係しているということは、歴史をただ年代記的に学んでいるだけではなかなか気づかないところがあります。

それでは、どういう意味で関係しているのでしょうか。それは、人間が生きるという本質から考えたときに、関係しているといえるのです。ですから、歴史に興味のあるひとだけでなく、「人間」に興味をもつひとにも、この講義は開かれています。われわれは戦乱や混沌のなかから、新しい秩序をいくつか生み出していますが、応仁の乱・戦国時代から400年かけて生み出されたわれわれの時代、すなわち「近代」への道のりを、一緒にたどっていきましょう。

参考文献

田中希生（2021）『存在の歴史学—近代日本における未成の者たち—』有志舎

【育成したい資質・能力のキーワード】

人間をたんなる情報ではなく、存在から考える力

「心理テスト」の作り方

生活環境学部心身健康学科臨床心理学コース

時岡 良太 先生

心理学には多様な分野が含まれていますが、そのうちの一つである「臨床心理学」は、心理面において悩みや問題を抱える人々に対してよりよい支援を提供するための学問です。専門的な心理支援職の主な仕事として、まずはカウンセリングなどの心理療法が挙げられますが、もう一つ重要なものとして、「心理アセスメント」と呼ばれるものがあります。これは、心理的支援を必要とする人について、それまでの経緯やその人が持っている性格的な特性・能力・環境などを総合して、現在の心理面の状態について心理学的な見地から説明しようとするものです。この心理アセスメントを行う際にしばしば用いられるのが「心理テスト」です。みなさんも心理テストという言葉はおそらく聞いたことがあるでしょうし、テレビで見かけたという人や、インターネットでやったことがあるという人も多いのではないのでしょうか。ただし、テレビや SNS などで見かける「心理テスト」のほとんどは、根拠が乏しいか不明確な代物で、心理的支援の現場で用いられるものとは違います。実際に心理臨床の現場で用いられるのは、しっかりとした理論的基盤や客観的根拠によって裏付けられた、信頼性・妥当性を持ったテストであり、これらは臨床現場に加えて、臨床心理学の研究においてもよく用いられています。

この授業では、臨床心理学において用いられている「心理テスト」について、それがどのようなものか、どのように作られるのか、どのように臨床実践および研究において使われているのか等について学びます。人の心という目に見えないものを、臨床や研究に役に立てるために客観的に把握するためにはどのようにすればよいのか、一緒に考えてみましょう。

【授業概要】

1. 「心」の測定についての概論

臨床心理学において、人の心を客観的に捉えるための方法論にはどのようなものがあるのか説明します。

2. 「心理テスト」の作成過程

臨床心理学の臨床現場と研究において使われる心理テストについて、作成のための方法論や、使用例について説明します。

【育成したい資質・能力のキーワード】

データの意味を読み取る力、現象を多角的に把握する力

でたらめな数列を作るには

理学部数学コース

篠田 正人先生

統計学は数学の一分野というよりも、広く社会生活の礎をなす大切な学問であり道具でもあります。その統計学の利用の一例として「乱数」について調べ考えてみましょう。

82148086513282306647093844609550582231725359408128481117450284102701938521105559

この数字の列（以下、数字が並んだ列を「数列」と呼ぶことにします）は「でたらめ」なのでしょう。それとも何か法則があって並んでいるのでしょうか。「でたらめ」であるかどうかを判定するには「判定基準」が必要です。ではその判定基準とはなんなのでしょう？こうした判定では数値だけが用いられるわけではなく人間の判断も介入しています。統計学における知識だけでなく、信頼できる正しい判断をするための心構え、統計リテラシーというものもいっしょに学んでいきましょう。

1. 「確率・統計の基礎事項」

みなさんはこれまでに統計資料の整理方法や統計量とは何か、そして簡単な確率の計算について学んでいます。1回目の講義ではこれらの確率・統計の必要事項について復習し、またこれから必要な推定・検定について概略をつかみます。具体的には数学Iで学んだ「データの分析」（平均、分散、標準偏差、散布図、共分散、相関係数）と数学Aで学んだ「場合の数と確率」（確率の基本法則、独立性、条件付き確率）について簡単に振り返り、数学Bの教科書を用いて二項分布・正規分布・簡単な検定の例、について学びます。

2. 「乱数とは何か」

乱数、すなわちでたらめな数列を作るためにまず「でたらめ」とは何か、どのように判定するか、について考えます。コインやさいころを繰り返し投げた結果から作る数字の列はおそらくでたらめな数列になりますが、その数字だけを見て「これは乱数列である」とわかるのでしょうか。逆に、人の手で作った数列にはその人の癖が出るのがよくあります。そうした癖を見抜くにはどうしたらよいのでしょうか。「大数の法則」「中心極限定理」といった統計学の知識にも触れながら学んでいきます。

3. 「乱数を作ろう」

ここまで学んできたことを基にして乱数を作ってみましょう。一度にたくさんの乱数を作るにはコンピュータの助けが必要になります。「プログラムの記述通りに動作する」コンピュータが「でたらめな」数字を出力する、とは矛盾しているように思えないでしょうか？「乱数」と「疑似乱数」の違いや、機械に乱数を発生させるための注意点についても学びましょう。時間に余裕があれば、作った乱数を用いた簡単な数値実験も行ってみましょう。

育成したい資質・能力のキーワード

確率・統計の基礎知識、統計リテラシー、アルゴリズム設計